2010年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　05＜通期＞	
梅　本　哲　世	4単位

【講義概要】
この演習では、大学で4年間充実した生活を送るための必要な知識や能力を身につけることを目標とする。とりわけ、経済学部の学生として、現在の日本経済で起こっているさまざまな経済・社会現象について知り、今後の経済学の学習につなげていくことを目指している。

【学習目標】
1．基本的な学習の方法（大学と高校の違い、レジュメの作成法、図書館の利用など）を身につける。
2．経済学を学ぶ前提として、日本の主要な経済・社会問題について関心を深める。
3．グループ（班）単位で一つのテーマを深めレポートを作成する。

【講義計画】
第1回　春学期は、日本の経済・社会問題について、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使って理解を深める
　秋学期は、前期に引き続き日本の経済・社会問題について深めつつ、班分けして各班で一つのテーマを選んでレポートを作成する。その成果を、研究発表大会で各班単位で報告する。
　第1回　演習ガイダンス・自己紹介
第2回　図書館ガイダンス
第3回　現代日本の貧困について考える　その1
第4回　現代日本の貧困について考える　その2
第5回　現代日本の貧困について考える　その3
第6回　地球温暖化について考える　その1
第7回　地球温暖化について考える　その2
第8回　地球温暖化について考える　その3
第9回　戦争と平和について考える　その1
第10回　戦争と平和について考える　その2
第11回　戦争と平和について考える　その3
第12回　日本経済の現状について考える　その1
第13回　日本経済の現状について考える　その2
第14回　日本経済の現状について考える　その3
第15回　春学期の復習と秋学期の学習方針
第16回　班分けと研究テーマの設定
第17回　レポートの作成法と図書館の利用
第18回　各班の調査・学習と発表
第19回　各班の調査・学習と発表
第20回　各班の調査・学習と発表
第21回　各班の調査・学習と発表
第22回　研究テーマについて（教員からのアドバイス）
第23回　中間発表会
第24回　各班の調査・学習と発表
第25回　各班の調査・学習と発表
第26回　各班の調査・学習と発表
第27回　各班の調査・学習と発表
第28回　研究発表大会

【成績評価の方法】
出席60%　試験（小テスト）10%　レポート20%
出席点には、出席状況だけでなく授業態度も含める。

【参考文献】
教科書は使用しない。参考文献は適時紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　06＜通期＞	
桂　　昭　政	4単位

【講義概要】
ほとんどの大学生は4年後卒業し働かざるを得ないが、現在の就職状況は大変厳しいし、今後も景気のいかんに関わらずあまり好転しないと思われる。しかも日本では新卒採用にのりおくれるとなかなか正規雇用(正社員)へのみちは大変厳しい状況にある。大学入学してまだ4年間があるとはいえ、今から就職への対応を準備し、そのときになってあわてないのが肝要である。「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」といわれるとうり、現在の雇用形態、会社の実態を勉強することにより、自分にあった職場をみつける手がかりをこの授業で得ることができればと思っている。

【学習目標】
4年後の就職に備えて雇用形態、会社の実態を把握する力をこの授業を通じて今後各自が磨いていけるようになればと思っている。この授業はあくまでもそのひとつのステップにすぎない。この授業をもとにして各自で練磨していってほしい。この授業ではレポート作成、およびその報告がメインとなるので読書に積極的になり、レポート作成に対しても抵抗感がなくなればと思っている。

【講義計画】
第1回　この授業に関するガイダンス
第2回　図書館ガイダンス
第3回　情報センターガイダンス
第4回　テキスト(教科書)の解説（テキストはいずれも新書を使用）
第5回　年間使用する第1冊目のテキストのレポート報告、討議
第6回　年間使用する第1冊目のテキストのレポート報告、討議
第7回　年間使用する第1冊目のテキストのレポート報告、討議
第8回　これまでのレポート報告に対するコメント、討議
第9回　年間使用する第1冊目のテキストのレポート報告、討議
第10回　年間使用する第1冊目のテキストのレポート報告、討議
第11回　年間使用する第1冊目のテキストのレポート報告、討議
第12回　これまでのレポート報告に対するコメント、討議
第13回　年間使用する第2冊目のテキストのレポート報告、討議
第14回　年間使用する第2冊目のテキストのレポート報告、討議
第15回　年間使用する第2冊目のテキストのレポート報告、討議
第16回　これまでのレポート報告に対するコメント、討議
第17回　年間使用する第2冊目のテキストのレポート報告、討議
第18回　年間使用する第2冊目のテキストのレポート報告、討議
第19回　年間使用する第2冊目のテキストのレポート報告、討議
第20回　これまでのレポート報告に対するコメント、討議
第21回　年間使用する第3冊目のテキストのレポート報告、討議
第22回　年間使用する第3冊目のテキストのレポート報告、討議
第23回　年間使用する第3冊目のテキストのレポート報告、討議
第24回　これまでのレポート報告に対するコメント、討議
第25回　年間使用する第3冊目のテキストのレポート報告、討議
第26回　年間使用する第3冊目のテキストのレポート報告、討議
第27回　年間使用する第3冊目のテキストのレポート報告、討議
第28回　これまでのレポート報告に対するコメント、討議
第29回　1年間の授業の総括

【成績評価の方法】
試験：0　%　出席、宿題レポート：85%　学期末(春学期、秋学期)課題レポート：15%
　出席、レポートに対する評価は、授業に出席し、ほぼ毎回の宿題レポートの報告および提出に対してである。出席のみで宿題レポートの提出がない場合は不合格となる。

【教科書】
開講時に指示する(年間、新書3冊使用)

【参考文献】
適宜指示する

【備考】
【準備学習の指示】
（イ）授業当日のレポート報告に向けて、テキストを熟読しレポートを作成すること。
（ロ）この授業のテーマに関連する正社員、派遣社員等々の雇用の話題や各種の企業(会社)の動向についての新聞等の記事を常に読むように努めること。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　07＜通期＞	
厳　　善　平	4単位

【講義概要】

バブルが崩壊した1990年代初め以降の20年近くの間に、日本の国内総生産が名目値ではほとんど増えていない。グローバリゼーションが急速に進展し、IT(情報技術)の普及もあって、労働市場における非正規雇用の急増がもたらされている。パイが大きくならない中での再分配＝奪い合い(世代間・地域間・階層間など)が繰り広げられている。持てる者と持たざる者の間に様々な形の格差が広がり、豊かさの中の貧困が目立つようになっている。

この演習では、身近に存在する格差と貧困という社会問題を様々な側面から考え、みんなで議論することを主な内容としている。小人数のクラスという利点を活かし、全員参加型の授業運営をめざす。

授業の進行状況を見て、受講生と相談の上、授業の進め方や内容の微調整を行うことがある。

【学習目標】

豊かな現代(日本)社会に潜む格差・貧困という、目に見えざる社会問題の実態を把握し、その背景を深く理解できることを目標としている。それを通して、経済学の考えで物事を見るセンスを身につけてもらう。

【講義計画】

第１回　授業の進め方、受講者の心構え、成績の評価方法などについて説明する。
第２回　イントロダクション:貧困から格差へ
第３回　男女の働き方に見る現代の貧困
第４回　女性問題としての高齢者の貧困と格差
第５回　地域間格差の現状と「都市再生」
第６回　貧困・低所得問題と社会福祉
第７回　格差と税制
第８回　格差と移住労働者問題
第９回　NHKドキュメンタリー放映
第10回　雇用融合の現場から:日雇い派遣、偽装請負を取材して
第11回　豊かな社会の貧困問題:多重債務
第12回　医療格差問題入門
第13回　格差・貧困社会と障害者の自立支援
第14回　NHKドキュメンタリー放映
第15回　総括・討論
第16回　貧困家庭の子育て・子育ち
第17回　「格差」是認の政策思潮の源流
第18回　アメリカにおける経済格差と労働市場
第19回　EUにおける格差と貧困:社会的排除問題を考える
第20回　アジアにおける格差と貧困
第21回　NHKドキュメンタリー放映
第22回　雇用の未来は明るいか
第23回　みんなが明るい顔で働く社会を目指して
第24回　「格差社会」にどう立ち向かうか
第25回　自由と平等はいかにして両立するか
第26回　貧困と格差をなくすために私たちにできること
第27回　NHKドキュメンタリー放映
第28回　授業の総括・復習
第29回　レポートの発表・討論
第30回　レポートの発表・討論

【成績評価の方法】

試験　０％　レポート　50%　出席　50%

少人数の演習なので、ペーパー試験は行わない。レポートは２回、それぞれに25点とする。出席点は発表の準備および討論への参加状況を基に決定する。

【教科書】

牧野富夫・村上英吾 格差と貧困がわかる20講 明石書店

【参考文献】

『日本経済新聞社』などの関連記事をコピーして配布する。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　08＜通期＞	
義　永　忠　一	4単位

【講義概要】

研究テーマは、「アクション別経済入門」です。アクションとは、入学したあなたたち自身と、担当教員である義永が起こすものです。これから始まる４年間の大学生活の中で、あなたたちは「経済」に関する様々な知識（経済学の研究方法）を身につけます。これは、社会に出る際に大きな力となります。しかし大学生活は、「勉強」するだけではありません。友人を得て、これまでとは異なる人間関係を築くことも非常に重要です。

この演習Ⅰでは、同じ演習Ⅰに参加する人たちとコミュニケーションを取り、お互いを「知る」というアクションから始めます。そして義永が起こす様々なアクションを通じて、演習Ⅰ参加者同士が互いに協力しながら、「経済学」を学ぶ為の基礎力を身につけます。

【学習目標】

演習Ⅰの目標は、あなたたちが大学において「経済の何を学びたいか」を明らかにすることを最大の目標とします。これは、あなたたちが卒業後に「何をしたいのか」にも通じることです。１年間を通じて一緒に探していきましょう。

その為にも、演習開始の最初の５～10分間に、時事問題を１つずつ義永が紹介します。毎回演習開始と同時に行いますので、演習開始の少なくとも５分前には入室していてください。このように社会のルール（メールのマナーなども含みます）を改めて身につけていくことも、目標の一つとして掲げます。

最後の学習目標は、演習Ⅰ参加者全員が目標である「経済の何を学びたいか」を発見することです。脱落者を出すことなく、互いに協力し合い一つのチームとして演習Ⅰを行っていきましょう。

【講義計画】

第１回　毎回演習開始５～10分間、義永が時事問題を紹介します。「経済の何を学びたいか」について、義永が毎回紹介する時事問題の中から興味がある分野を探しても構いません。それ以外で、あなたたち自身が関心ある分野を見つけてももちろん構いません。作業などは、基本的に班（３～５人）で行います。アクションは、全部で⑩あります。具体的内容は、以下に簡単ではありますが示しておきました。あなたたちと相談のうえ、変更することも可能です。さらに、チームワークを深めるためにゲームを取り入れます。現在、南仏のボールゲーム、ペタンクを予定しています。
第１回
アクション①「知る」－１：「知りあう」演習Ⅰの概要と自己紹介（映像つき）
第２回　アクション①「知る」－２：もう少し深く「知りあう」（ゲーム）
第３回　アクション①「知る」－３：大学について「知る」
第４回　アクション①「知る」－４：図書館ガイダンス（あなたの興味はどこにある？）
第５回　アクション②「考える」「話し合う」－１：あなたの興味、私の関心
第６回　アクション③「伝える」－１：まずは伝えてみよう！
第７回　アクション④「使う」－１：コンピュータを使ったプレゼンテーション
第８回　アクション④「使う」－２：コンピュータを使ったプレゼンテーション（続き）
第９回　アクション②「考える」「話し合う」－２：あなたの興味、私の関心 についてもう一度考える。
第10回　アクション③「伝える」－２：より分かりやすく伝えてみよう！
第11回　アクション⑤「練習する」－１：書く技術・聴き取る技術
第12回　アクション⑤「練習する」－２：お互いにやってみよう！
第13回　アクション②「考える」「話し合う」－３：夏季休暇中の課題を考える。
第14回　アクション⑥「行き来する」－１：春期のまとめ
第15回　アクション⑦「分かち合う」：夏季休暇中の課題を発表する。秋期の進め方
第16回　アクション①「知る」－５：「時事問題①」（資料購読・映像観賞 ）
第17回　アクション②「考える」「話し合う」－４：「時事問題①」
第18回　アクション③「伝える」－３：「時事問題①」（ディスカッション）

第19回　アクション⑧「休む」－１：ゲーム
第20回　アクション①「知る」－６：「時事問題②」（資料購読・映像観賞 ）
第21回　アクション②「考える」「話し合う」－５：「時事問題②」
第22回　アクション③「伝える」－４：「時事問題②」（ディスカッション）
第23回　アクション⑧「休む」－２：ゲーム
第24回　アクション⑥「行き来する」－２：これまでを振り返る。興味を絞り込む。
第25回　アクション⑨「調べる」－１
第26回　アクション⑨「調べる」－２
第27回　アクション⑩「まとめる」
第28回　アクション⑥「行き来する」－３：振り返る。

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　20%　出席　80%
出　席80%（内訳：参加する姿勢【参加者の相互評価含む】40%、提出物40%）
発　表（レポート）20%（【参加者の相互評価含む】期限を守れるかも判断基準に含む）

「提出物」とは、毎回演習開始５～10分間義永が行う時事問題のまとめ、感想、当日行った作業など様々です。
「発表」とは、アクション③「伝える」でのパフォーマンスを評価します。

【教科書】
使用しません。随時、プリントを配布します。

【参考文献】
武田丈・亀井信孝『アクション別フィールドワーク入門』世界思想社、2008年。

【備考】
準備学習の指示
授業計画の第１回目を参照してください。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　09＜通期＞	
滝　田　和　夫	４単位

【講義概要】
この演習では、はじめに数回、自己紹介や図書館、パソコンなどのガイダンスを行う。その後第20回目頃までは、毎回の演習において、社会・経済問題に関する論説や新聞記事を読んでいく。そこでは、あらかじめ決めた報告者の報告に基づき討論していく。また時々、指定した課題について全員にレポートを提出していただく。夏休み前頃に各人が自分の研究テーマを設定し、夏休み中にその研究テーマに関する文献や資料を調査する。第21回目頃からの演習においては、各人が自分の研究テーマについて調べたことを発表し、それに対する討論を行っていく。この研究報告の１回の報告者は数名とし、この報告と討論を経て、最終的にある程度まとまった分量の研究レポートを全員に提出していただく。
なお、（イ）最初の数回で行なう図書館、パソコンガイダンスについては、予約の都合によりガイダンス日程が変更になるかもしれないこと、また（ロ）これは演習科目なので、学生の理解・関心・討論状況等によって多少の予定変更があるかもしれないことを了解願いたい。

【学習目標】
この演習では二つのことを目標にしたい。一つは、これからの大学生活を送っていく上で必要な理解・表現能力を身につけること。もう一つの目標は、経済学部の学生として現代の社会・経済問題にある程度馴れ親しむことである。

【講義計画】
第１回　演習ガイダンスと自己紹介
第２回　図書館ガイダンス
第３回　パソコンガイダンス　1
第４回　パソコンガイダンス　2
第５回　パソコンガイダンス　3
第６回　格差社会について　1
第７回　格差社会について　2
第８回　少子高齢化について　1
第９回　少子高齢化について　2
第10回　BRICs経済について　1
第11回　BRICs経済について　2
第12回　金融危機について　1
第13回　金融危機について　2
第14回　各人の研究テーマの設定について
第15回　日本の財政問題　1
第16回　日本の財政問題　2
第17回　資源・環境問題　1
第18回　資源・環境問題　2
第19回　世界の貧困問題　1
第20回　世界の貧困問題　2
第21回　各人の研究報告　1
第22回　各人の研究報告　2
第23回　各人の研究報告　3
第24回　各人の研究報告　4
第25回　各人の研究報告　5
第26回　各人の研究報告　6
第27回　各人の研究報告　7
第28回　各人の研究報告　8

【成績評価の方法】
試験　10%　レポート　40%　出席　50%
上の試験とは時々書いてもらう要約等のことであり、またレポートは報告を含む。

【教科書】
テキストは指定せず、随時プリントを配布する。

【参考文献】
随時指示する。

【備考】
【準備学習の指示】事前に配布するプリントを一読しておくのが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　10＜通期＞	
竹　原　憲　雄	４単位

【講義概要】
1）グループ学習をする。
2）日本経済社会の問題を扱う。
3）グループごとに話し合って扱うテーマを決める。
4）そのテーマを理解するためのキーワードを決め、このキーワードを中心に　担当者(複数)が調べ、レジュメ(要約)を作って報告する。担当しない同じグ　ループの人は報告をフォローするよう調べてくる。
5）他のグループの人はその報告について意見・感想を述べ、評価文を書く。
6）その意見・感想について、さらに担当者あるいは同じグループの人が説明　を加え、お互いの理解を深める。
7）各テーマに関連するビデオを見たり、新聞・雑誌の記事を解説する。

【学習目標】
コミュニケーション力をつけ、いろいろな違った意見や考え方を吸収しながら、日本経済についての理解を深め、経済を見る目を養っていく。
そのうえで、なによりも高校生から大学生への学びの切り替えのスイッチを入れる場にしていく。

【講義計画】
第１回　ガイダンス。グループ分け、自己紹介。
第２回　グループごとのテーマを決める。
第３回　テーマのキーワードを決めて、分担を話し合う。レジュメについて説明する。
第４回　図書館ガイダンス
第５回　情報センターでパソコン利用のガイダンス
第６回　チャペル講話
第７回　テーマに関係するビデオの利用と内容の要約、感想・意見交換①
第８回　同上②
第９回　設定テーマについての報告と相互評価①
第10回　同上②
第11回　同上③
第12回　同上④
第13回　同上⑤
第14回　春学期のまとめ、各グループで夏休み中に調べるテーマの設定
第15回　秋学期のガイダンス、夏休み中のテーマに関する報告と意見交換、相互評価①
第16回　同上報告②
第17回　同上③
第18回　同上④
第19回　最近の日本経済解説
第20回　新しいテーマの設定
第21回　キーワードを決め分担を話し合う。
第22回　テーマに関係したビデオの利用、関係記事等の紹介①
第23回　同上②
第24回　設定したテーマについて報告、意見交換、相互評価①
第25回　同上②
第26回　同上③
第27回　同上④
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　70%
報告担当の時間は絶対に休まないこと。

【教科書】
使用しない。

【参考文献】
その都度紹介する。

【備考】
担当のテーマについては協力してレジュメを作成し報告すること。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　11＜通期＞	
辻　　洋一郎	４単位

【講義概要】
入学おめでとうございます。
本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰しもすぐにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。そこでこの「演習Ⅰ」では、次年次以降の演習科目で成果が上がるために必要な、①考え方の技術や②演習の作法を学習します。

【学習目標】
春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。
以下の授業計画は、順不同で行います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　図書館ガイダンス
第３回　建学の精神を学ぶ（チャペル見学）
第４回　情報センターガイダンス
第５回　リテラシー能力を鍛える①
第６回　リテラシー能力を鍛える②
第７回　リテラシー能力を鍛える③
第８回　リテラシー能力を鍛える④
第９回　リテラシー能力を鍛える⑤
第10回　リテラシー能力を鍛える⑥
第11回　リテラシー能力を鍛える⑦
第12回　リテラシー能力を鍛える⑧
第13回　リテラシー能力を鍛える⑨
第14回　春学期のまとめ
第15回　秋学期のオリエンテーション
第16回　春学期の復習
第17回　コミュニケーション能力を鍛える①
第18回　コミュニケーション能力を鍛える②
第19回　コミュニケーション能力を鍛える③
第20回　コミュニケーション能力を鍛える④
第21回　コミュニケーション能力を鍛える⑤
第22回　コミュニケーション能力を鍛える⑥
第23回　コミュニケーション能力を鍛える⑦
第24回　コミュニケーション能力を鍛える⑧
第25回　コミュニケーション能力を鍛える⑨
第26回　コミュニケーション能力を鍛える⑩
第27回　コミュニケーション能力を鍛える⑪
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　100%
都度出題する課題の出来具合と講義への積極性などで判断します。

【参考文献】
都度、指示します

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　12＜通期＞ 演習Ⅰ　13＜通期＞	
唐　　成	4単位

【講義概要】
近年のアメリカ発の金融危機がもたらした世界経済の大幅な減速に象徴されたように、経済・金融現象の変化が我々の日常生活にいい意味でも悪い意味でも影響を与えるという仕組みになっている。であるなら、こうした金融・経済現象が自分の生活にどのように影響するかを知ることはとても重要な意味を持つ。本演習は日本経済の統計データをもとに、世界経済にも足を踏み入れ、それぞれ経済現象を分析的に見るだけにとどまらず、それらの現象間に働いている基本的な因果関係を学ぶことを主眼とする。

【学習目標】
・大学生活に必修のノウハウとコミュニケーション能力を身につける。
・日本経済と世界経済に関する一般的な知識を取得する。

【講義計画】
第１回　演習内容のオリエンテーション
第２回　図書館ガイダンス
第３回　桃山学院大学の歴史を学ぶ
第４回　パソコンを活用する(１)
第５回　パソコンを活用する(２)
第６回　パソコンを活用する(３)
第７回　学びの方法を知る(１)
第８回　学びの方法を知る(２)
第９回　学びの方法を知る(３)
第10回　学びと社会のつながりを知る
第11回　大学生活の目標を立てる
第12回　個人発表(１)
第13回　個人発表(２)
第14回　書評の書き方と夏期の宿題
第15回　映画(DVD)をみる
第16回　日本経済のテキスト輪読(１)
第17回　日本経済のテキスト輪読(２)
第18回　日本経済のテキスト輪読(３)
第19回　日本経済のテキスト輪読(４)
第20回　日本経済のテキスト輪読(５)
第21回　日本経済のテキスト輪読(６)
第22回　世界経済のテキストの輪読(１)
第23回　世界経済のテキストの輪読(２)
第24回　世界経済のテキストの輪読(３)
第25回　世界経済のテキストの輪読(４)
第26回　世界経済のテキストの輪読(５)
第27回　グループワークプレゼンテーション(１)
第28回　グループワークプレゼンテーション(２)
第29回　グループワークプレゼンテーション(３)
第30回　演習Ⅰの総括

【成績評価の方法】
出席状況、報告、討論への積極性などを重視したい。

【教科書】
未定

【参考文献】
ゼミの中で紹介する

【備考】
データで読み解く日本と世界経済

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　14＜通期＞	
藤　間　　真	4単位

【講義概要】
入学おめでとうございます。
本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰しもすぐにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。
そこでこの「演習Ⅰ」では、大学生活で成果が上がるように、①考え方の技術②演習の作法を実習を通じて学びます。
また、高校までと違い、大学では「ホームルーム」というものがありませんが、この「演習I」はホームルーム的な意味も込めて講義運営いたします。

【学習目標】
世界市民として学び生きるための基礎的な力を涵養することがこの講義の目標です。
そのために、
①考え方の技術
②演習の作法
を会得することを目的とします。

【講義計画】
第１回　春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。
その後、下記の事項について扱っていきますが、一年生配当・クラス分け指定という設定も含めた科目の性質上、提出された課題の内容に応じて、予定を組み替えることが必要となることが予想されます。
詳細は、授業中に扱います。
第２回　桃山学院大学に慣れる(１)
第３回　桃山学院大学に慣れる(２)
第４回　桃山学院大学に慣れる(３)
第５回　桃山学院大学に慣れる(４)
第６回　コミュニケーションの受け手として(１)
第７回　コミュニケーションの受け手として(２)
第８回　コミュニケーションの受け手として(３)
第９回　コミュニケーションの送り手として(１)
第10回　コミュニケーションの送り手として(２)
第11回　コミュニケーションの送り手として(３)
第12回　思考の方法(１)
第13回　思考の方法(２)
第14回　思考の方法(３)
第15回　中間まとめ
第16回　社会問題について調べてまとめる(１)
第17回　社会問題について調べてまとめる(２)
第18回　社会問題について調べてまとめる(３)
第19回　社会問題について調べてまとめる(４)
第20回　共同で調べてまとめる(１)
第21回　共同で調べてまとめる(２)
第22回　共同で調べてまとめる(３)
第23回　共同で調べてまとめる(４)
第24回　レポート作成(１)
第25回　レポート作成(２)
第26回　レポート作成(３)
第27回　総合演習(１)
第28回　総合演習(２)
第29回　総合演習(３)
第30回　総合演習(４)

【成績評価の方法】
出席　100%
出席点が100%になっていますが、物理的に出席していれば単位が認定されると言う意味ではありません。
出席は当然として、その上で、活動への参加状況、課題の提出状況等で評価します。
やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員にメール(m.tohma[at]andrew.ac.jp)で連絡すること。([at]を@に変えてください)

【参考文献】
教科書については、第一回の講義の際に説明します。

【備考】
【準備学習】
毎回指示します。

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　15＜通期＞	
中　村　勝　之	４単位

【講義概要】

それなりの努力をして自由を(本当の意味で)謳歌できる大学にせっかく入学できたのだから、思いっきり遊んでやろう…そういう「幻想」を根底から破壊し、来るべき大学卒業後に備えて今から力を蓄えるために、この演習は開講される。そのためにこの演習では２つの目標を掲げ、それに向かって邁進して行く予定にしている。

１つ目の目標は、何がしかの「資格」を取得することである。しかし聞こえは良くても実際には役に立ちそうにない資格も（思いの他）たくさんあるので、ここでは「簿記３級」の取得を目指す。その理由は、実際の企業活動がどんなことをしているのかを簿記の勉強を通じてイメージしてもらうことと、２つ目の目標を達成するのに必要不可欠の知識だからである。

２つ目は、就職活動する上で敵である企業の「実態を暴き出そう」とするための手法の習得を目指す。イメージが良さ気な企業だとしても、本当に（自分にとって）いい企業なのか不明な場合がほとんどである。それ以前に、自分が就職した後でもその企業が継続的に仕事していけるのか、言い換えるとそれだけ儲かっているのかを知る必要がまずある。

やって行くうちに分かってくるが、この演習は他の演習に比べるとやるべきハードルを意識的に高く設定している。しかし実社会の厳しさはこんなものではない。この点だけは肝に銘じて受講に臨んで頂きたい。

【学習目標】

①簿記３級合格
②経営分析
この２つをじっくり目指す。

【講義計画】

第１回　ガイダンス
（以下は簿記検定試験のスケジュールで講義進行が変更する場合がある）
第２回　図書館ガイダンス
第３回　希望進路先ランキング
第４回　採用予定者ランキング
第５回　簿記(１)
第６回　簿記(２)
第７回　簿記(３)
第８回　簿記(４)
第９回　簿記(５)
第10回　簿記(６)
第11回　簿記(７)
第12回　簿記(８)
第13回　簿記(９)
第14回　簿記（10）
第15回　中間試験（簿記）
第16回　簿記（11）
第17回　簿記（12）
第18回　簿記（13）
第19回　簿記（14）
第20回　簿記（15）
第21回　簿記（16）
第22回　簿記（17）
第23回　経営分析入門(１)
第24回　経営分析入門(２)
第25回　レポート作成実習(１)
第26回　レポート作成実習(２)
第27回　レポート作成実習(３)
第28回　レポート作成実習(４)
第29回　本演習のまとめ

【成績評価の方法】

試験　100%　レポート　100%　出席　０%
①コースワーク（簿記の宿題）
②中間試験（簿記３級レベル）
③秋学期レポート（経営分析）
上記３つの材料から、上位２つを加重平均する。
なお2010年11月実施の簿記３級の試験に合格した場合には、特別の加点措置を行う。

【教科書】

渡部裕亘・片山覚・北村敬子 新検定簿記講義３級（商業簿記）中央経済社
これは2009年度版につき、2010年度版を購入のこと
渡部裕亘・片山覚・北村敬子 新検定簿記ワークブック３級（商業簿記）中央経済社
これは2009年度版につき、2010年度版を購入のこと

【参考文献】

適宜指示する

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　16＜通期＞	
西　川　憲　二	４単位

【講義概要】

大学生活入門からはじめ、働き方や働くということの意味を考える。そして、社会問題、経済問題を考え議論する。

【学習目標】

社会経済問題について、考える力、議論する力、要約する力を向上させる。

【講義計画】

第１回　授業の進め方
第２回　図書館ガイダンス
第３回　情報センターガイダンス
第４回　チャペルガイダンス
第５回　ビデオ教材のテーマの選択
第６回　ビデオをみて議論し要約する
第７回　ビデオをみて議論し要約する
第８回　ビデオをみて議論し要約する
第９回　ビデオをみて議論し要約する
第10回　ビデオをみて議論し要約する
第11回　ビデオをみて議論し要約する
第12回　ビデオをみて議論し要約する
第13回　ビデオをみて議論し要約する
第14回　ビデオをみて議論し要約する
第15回　ビデオをみて議論し要約する
第16回　新聞記事からの発表と議論と要約
第17回　新聞記事からの発表と議論と要約
第18回　新聞記事からの発表と議論と要約
第19回　新聞記事からの発表と議論と要約
第20回　新聞記事からの発表と議論と要約
第21回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第22回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第23回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第24回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第25回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第26回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第27回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約
第28回　新聞の経済記事からの発表と議論と要約

【成績評価の方法】

レポート　30%　出席　70%

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　17＜通期＞	
前　田　治　郎	4単位

【講義概要】
大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題（だからこそ研究に値する）を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ（概要）を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。

【学習目標】
インターネットをはじめ、我々は溢れるような情報にさらされている。その中から有益なもの、必要なものを整理し、身につける術を学べば、社会や経済を観る目が鍛えられるはずである。こうした能力を、実際の作業を通じて向上させたい。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明
第２回　図書館、情報センターなどのガイダンス
第３回　図書館、情報センターなどのガイダンス
第４回　図書館、情報センターなどのガイダンス
第５回　主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
第６回　主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
第７回　主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
第８回　主要新聞の2009年年頭社説の読み比べ
第９回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第10回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第11回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第12回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第13回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第14回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第15回　各自のテーマ設定
第16回　各自のテーマ設定
第17回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第18回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第19回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第20回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第21回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第22回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第23回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第24回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第25回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第26回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第27回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第28回　講義のまとめ

【成績評価の方法】
レポート　40%　出席　60%

科目名　クラス　講義区分	
演習Ⅰ　18＜通期＞	
松　尾　　純	4単位

【講義概要】
いま、皆さんは、大学の経済学部に入学したけれども、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉学していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして　4年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。
この演習Ⅰは、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。
この演習Ⅰが、学生生活一般・勉学・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと考えています。

【学習目標】
上記の演習を通じて、大学４年間の学習･研究を、有意義に進めていくための意識を高めるとともに、それを実現する素地・素養を獲得することを学習目標にする。

【講義計画】
第１回　演習Ⅰ全体の概説。授業の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
第２回　大学生活に馴染むためのプログラム――①。キャンパス見学。
第３回　同上――②。カリキュラム・ガイダンス。
第４回　同上――③。情報センターに行ってE-Mail・インターネット等を使えるようになろう。
第５回　同上――④。図書館を上手に利用し情報を効率的に取得・利用できるようになろう。
第６回　最近話題の社会問題について話し合ってみようⅠ――①。（６回程度）
教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
話し合ったことの要約（＝レジュメ）を作成してみよう。
第７回　同上――②。
第８回　同上――③。
第９回　同上――④。
第10回　同上――⑤。
第11回　同上――⑥。
第12回　最近話題の社会問題について話し合ってみようⅡ――①。（６回程度）
学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
話し合ったことの要約（＝レジュメ）を作成してみよう。
第13回　同上――②。
第14回　同上――③。
第15回　同上――④。
第16回　同上――⑤。
第17回　同上――⑥。
第18回　授業の中間総括。
第19回　研究テーマを設定して共同研究をやってみようⅢ――①。（６回程度）
学生数人がグループでテーマを設定して、共同研究をして、その研究結果を　報告し、討論をしてみよう。
第20回　同上――②。
第21回　同上――③。
第22回　同上――④。
第23回　同上――⑤。
第24回　同上――⑥。
第25回　共同研究のレポートを作成をしようⅣ――①レポートの書き方を学ぶ。
第26回　同上――②レポートを実際に書いてみる。
第27回　同上――③レポートを完成させる。
第28回　演習Ⅰ全体の総括。

【成績評価の方法】
出席などの平常評価と学期末に提出してもらう共同研究のレポートとを総合評価する。

【備考】
【準備学習の指示】
【講義計画】の１～５の期間は特段の準備学習は不必要である。【講義計画】の６～11の期間はその期間に話題となった社会問題の新聞・雑誌記事を詳しく読み、その問題や記事に対する自分の意見をまとめておくこと。【講義計画】の12～17の期間は、自分が報告担当者となった場合どの記事を選びどういう議論を皆と交わしたいかという観点から、その期間に話題となった社会問題の新聞・雑誌記事を詳しく読み、その問題や記事に対する自分の意見をまとめておくこと。【講義計画】の19～24の期間は共同研究発表のための準備を行っておくこと。【講義計画】の25～27の期間は共同研究報告書の作成の準備をしておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　01<春>	
阿　部　秀二郎	2単位

【講義概要】
この授業では、3年生・4年生に入り専門的な学習へ進むために、1年生に履修した知識や技術を利用して、その定着を図っていくことを目的とします。筋肉と骨格がバランスよくなければ、体力も向上しないように、学習を高めるためには、意欲や知識や技術や思考の柔軟性など、多くの要素が大切です。少人数であることを大切に、互いに切磋琢磨していきましょう。

【学習目標】
春学期なので、意欲やみなさんの有している知識・技術などの向上がまず目的になります。具体的には、みなさんの個人的な土壌に基づいて、基本的なテキストをまずしっかりと読み、書き、調べることがそれなりにできるようになることを目指します。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション。
　　自己紹介、他者紹介。
　　成績評価方法などについて、皆さんと議論していきます。
第2回　教科書を読む①
第3回　グループに分かれて、行動する
第4回　教科書を読む②
第5回　教科書を読む③
第6回　グループに分かれて、調べる
第7回　グループで調べる
第8回　グループで報告する
第9回　書く能力を育成する①
第10回　書く能力を育成する②
第11回　相互に、確認する
第12回　書く能力を育成する③
第13回　グループで、読み・調べ・書く①
第14回　グループで、読み・調べ・書く②
第15回　最終結果について議論する

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%　出席　0%
上の方法は、案です。初回の授業で議論します。

【教科書】
ロバート・H・フランク/月沢李歌子訳　日常の疑問を経済学で考える　日本経済新聞出版社

【備考】
いま「自分に甘い」ことは中長期的には、利益にならないと思います。積極的に参加してください。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　02<春>	
大　澤　　健	2単位

【講義概要】
21世紀の経済を語るときに、最も重要なキーワードは「グローバリゼーション」です。この講義では、グローバリゼーションにまつわる様々な事象にふれながら、現在の経済について考えていきます。

【学習目標】
経済についての基礎的な知識を習得するとともに、コミュニケーション能力の向上を目指していきます。教材の内容を理解する、まとめる、伝える、議論する、といった作業を通じて、議論を通じて考えを発展させていくコミュニケーションの仕方を学びましょう。

【講義計画】
第1回　ガイダンス　および自己紹介
第2回　自己紹介　続き
第3回　グローバリゼーションのキーワードについてのWS
第4回　グローバリゼーションのキーワード調査、まとめ
第5回　調査についての報告、討論
第6回　調査についての報告、討論
第7回　グローバリゼーションに関連するビデオ視聴
第8回　ビデオについてのレポート作成、調査
第9回　調査についての報告、討論
第10回　調査についての報告、討論
第11回　グローバリゼーションに関連するビデオ視聴
第12回　ビデオについてのレポート作成、調査
第13回　調査についての報告、討論
第14回　調査についての報告、討論
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　0%　レポート　40%　出席　60%
レポートは講義時間中に作成します。

【参考文献】
特にありません。

【備考】
経済新聞、一般紙の経済欄、経済ニュース等を継続的に見ておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　03<春>	
佐々木　和　子	2単位

【講義概要】
テーマは「食べる」こと。
春学期は「何を食べているのか」に焦点をあてる。
私たちは、「食べる」ことなしでは、生きていけない。
「食」を取り巻く現状を自らの生活を通して、認識し、
自分たちの足元からの問題点の解決方法を探る。

【学習目標】
1、自らの生活の中で、問題点をみつける。
2、問題点と日本社会の現状をリンクさせて考察する能力を育てる。
3、統計、資料によって、現状分析をおこなう。
4、調査内容を人に伝える。

【講義計画】
第1回　ガイダンス
以下の計画やテキスト、参考文献について説明し、
今後の進め方を履修者とともに考える。
ただ、演習であるので、授業計画は進行状況に応じて変更することがある。
第2回　自らの食生活についての考察
第3回　ワークショップ
第4回　質疑・討論
第5回　テキスト輪読1
第6回　テキスト輪読2
第7回　ワークショップ
第8回　質疑・討論
第9回　食の安全についての考察
第10回　テキスト輪読3
第11回　テキスト輪読3
第12回　ワークショップ
第13回　質疑・討論
第14回　研究発表

【成績評価の方法】
出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】
西日本新聞社「食　くらし」取材班著　食卓の向こう側　キャンパス編　西日本新聞社

【参考文献】
渡辺 雄二『食べてはいけない添加物 食べてもいい添加物』大和書房、2008年
安部 司『食品の裏側―みんな大好きな食品添加物 』東洋経済新報社 、2005年
森 達也『いのちの食べかた 』理論社、2004年

【備考】
【準備学習の指示】
「食」を軸に、日常生活の中から、自分たちの身の回りにおこっている問題を考えていきます。現在、私たちの暮らす日本社会では、世界中から食べ物を手に入れ、いつでも欲しい物を食べる事ができます。しかし、安全で安心な食べ物を手に入れるのは、そう簡単ではありません。一体私たちは、何を食べているのか、どこから手にいれているのか、もう一度問い直す必要があります。まず、「食」に関することで、現在話題になっている問題を、新聞や雑誌などで見つけておいてください。そこから、始めていきましょう。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　04<春>	
松　本　　誠	2単位

【講義概要】
21世紀社会は、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。
　こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。

【学習目標】
担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論するとともに、市民が担うまちづくり活動を実践してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方をともに学び、力をつけていきたい。
　授業の中では、作文やレポートの書き方を習熟するための添削指導なども重視し、社会人としての基礎的素養も身に付けることを目標とする。
　また、履修者と調整のうえ、まちへ出てタウンウオッチングしながらまちづくりの実際を学ぶフィールド学習も活用したい。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
<以下はおおよその計画。履修人数により変更する>
第2回　「まちづくり」とは何か　『上』
第3回　「まちづくり」とは何か　『下』
第4回　戦後の市民・住民活動の変遷と発展経過を降り返る（上）
第5回　戦後の市民・住民活動の変遷と発展経過を降り返る（下）
第6回　わが町を見直す視点
第7回　わが町の現状と課題をさぐるためのヒント
第8回　それぞれの町を紹介してみる
第9回　町の紹介をミニレポートにしてみる
第10回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第11回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第12回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第13回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第14回　テキストの輪読とコメント
第15回　テキストの輪読とコメント

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　50％　出席　50％
期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】
田村　明 まちづくりの実践 岩波新書
神野直彦 地域再生の経済学 中公新書

【参考文献】
田村　明著　「まちづくりの発想」（岩波新書）
地域情報会議編著　「地域の価値を創る」（時事通信社）
川村健一+小門裕幸著　「サステイナブル・コミュニティ」（学芸出版社）
松本　誠著　「市民が変える明石のまち」（文理閣）

【備考】
【全体の講義の進め方】
・本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。
　1．テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
　2．各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
　3．報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
　4．教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
　5．報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。
　6．学生諸君の日程の都合がつけば、街に出て暮らしの現場からの学び方を体験するフィールド学習も行う。
・テキストを輪読し、各章、各節ごとに発表者がレポートし、内容について理解と身近な問題に敷衍させて議論していく。
・したがって、各回のテーマや課題の設定は、演習Ⅱ出席したメンバーの人数や希望等によって柔軟に決めていく。
・テーマは、地域のまちづくりを進めていくための市民の役割や課題、具体的な実践を学ぶ。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　05<春>	
安　倉　良　二	2単位

【講義概要】
「都市商業の変化とまちづくり」
近年，郊外型ショッピングセンターが相次いで立地したことによって，古くからの商店街は衰退の一途をたどっている。日常生活の中でも，商店街と聞いてもピンと来ない学生も少なからずいるだろう。本演習は，経済地理学の立場から都市商業がどのように変化し，その中で商店街がどのような形で再生を模索しているのか，また商業環境の変化に取り残された人々の生活についても複数の文献を輪読しながら一緒に考えたい。

【学習目標】
日本の都市商業に関する今日的な見方を身につけてもらうことはもちろん，それを扱う学術書を堅苦しく捉えず，現実の問題と併せて楽しく読む力を養ってもらうことを目的とする。こうした見方は，地域経済の一端を理解することにもつながるだろう。

【講義計画】
第１回　演習の方法についてのガイダンスと担当者の割り当て
第２回　商店街に関する文献講読１
第３回　商店街に関する文献講読２
第４回　商店街に関する文献講読３
第５回　商店街に関する文献講読４
第６回　商店街に関する文献講読５
第７回　商店街に関する文献講読６
第８回　買物難民に関する文献講読１
第９回　買物難民に関する文献講読２
第10回　買物難民に関する文献講読３
第11回　買物難民に関する文献講読４
第12回　買物難民に関する文献講読５
第13回　買物難民に関する文献講読６
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
担当者を割り振って行う文献講読とその内容に基づく質疑応答への参加状況を重視したい。なお，レポートは文献講読をふまえて，商業とまちづくりの関わりについてどのような関心をもったのかについてまとめてもらうことを考えている。

【教科書】
三橋重昭 よみがえる商店街－５つの賑わい再生力－ 学芸出版社
前半部で使うテキストである。
杉田聡 買物難民－もうひとつの高齢者問題－ 大月書店
後半部で使うテキストである。

【参考文献】
三谷真ほか編(2009)：『都市と商業』税務経理協会
横森豊雄編(2008)：『失敗に学ぶ中心市街地活性化』学芸出版社

【備考】
【準備学習の指示】
担当者が一方的に知識を伝える講義とは違い，演習では学生自体の問題意識が反映される。したがって，本演習の受講者は演習の内容だけではなく，常日頃から新聞やテレビ，インターネットを通じて商業・流通に関するトピックに目を通しておくことを薦めたい。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　06<春>	
吉　川　真　裕	2単位

【講義概要】
株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠なだけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのといないのでは大きな差がついてしまう。
授業はグループごとに分かれて指定するテーマに関する発表をしてもらい、その内容について議論していく形で進める。それと同時に、各自に株式投資のシュミレーションを行ってもらう。そして、株式投資シュミレーション結果の発表を各自に行ってもらう。

【学習目標】
株式会社の仕組みや株式市場の仕組みを理解し、インターネットを使ったシュミレーション（投資ゲーム）を通じて株式投資を自分で行えるようになることを目標とする。

【講義計画】
第１回　グループ分けを行い、バーチャル株式投資ゲームの説明をする。
第２回　株式会社の仕組み
第３回　株式市場の仕組み
第４回　ファンダメンタル分析(１)株主資本利益率
第５回　ファンダメンタル分析(２)配当利回り
第６回　ファンダメンタル分析(３)株価収益率
第７回　ファンダメンタル分析(４)株価純資産倍率
第８回　インターネット・セミナー(１)
第９回　テクニカル分析(１)ローソク足
第10回　テクニカル分析(２)移動平均
第11回　テクニカル分析(３)サイコロジカル・ライン
第12回　テクニカル分析(４)相対力指数
第13回　インターネット・セミナー(２)
第14回　株式投資ゲーム結果の発表

【成績評価の方法】
授業態度によって評価する。バーチャル株式投資ゲームの結果の発表を義務付ける。

【備考】
出席するだけでなく、積極的に授業に参加し、株式投資シュミレーションに取り組むことを期待する。
【準備学習の指示】前回の内容を復習して理解し、指示した項目については事前に調べておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　07<春>	
吉　川　真　裕	2単位

【講義概要】
世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、各自に発表してもらい、その内容について議論する。そして、テキストの考え方をより深く理解するために、著者が考案したボードゲーム『キャッシュフロー101』を全員でプレイしてもらう。

【学習目標】
「よく勉強して、良い学校を出て、良い会社に勤めることがお金持ちになることにはつながらない」という著者の主張は、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。学校では教えられない「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。著者の言う「金持ち父さんの世界」を理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　ダビデはなぜ巨人ゴリアテに戦いを挑んだか
第２回　若くして豊かに引退する方法
第３回　なぜできるだけ早く引退するのがいいのか
第４回　私はこうやって早期引退を実現した
第５回　どうしたら早く引退できるか
第６回　頭脳のレバレッジで現実を広げる
第７回　あなたは何が危険だと思うか
第８回　仕事量を減らして収入を増やす
第９回　金持ちになる一番の近道
第10回　ボードゲーム『キャッシュフロー101』(ルール説明)
第11回　ボードゲーム『キャッシュフロー101』(個人戦１A)
第12回　ボードゲーム『キャッシュフロー101』(個人戦１B)
第13回　ボードゲーム『キャッシュフロー101』(個人戦２A)
第14回　ボードゲーム『キャッシュフロー101』(個人戦２B)

【成績評価の方法】
授業態度によって評価する。
事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】
ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房
演習ⅡB (09) と同じテキスト

【参考文献】
『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩書房、2000年。
『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年。
『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年。
『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのビジネススクール セカンドエディション』マイクロマガジン、2004年。
『金持ち父さんのパワー投資術』筑摩、2005年。
『金持ち父さんの学校では教えてくれないお金の秘密』筑摩、2006年。
『金持ち父さんの起業する前に必ず読む本』筑摩、2006年。
『金持ち父さんの金持ちがますます金持ちになる理由』筑摩、2008年。
『金持ち父さんのファイナンシャルIQ』筑摩、2008年。
『金持ち父さんのパーフェクトビジネス』マイクロマガジン社、2009年。
『金持ち父さんの新提言 お金がお金を生むしくみの作り方』青春出版社、2009年。
　以下のサイトに最新の情報がある。
英語ホームページ (http://www.richdad.com)
日本語ホームページ (http://richdad-jp.com/top.html)

【備考】
【準備学習の指示】指示したテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　08<春>	
厳　　善　平	2単位

【講義概要】
「お金がない人を助けるには、どうしたらいいのですか?」小学５年生が発したこの問いに、経済学者はどう答えるだろうか。女性が背の高い男性を好む理由からオリンピックの国別メダル獲得数まで、私たちの周りには、運や努力、能力によって生じるさまざまな格差や不平等がある。本書は、それらを解消する方法を、人々の意思決定メカニズムに踏み込んで考えることによって、経済学の本質をわかりやすく解き明かす。【テキストより引用】
　小人数のクラスなので、全員参加型の演習運営を行う。
　授業の進行状況を見て、受講生と相談の上、授業の進め方を微調整することがある。

【学習目標】
　身近にある様々な社会現象を経済学的に考える習慣を身につける。

【講義計画】
第１回　授業の進め方、授業内容の概説など。
第２回　プロローグ　お金がない人を助けるには?
第３回　Ⅰ　いい男は結婚しているのか?―①
第４回　Ⅰ　いい男は結婚しているのか?―②
第５回　Ⅰ　いい男は結婚しているのか?―③
第６回　Ⅱ　賞金とプロゴルファーのやる気―①
第７回　Ⅱ　賞金とプロゴルファーのやる気―②
第８回　Ⅱ　賞金とプロゴルファーのやる気―③
第９回　Ⅲ　年金未納は若者の逆襲である―①
第10回　Ⅲ　年金未納は若者の逆襲である―②
第11回　Ⅲ　年金未納は若者の逆襲である―③
第12回　Ⅳ　所得格差と再分配―①
第13回　Ⅳ　所得格差と再分配―②
第14回　Ⅳ　所得格差と再分配―③
第15回　総括と復習

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　40%　出席　60%
レポートは２回。所定の課題から選んで作成してもらう。
成績評価の際に、出席・授業への参加状況を重視する。

【教科書】
大竹文雄 経済学的思考のセンス 中公新書
　状況を見て、大竹文雄『こんなに使える経済学―肥満から出世まで 』(ちくま新書)を副教材として利用することもある。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　09<春>	
津　田　直　則	2単位

【講義概要】
1）与えられたテーマについてインターネット記事を読んで要約しまとめるとともに自分の意見を述べる。
2）取り上げるテーマは、世界中の資源・環境・エネルギー・水・食料・農業問題のトピックス
3）作成した文章はファイルに残し、いくつものファイルをつなげていく。
4）ファイルをつなげ最終レポートを作成する。

【学習目標】
1）資料を「読む力」とまとめて「書く力」を養う。
2）レポートを「体系的に編集する力」や「考える力」を養う。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション：
①授業概要、学習目標、スケジュール、成績評価についての説明
②自己紹介
③レポートの体系的編集方法の説明
④情報検索の学習（新聞、雑誌、インターネット、書籍）
第2回　資源・環境・エネルギー問題第1回
第3回　資源・環境・エネルギー問題第2回
第4回　資源・環境・エネルギー問題第3回
第5回　資源・環境・エネルギー問題第4回（以上レポート1）
第6回　予備日または振り返り
第7回　水・食料・農業問題第1回
第8回　水・食料・農業問題第2回
第9回　水・食料・農業問題第3回
第10回　水・食料・農業問題第4回（以上レポート2）
第11回　予備日または振り返り
第12回　レポート1とレポート2を結合　レポート3の作成・編集
第13回　レポート3の編集
第14回　ふりかえりと反省会

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　40％　出席　60％
授業中に作成した文章はそのつどプリントアウトして提出する。

【教科書】
なし

【参考文献】
雑誌記事、新聞記事、インターネット情報が授業のための資料。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡA　10<春>	
中　村　勝　之	2単位

【講義概要】
「暇」であるのは人間最大の武器である。暇だからこそ色んな事にチャレンジできるし、色んな考えも湧いてくる。持て余す位ならば暇なんぞいらない。1年かけて「本を読む」トレーニングを積んでみないか。この演習はそのために提供される。
　この演習での目標は2つ。参加者が(1)論理＆推理力を獲得する。(2)コトバの真の意味を体得する。これらは今後のあらゆる局面で必ず必要になる。それを今のうちから身につけておこう。

【学習目標】
ここで使用するテキストを通じて、
①勉強に対する自身の取るべきスタンス
②時間配分の重要性
この点は最低限押さえて行きたい。

【講義計画】
第1回　ガイダンス
※この演習を通じて「KJ法」という手法を用いる。具体的にはテキストの該当箇所を精読し、その中から「キーワード」を考えられるだけあげてもらう。次にあげたキーワードから、幾つかの共通項で「グループ化」する作業を行う。最後にグループ化された共通項を論旨にそって結びつけ、それを「フローチャート」という絵にしていく。
※これら一連の作業は参加者全員で行う。そのため参加状況によって演習の進行が変わってくる。
第2回　論述試験
第3回　テキスト第1章キーワード抽出(Ⅰ)
第4回　同上(Ⅱ)
第5回　テキスト第1章フローチャート作成(Ⅰ)
第6回　同上(Ⅱ)
第7回　テキスト第2章キーワード抽出(Ⅰ)
第8回　同上(Ⅱ)
第9回　テキスト第2章フローチャート作成(Ⅰ)
第10回　同上(Ⅱ)
第11回　テキスト第3章キーワード抽出(Ⅰ)
第12回　同上(Ⅱ)
第13回　テキスト第3章フローチャート作成(Ⅰ)
第14回　同上(Ⅱ)
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　100％
基本は、演習初期段階と最終段階で行われる「テスト」の出来栄えで評価する。

【教科書】
渡部昇一　知的生活の方法　講談社現代新書436

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　01＜秋＞	
阿　部　秀二郎	2単位

【講義概要】
第1学期で明確にした意欲や正確にした知識・技術に基づいて、より発展的に学修を進めたいと思います。ここでも大切なのはバランスです。知識・技術だけではなく、主体的に多角的に物事を見ることができるために、「ちょっと待て」「反対の立場に立ってみよう」「調べてみよう」というプロセスを学修します。

【学習目標】
経済学を使用して、他人と議論することが最終的で大きな目標です。そのために、わからないことは自分で調べる、または大きなテーマについては自分たちで調べ、議論し、結論を導出する能力の習得が目標です。最終的にパワーポイントでプレゼンテーションを行ってもらいます。

【講義計画】
第1回　オリエンテーションです。春学期同様に、いろいろなことについて確認したり、自己紹介などを行います。成績についても議論します。
第2回　春学期・夏休みの学習成果の確認①
第3回　春学期・夏休みの学習成果の確認②
第4回　教科書を読み・調べる①
第5回　教科書を読み・調べる②
第6回　教科書を読み・調べる③
第7回　教科書を読み・調べる④
第8回　教科書を読み・調べる⑤
第9回　各人の報告準備①　テーマ設定・内容設定
第10回　教員へのテーマ報告と議論
第11回　資料収集①と報告
第12回　資料収集②と報告
第13回　各人の報告準備②　パワーポイント作り
第14回　各人の報告準備③　模擬プレゼンテーションと相互批判
第15回　各人の報告紹介

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　40%　出席　0%
この方法は、未決です。最初の授業で議論して決めます。

【教科書】
ロバート・H・フランク/月沢李歌子訳　日常の疑問を経済学で考える　日本経済新聞出版社

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　02＜秋＞	
大　澤　　健	2単位

【講義概要】
現在の経済を語る上での最大のキーワードである「グローバリゼーション」について学ぶ。

【学習目標】
演習ⅡAに引き続き、経済に関する知識の習得と、コミュニケーションスキルの習得を目指す。

【講義計画】
第1回　ガイダンス、自己紹介
第2回　グローバリゼーションについてのビデオ視聴
第3回　ビデオについてのレポート作成、調査
第4回　調査についての報告、討論
第5回　調査についての報告、討論
第6回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第7回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第8回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第9回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第10回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第11回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第12回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第13回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第14回　グローバリゼーションに関するテキストの講読
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　0%　レポート　40%　出席　60%

【参考文献】
特に用いない

【備考】
経済新聞、一般紙の経済欄、経済ニュース等を継続的に見ておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　03＜秋＞	
佐々木　和　子	2単位

【講義概要】
テーマは、「食べる」こと。
秋学期は「食と世界」に焦点をあてる。
私たちは、「食べる」ことなしでは、生きていけない。
「食」を取り巻く現状を自らの生活を通して、認識し、
自分たちの足元からの問題点の解決方法を探る。

【学習目標】
1、自らの生活の中で、問題点をみつける。
2、問題点と日本社会の現状をリンクさせて考察する能力を育てる。
3、統計、資料によって、現状分析をおこなう。
4、調査内容を人に伝える。

【講義計画】
第1回　ガイダンス
　　春学期からの継続履修生がいるかどうかを確認し、今後の進め方を履修者とともに考える。
　　ただ、演習であるので、授業計画は進行状況に応じて変更することがある。
第2回　日本の食糧自給率
第3回　テキスト輪読1
第4回　テキスト輪読2
第5回　ワークショップ
第6回　ワークショップ
第7回　質疑・討論
第8回　食はどこから来るのか
第9回　テキスト輪読3
第10回　テキスト輪読4
第11回　ワークショップ
第12回　ワークショップ
第13回　質疑・討論
第14回　研究発表

【成績評価の方法】
出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】
西日本新聞社「食 くらし」取材班 食卓の向こう側　キャンパス編 西日本新聞社

【参考文献】
末松広行『食料自給率の「なぜ？」』扶桑社、2008年
神門 善久『日本の食と農　日本の〈現代〉危機の本質』NTT出版、2006年
中田 哲也『フード・マイレージ　あなたの食が地球を変える 』日本評論社、2007年

【備考】
【準備学習の指示】
秋学期では、「食」を中心に、視野を世界や社会に広げていきます。
「食」の問題は、環境問題、政治問題とも深く関わっています。
「食料自給率」、「フードマイレージ」といったキーワードが何を意味するのか、参考文献などを事前に手に入れ、少し予習をしておきましょう。インターネットなどで、調べておくのも良いかもしれません。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　04＜秋＞	
松　本　　誠	2単位

【講義概要】
21世紀社会は、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。
　こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。

【学習目標】
担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論するとともに、市民が担うまちづくり活動を実践してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方をともに学び、力をつけていきたい。
　授業の中では、作文やレポートの書き方を習熟するための添削指導なども重視し、社会人としての基礎的素養も身に付けることを目標とする。
　でき得れば春、秋通じて履修することが望ましいが、いずれか一方の履修でも支障のないようにテーマ展開し、個別指導を重視する。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
　　＜以下はおおよその計画。履修人数により変更する＞
第2回　「まちづくり」とは何か　『上』
第3回　「まちづくり」とは何か　『下』
第4回　戦後の市民・住民活動の変遷と発展経過を降り返る（上）
第5回　戦後の市民・住民活動の変遷と発展経過を降り返る（下）
第6回　わが町を見直す視点
第7回　わが町の現状と課題をさぐるためのヒント
第8回　それぞれの町を紹介してみる
第9回　町の紹介をミニレポートにしてみる
第10回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第11回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第12回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第13回　わが町ミニレポートの発表と講評、添削指導
第14回　テキストの輪読とコメント
第15回　テキストの輪読とコメント

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　50％　出席　50％
期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】
田村　明 まちづくりの実践 岩波新書
神野直彦 地域再生の経済学 中公新書

【参考文献】
田村　明著　「まちづくりの発想」（岩波新書）
地域情報会議編著　「地域の価値を創る」（時事通信社）
川村健一+小門裕幸著　「サステイナブル・コミュニティ」（学芸出版社）
松本　誠著　「市民が変える明石のまち」（文理閣）

【備考】
【全体の講義の進め方】
・本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。
　1．テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
　2．各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
　3．報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
　4．教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
　5．報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。
　6．学生諸君の日程の都合がつけば、街に出て暮らしの現場からの学び方を体験するフィールド学習も行う。
・テキストを輪読し、各章、各節ごとに発表者がレポートし、内容について理解と身近な問題に敷衍させて議論していく。
・したがって、各回のテーマや課題の設定は、演習Ⅱ出席したメンバーの人数や希望等によって柔軟に決めていく。
・テーマは、地域のまちづくりを進めていくための市民の役割や課題、具体的な実践を学ぶ。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　05＜秋＞	
安　倉　良　二	2単位

【講義概要】
「商業・流通をめぐる環境変化と空間の関わり」を取り上げる。担当者は，経済地理学の立場から商業と流通の変化を研究している。学生諸君が生まれ育った1990年代以降，日本の商業と流通をめぐる環境はめまぐるしく変化している。その結果，店舗の立地や商品の流通，そして消費者の動きにも影響を与えている。本講義では，とりわけ2000年代以降，現在も進んでいる商業・流通のめぐる環境変化の実態を地理学の視点から考えたい。

【学習目標】
まず最初に学術書を読んで内容を要約するという，大学生にとって基本的な姿勢を学んでもらう。その上で，商業・流通に関する問題意識を身につけてもらいたい。なお，関心を深めるためには「日経MJ（流通新聞）」も目を通すといいだろう。最新の動向については，担当者の補足説明も随時行う予定なので，興味を持って取り組んでほしい。

【講義計画】
第１回　ガイダンスと担当者の割り当て
第２回　文献の講読格差社会における消費と流通（１）
第３回　文献の講読：格差社会における消費と流通（２）
第４回　文献の講読：格差社会における消費と流通（３）
第５回　文献の講読：流通の「個別化」（１）
第６回　文献の講読：流通の「個別化」（２）
第７回　文献の講読：流通の「個別化」（３）
第８回　文献の講読：流通の国際化（１）
第９回　文献の講読：流通の国際化（２）
第10回　文献の講読：情報化の進展が流通に及ぼす影響（１）
第11回　文献の講読：情報化の進展が流通に及ぼす影響（２）
第12回　文献の講読：都市空間の再編成と流通の関わり（１）
第13回　文献の講読：都市空間の再編成と流通の関わり（２）
第14回　文献の講読：都市空間の再編成と流通の関わり（３）

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
担当者の発表とそれに基づく質疑応答への参加状況を出席において重視したい。レポートでは，演習内容に基づき，商業・流通の変化にどれだけ関心をもっているのかがわかるものを考えたい。

【教科書】
荒井良雄・箸本健二編 流通空間の再構築 古今書院
授業計画のタイトルは，本書の「まえがき」を基に，章構成に即して細かく分類したものである。複数のテーマを順にわかりやすくまとめているので読みやすい文献である。
なお，テーマによっては同書以外の文献を読んでもらうこともある。それについては，担当者から別途指示する。

【参考文献】
流通に関して基本的なことを知りたい人は，渡辺達朗ほか編(2008)：『流通論をつかむ』有斐閣，を薦める。また，経済地理学の立地論から商業・流通の問題を学びたい人は，川端基夫(2008)：『立地ウォーズ』新評論，を一読してほしい。

【備考】
【準備学習の指示】
担当者が一方的に知識を伝える講義とは違い，演習では学生自体の問題意識が反映される。したがって，本演習の受講者は演習の内容だけではなく，常日頃から新聞やテレビ，インターネットを通じて商業・流通に関するトピックに目を通しておくことを薦めたい。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　06＜秋＞	
吉　川　真　裕	2単位

【講義概要】
株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠なだけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのといないのでは大きな差がついてしまう。
授業では現代ファイナンス理論に基づいた株式投資に関する講義をパワーポイントを用いて行う一方、インターネットを使ったシュミレーション（投資ゲーム）を各自に行ってもらう。そして、シュミレーション結果を発表してもらい、シュミレーション結果に関するレポートを提出してもらう。

【学習目標】
現代ファイナンス理論に基づいた株式投資の方法を学習してもらい、資産運用を自分で行えるようになることを目標とする。

【講義計画】
第１回　株式投資シュミレーションの説明
第２回　金融商品と金融市場
第３回　ファイナンス理論の基本
第４回　リスクとリターン（１）
第５回　リスクとリターン（２）
第６回　ポートフォリオ投資（１）
第７回　ポートフォリオ投資（２）
第８回　市場ポートフォリオと分離定理（１）
第９回　市場ポートフォリオと分離定理（２）
第10回　投資信託（１）
第11回　投資信託（２）
第12回　年金運用と証券投資
第13回　株式投資シュミレーションの結果の発表
第14回　授業評価／株式投資シュミレーションのレポート提出

【成績評価の方法】
授業態度によって評価する。株式投資シュミレーションの結果の発表とレポートの提出を義務付ける。

【参考文献】
井出正介・高橋文郎『証券投資入門』日本経済新聞社，
久保田敬一『よくわかるファイナンス』東洋経済新報社

【備考】
演習ⅡA(06)を受講していることを前提として授業を進めていく。出席するだけでなく、積極的に授業に参加し、株式投資シュミレーションに取り組むことを期待する。
【準備学習の指示】前回の内容を復習して理解しておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　07＜秋＞	
吉　川　真　裕	2単位

【講義概要】
世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、各自に発表してもらい、その内容について議論する。そして、テキストの考え方をより深く理解するために、ボードゲーム『キャッシュフロー101』よりも高度なボードゲーム『キャッシュフロー202』を全員でプレイしてもらう。

【学習目標】
「よく勉強して、良い学校を出て、良い会社に勤めることがお金持ちになることにはつながらない」という著者の主張は、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。学校では教えられない「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。著者の言う「金持ち父さんの世界」をより深く理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　あなたのプランは遅いか、早いか
第２回　豊かに未来を見ることのレバレッジ
第３回　一貫性のレバレッジ
第４回　童話のレバレッジ
第５回　気前よさのレバレッジ
第６回　習慣のレバレッジ
第７回　あなたのお金のレバレッジ
第８回　不動産のレバレッジ
第９回　紙の資産のレバレッジ
第10回　Ｂクワドラント・ビジネスのレバレッジ
第11回　ボードゲーム『キャッシュフロー202』(個人戦１A)
第12回　ボードゲーム『キャッシュフロー202』(個人戦１B)
第13回　ボードゲーム『キャッシュフロー202』(個人戦２A)
第14回　ボードゲーム『キャッシュフロー202』(個人戦２B)

【成績評価の方法】
授業態度によって評価する。
事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】
ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房
演習ⅡA (07) と同じテキスト

【参考文献】
『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩書房、2000年。
『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年。
『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年。
『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのビジネススクール セカンドエディション』マイクロマガジン、2004年。
『金持ち父さんのパワー投資術』筑摩、2005年。
『金持ち父さんの学校では教えてくれないお金の秘密』筑摩、2006年。
『金持ち父さんの起業する前に必ず読む本』筑摩、2006年。
『金持ち父さんの金持ちがますます金持ちになる理由』筑摩、2008年。
『金持ち父さんのファイナンシャルIQ』筑摩、2008年。
『金持ち父さんのパーフェクトビジネス』マイクロマガジン社、2009年。
『金持ち父さんの新提言 お金がお金を生むしくみの作り方』青春出版社、2009年。
以下のサイトに最新の情報がある。
英語ホームページ (http://www.richdad.com)
日本語ホームページ (http://richdad-jp.com/top.html)

【備考】
テキストの前半部分を扱った演習ⅡA (07) を受けていることを前提として授業を進める。
【準備学習の指示】指示したテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　08＜秋＞	
厳　　善　平	2単位

【講義概要】
経済学とは単なる「お金儲け」の学問ではない。「どうすれば、みんなが幸福になれるか」を探求する営みだ。世の中では、ある人の幸せが他の人の不幸へとつながることがしばしば起こる。では、そうした不可避の困難のもと、あるべき社会の形をどう構想すればよいのか。本書は最先端の確率理論を駆使して、この難題に鋭く切り込む試みである。不確実な世界における人間の行動様式を抽出し、そこから、自由で平等な社会のあり方をロジカルに基礎づける。
【テキストより引用】
小人数のクラスなので、全員参加型の演習運営を行う。
授業の進行状況を見て、受講者と相談の上、授業の進め方を微調整することがある。

【学習目標】
幸福、公平、自由、平等、正義、市場、国家といった、普段は何げなく使っている言葉の意味を経済学的に考え、経済学の本質を理解する。

【講義計画】
第１回　授業の進め方、授業内容の概要について説明する。
第２回　幸福や平等や自由をどう考えたらいいか(序章)ー①
第３回　幸福や平等や自由をどう考えたらいいか(序章)ー②
第４回　幸福をどう考えるか:ピグーの理論(第１章)ー①
第５回　幸福をどう考えるか:ピグーの理論(第１章)ー②
第６回　公平をどう考えるか:ハルサーニの定理(第２章)ー①
第７回　公平をどう考えるか:ハルサーニの定理(第２章)ー②
第８回　自由をどう考えるか:センの理論(第３章)ー①
第９回　自由をどう考えるか:センの理論(第３章)ー②
第10回　平等をどう考えるか:ギルボアの理論(第４章)ー①
第11回　平等をどう考えるか:ギルボアの理論(第４章)ー②
第12回　正義をどう考えるか:ロールズの理論(第５章)ー①
第13回　正義をどう考えるか:ロールズの理論(第５章)ー②
第14回　市場社会の安定をどう考えるか:ケインズの貨幣理論(第６章)
第15回　何が、幸福や平等や自由を阻むか:社会統合と階級の固着性(終章)

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　40％　出席　60％
小レポートは２回提出してもらう。テーマは授業の内容を踏まえて設定する。
出席・授業への参加状況を重視して成績評価を行う。

【教科書】
小島寛之 使える!経済学の考え方 ちくま新書

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　09<秋>	
矢　根　眞　二	2単位

【講義概要】
自分の考えや疑問を他の人に分かりやすく説明できるコミュニケーション能力の向上は，今後の就職や専門演習をうまくこなす重要な技術ですが，自分なりの工夫やそれを率直に評価してくれる練習相手が必要です。そこで，受講者が十分集まれば Debate Game，少人数であれば Professor Game 中心のプログラムを実施する予定です。

【学習目標】
「Debate Game」は,3チームを構成できる受講者が集まれば，互いに興味のある一般的なテーマを手軽に討論できるため，初心者でもすぐに慣れ親しめる楽しいゲームです。練習なのですから失敗を恐れず自分なりの工夫が浮かべば即実行してみる積極性と自主性を重視します。

【講義計画】
第１回　初回は，受講者の希望と人数を確認し決定したプログラムの具体的な資料を配布しますから，アンデレ館11階の研究室に集合して下さい。以下は「Debate Game」に決まった場合の予定ですから，「Professor Game」になった場合は他方の「演習ⅡB（10)」の説明に切り替えて下さい。
第２回　テーマ・グルーピング・役割分担の決定
第３回　ディベート見学またはビデオ鑑賞
第４回　Debate Game
第５回　Debate Game
第６回　Debate Game
第７回　Discussion「良いディベート・悪いディベートとは？」
第８回　Debate Game
第９回　Debate Game
第10回　Debate Game
第11回　Debate Game
第12回　Debate Game
第13回　Debate Game
第14回　Discussion「ディベート・ゲームからの教訓は？」

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　０％
試験やレポートは実施せず，平常のプログラムへの参加・貢献度で評価しますから，出席は当然の前提になります。成績評価のベースは,（1)ディベーター等の担当役割による貢献が50%,（2)フロアー等の審判員としての形での参加貢献が50%，が基本です。

【参考文献】
「Debate Game」のテーマは，参加者の提案があれば優先しますが，その数が不足する場合には，望月和彦（03)『ディベートのすすめ』有斐閣選書 をベースにします。

科目名　クラス　講義区分	
演習ⅡB　10<秋>	
矢　根　眞　二	2単位

【講義概要】
自分の考えや疑問を他の人に分かりやすく説明できるコミュニケーション能力の向上は，今後の就職や専門演習をうまくこなす重要な技術ですが，自分なりの工夫やそれを率直に評価してくれる練習相手が必要です。そこで，少人数が適当な Professor Game，もし受講者が多ければ Debate Game中心のプログラムを実施する予定です。

【学習目標】
「Professor Game」は，誰もがよく知らない専門的な課題を，順に教授役として「さもよく知っているかのように」残りの生徒役の前で説明をし，最後には全員が教授としてそのテーマでプレゼンするというゲームです。一回一回が独立した「Debate Game」よりも，個々人が長期的かつ深く考えて行動することが重要になります。

【講義計画】
第１回　初回は，受講者の希望と人数を確認し決定したプログラムの具体的な資料を配布しますから，アンデレ館11階の研究室に集合して下さい。以下は「Professor Game」に決まった場合の予定ですから，「Debate Game」になった場合には他方の「演習ⅡB（９)」の説明に切り替えて下さい。
第２回　テーマ（今回はDEAを予定）の説明とグルーピング・役割分担の決定
第３回　前座教授　１　何をするのか（DEA とは何なのか）？
第４回　前座教授　２　なぜ DEA するのか（DEA する利点とは）？
第５回　Professor　１　テーマ選択の重要性と必要な要素
第６回　Student　１　研究計画書提出（何をなぜどう分析するつもりなのか？）
第７回　Professor　２　データの収集と書式の要点
第８回　Student　２　データシート提出（エクセルシート）
第９回　Discussion「良いProfessor・悪い Professorとは？」
第10回　Professor　３　DEAソフトウェアと分析結果の使い方
第11回　Student　３　DEAの分析結果提出
第12回　Professor　４　研究報告書提出とプレゼン
第13回　Professor　４　研究報告書提出とプレゼン
第14回　Discussion「教授・ゲームからの教訓は？」

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　０％
試験やレポートは実施せず，平常のプログラムへの参加・貢献度で評価しますから，出席は当然の前提になります。成績評価のベースは，（1)教授等の担当役割による貢献が50%（個別および最終プレゼンの合計),（2)フロアーの学生等の形での参加貢献が50%，が基本です。

【参考文献】
今回予定しているテーマであるDEA（Data Envelopment Analysis：包絡分析法)は科学的なマネジメントの技法として世界的に普及している手段ですが，平易に解説している日本語の文献やサイトがなかなか見あたりません，発見の報告大歓迎です！

科目名　クラス　講義区分	
エンタテインメント・ビジネス論　＜春＞	
岸　本　喜樹朗	２単位

【講義概要】
わが国の経済全体に占める第３次産業のウェイトは年々増大している。そして、この第３次産業の内包も大変多岐にわたるようになってきた。この講義では、このような第３次産業のうちで、エンタテインメント産業と呼ばれる分野に焦点を当てて、主としてマーケティング論の分析枠組みによって分析を展開しようとするものである。ところで、エンタテインメントとは、何であろうか？芸能界のスキャンダルやゴシップを集めたものではない。『エンタテインメント経済学』の著書のあるＨ．ヴォーゲルによれば、「快い気晴らしの状態を刺激し、亢進し、発生させるものの総称」と定義している。こうしたものを生産し流通させる産業がエンタテインメント産業ということになる。
　さて、分析の対象となるエンタテインメント産業には、メディア依存型エンタテインメント産業として、映画、放送、ゲームなどが、また、ライブ型エンタテインメント産業として、ギャンブル、スポーツ、舞台芸術、テーマパークなどが、また、音楽は両方の性格を兼ね備えるものとして現れてくる。これらは、これまでの重厚長大産業を念頭に置いた経営学では手に余るような側面もあることから、その対極としての軽薄短小のメジャーでもって、やや柔軟な発想も要求されることもあるかもしれない。近年“Japanese Cool”ともてはやされる、コンテンツ・ビジネスとも重なり、新たな成長ビジネスの内情を探りたいものである。

【学習目標】
この講義は若い諸君には興味のある内容となっていると思うが、エンタテインメント産業は実は知識集約型産業である事から、幅広い教養と猛烈な知的関心が要求される。それを携えて聴講していただき、エンタテインメント産業の全貌を把握していただきたい。

【講義計画】
第１回　コンテンツ＆エンターテインメント・ビジネスをめぐる課題と視角
第２回　音楽ビジネス・マーケティングの展開①
第３回　音楽ビジネス・マーケティングの展開②
第４回　音楽ビジネス・マーケティングの展開③
第５回　Ｊ－POPの海外浸透
第６回　ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）①
第７回　ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）②
第８回　舞台芸術と観客動員
第９回　歌舞伎とビジネスの相互関連
第10回　放送ビジネスマーケティング―特にFM放送をめぐって―
第11回　食におけるエンタテインメント
第12回　ショッピングにおけるエンタテインメント
第13回　エンタテインメントを通じたまちづくり
第14回　今後のエンタテインメント・ビジネスの展望

【成績評価の方法】
期末試験の出来具合

【教科書】
使用せず。

【参考文献】

１．岸本裕一・生明俊雄共著『Ｊ－POPマーケティング』、中央経済社、2001年。
２．谷岡一郎・岸本裕一編著『カジノマーケティングと地域活性化戦略』、大阪商業大学研究叢書、2006年。
３.Vogel, H. : Entertainment Industry Economics, 6 th ed., Cambridge University Press, 2004.

【備考】
【準備学習の指示】
世界・日本のエンタテインメント・ビジネス経済の振興と競争力向上を実現させるために学ぼうとする意欲の下で、広範なエンタテインメント・ビジネス経済に関する新聞・雑誌の記事に絶えず目を向けて、場合によっては、それらをスクラップブックにファイルして持参するというような対応が望まれる。
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分	
応用言語学概論　＜春集＞	
橋　内　　武	４単位

【講義概要】
応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら４つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。

【学習目標】
履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来英語教員・日本語教師・言語聴覚士や通訳などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

【講義計画】
第１回　イントロダクション（授業計画・教科書・評価法等）
第２回　応用言語学とは何か－目的と対象と方法
第３回　言語問題の学－その１　言語障害
第４回　言語問題の学－その２　識字
第５回　言語問題の学－その３　言語の消滅
第６回　言語問題の学－その４　ことばの乱れ
第７回　言語問題の学－その５　誤訳
第８回　外国語教育学－その１　言語教育政策
第９回　外国語教育学－その２　シラバス・デザイン
第10回　外国語教育学－その３　外国語教授法（指導法）
第11回　外国語教授法－その４　教科書と教材開発
第12回　外国語教授法－その５　学習用辞書の編集と使い方
第13回　外国語教授法－その６　言語テストと評価
第14回　学際的言語学－その１　言語学的失語症学
第15回　学際的言語学－その２　言語心理学－言語習得論
第16回　学際的言語学－その３　言語人類学－言語と文化
第17回　学際的言語学－その４　社会言語学－言語変種・変異
第18回　学際的言語学－その５　言語地理学－方言地図
第19回　学際的言語学－その５　法言語学－言語と法
第20回　学際的言語学－その６　言語経済学－言語の市場
第21回　学際的言語学－その７　文体論－詩と広告文
第22回　ことばの職業－その１　英語教員
第23回　ことばの職業－その２　日本語教師
第24回　ことばの職業－その３　言語聴覚士
第25回　ことばの職業－その４　通訳者と翻訳家
第26回　ことばの職業－その５　もの書き（作家）
第27回　ことばの職業－その６　噺家（落語家）
第28回　まとめと補遺

【成績評価の方法】
授業への出席と積極的参加：20％
レポート（Ａ４　ワープロ1200字）：20％（但し、剽窃は０点）
期末試験：60％

【教科書】
山内　進編著『言語教育学入門』大修館書店

【参考文献】

大谷泰照、『日本人にとって英語とは何か』、大修館書店、2007.
小池生夫編、『応用言語学事典』、研究社、2003.
白畑知彦ほか著　『英語教育用語辞典』、大修館書店、1999.
ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、『外国語教育学大辞典』、大修館書店、1999.
鈴木貞次編、『言語科学の百科事典』、丸善、2006.

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
応用言語学研究　＜秋集＞	
Michael　Carroll	4単位

【講義概要】
授業はすべて英語で行う。
This course examines the relationship between English grammar and communication, through looking at the three aspects of language: form, meaning and use. Grammar is simply 'the way a language is used. Therefore students will learn about grammar by analysing their own speech and writing, as well as examples of language use by fluent speakers and writers, to see how language users create meaning through making grammatical choices.

【学習目標】
Students will learn how to understand language not as a system of rules, such as they might have learned in high school, but as a way of communicating meaning in context. In order to do this they will record and transcribe interviews with English speakers, and analyse these interviews to see how English speakers make grammatical choices in real life. At the same time they will use the textbook to review basic English grammar by explaining it to other students.

【講義計画】
第１回　What is Applied Linguistics? What is Discourse Analysis? Grammar and Communication.
第２回　Text: Impact Grammar
第３回　Discourse Analysis 1
第４回　Text: Impact Grammar
第５回　Discourse Analysis 2
第６回　Text: Impact Grammar
第７回　Discourse Analysis 3
第８回　Text: Impact Grammar
第９回　Discourse Analysis 4
第10回　Text: Impact Grammar
第11回　Discourse Analysis Project 1
第12回　Text: Impact Grammar
第13回　Discourse Analysis Project 1
第14回　Text: Impact Grammar
第15回　Discourse Analysis Project Transcription
第16回　Text: Impact Grammar
第17回　Discourse Analysis Project Analysis
第18回　Text: Impact Grammar
第19回　Discourse Analysis Project Analysis
第20回　Text: Impact Grammar
第21回　Discourse Analysis Project Analysis
第22回　Text: Impact Grammar
第23回　Presentations
第24回　Text: Impact Grammar
第25回　Presentations
第26回　Text: Impact Grammar
第27回　Evaluation and Summary
第28回　Evaluation: Impact Grammar

【成績評価の方法】
Interview and transcription 33%; Interview analysis (report and presentation) 33%; Quizzes 33%
No more than 6 absences will be allowed.
欠席６回以上の場合,単位を認めなくなります。

【教科書】
Rod Ellis and Stephen Gaies Impact Grammar Longman

【備考】
・英語による講義
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
音楽社会学　＜秋＞	
木　島　由　晶	2単位

【講義概要】
「聴衆」「産業」「メディア」の３つをキーワードに、ロックと社会階層、アイドルとファン、FMラジオとヒット曲、インディーズの歴史、ノリ（groove）の社会性、音楽フェスの祝祭性、音楽配信と著作権、といった事例に注目して、人びとと音楽とのかかわりを多面的に掘り下げていく。

【学習目標】
身近な音楽現象を題材に、社会の〈今〉を考える力を養う。音楽は、一人で楽しむだけでなく、人びとを結びつける媒介にも、社会を読みとく対象にもなる。この講義を通して、「聴く」「奏でる」「踊る」「歌う」以外の、「学ぶ」楽しみを知ってもらえれば幸いである。

【講義計画】
第１回　イントロ：音楽社会学の三角形
第２回　ロックと社会階層
第３回　アイドルとファンダム
第４回　ミュージックビデオとセクシャリティ
第５回　カラオケとコミュニケーション
第６回　ノリ（groove）の社会性
第７回　音楽フェスティバルの祝祭性
第８回　インディーズの変容
第９回　ラジオとヒット曲
第10回　広告音楽とタイアップ
第11回　iPodと断片化する消費
第12回　音楽配信と著作権
第13回　マッシュアップとn次創作
第14回　アウトロ：音楽化する社会のなかで

【成績評価の方法】
試験　100%
期末試験の評価を基本とする。詳細は第１回目の講義日に示す。

【教科書】
教科書の代わりに、毎回プリントを配布する。なお、原則としてプリントは再配布しない。

【参考文献】
講義中に適宜指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
詳細は授業中に示すが、音楽と社会の理解を深めるため、予習・復習に努めること。
・02～09生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
海外研修セミナー　＜秋集＞	
青　野　正　明	４単位

【講義概要】

大学内における週１回のゼミ（演習形式の授業）での学習と、海外における約２週間の研修活動を組み合わせたユニークな科目です。研修先はお隣の韓国です。

韓国は一見日本と似ているようですが、実はとても独特な文化が育まれていて活気に満ちた国です。歴史についても、たとえば王朝時代の面影をたくさん見ることができます。近代には日本に支配された時期もありましたが、現代はそれを乗り越えて様々な分野で多くの交流がなされています。このような文化や歴史を学んでいく研修となります。

研修は２月～３月頃に予定していて、詳細は７月中に開催する説明会で、具体的な旅程や経費をお話します。

【学習目標】

２年時以降の専修で勉学を進めていくうえで、海外研修での実体験が動機付けとなることを願っています。

秋学期週１回のゼミでは、韓国の文化と歴史について受講生が調べたことを発表し、それについてディスカッションします。また、研修先ではグループごとに調査テーマを決めて、基礎的なフィールドワークに取り組んでみます。韓国の学生との交流会も実施します。

帰国後は研修での成果をレポートにまとめ、報告会で発表することになります。チームワークが必要となる授業なので、親睦を図りながら協力し合って、充実した学びの場にしたいです。

【講義計画】

第１回　ガイダンスと他者紹介
第２回　グループ分けと役割分担
第３回　韓国の歴史を学ぼう
第４回　韓国の文化を学ぼう
第５回　韓国に関する資料調査とプレゼンテーション（１）
第６回　韓国に関する資料調査とプレゼンテーション（２）
第７回　韓国に関する資料調査とプレゼンテーション（３）
第８回　韓国に関する資料調査とプレゼンテーション（４）
第９回　韓国に関する資料調査とプレゼンテーション（５）
第10回　韓国に関する資料調査とプレゼンテーション（６）
第11回　研修での調査テーマについて話し合う
第12回　健康管理と海外滞在のためのガイダンス
第13回　旅行社によるガイダンス
第14回　研修スケジュールの作成

【成績評価の方法】

この科目の単位を取得するためには、海外研修への参加が義務づけられています。成績は、出席を重視し、ゼミでの発表とディスカッションへの積極的な参加、および帰国後にまとめるレポートの内容を総合的に判断して評価します。

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介します。

【備考】

韓国関係の講義も履修することを勧めます。
・10L生対象

科目名　クラス　講義区分	
会計学基礎　01＜秋＞	全　在　紋
会計学基礎　02＜秋＞	全　在　紋
会計学基礎　03＜秋＞	谷　　武　幸
会計学基礎　04＜秋＞	谷　　武　幸
２単位	

【講義概要】

「会計」(accounting) は「企業の言語」(the language of business) と言われます。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business persons) は〈会計〉で話をしているというわけです。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できません。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功（出世）も期待できません。この講義では、企業の言語の基本的な会話法を伝授します。

【学習目標】

春学期の「商業簿記」で学んだ内容を基礎にして、会計についての基本的な知識の習得を学習目標とします。講義は、テキストの目次をもとにした下掲の授業計画にそってすすめられます。ただし、豊富な章題の内容をそのまま全部学習するのではなく、国内外の経済動向、受講生の関心等を勘案しながら、取捨選択的に講義されます。

【講義計画】

第１回　この科目のオリエンテーション
第２回　第１章：会計とは何か；その①
第３回　第１章：会計とは何か；その②
第４回　第２章：基本的な会計情報とは？：その①
第５回　第２章：基本的な会計情報とは？：その②
第６回　第３章：決算書の情報を分析するには？：その①
第７回　第３章：決算書の情報を分析するには？：その②
第８回　第３章：決算書の情報を分析するには？：その③
第９回　第４章：税金はどのように計算するのか？
第10回　第５章：コストと会計情報はどのように結びつくのか？
第11回　第６章：経営管理に会計情報をどう役立てるか？
第12回　第７章：業績測定・評価に会計はどのように使われているのか？
第13回　第８章：財務諸表は本当か？
第14回　第９章：会計は職業とどう結びつくのか？
第15回　学期末試験

【成績評価の方法】

試験　100％　レポート　０％　出席　０％
ただし、下記の提出物を、加点評価の対象とする。
①ボーナス・カードの枚数(授業中の質問等に対する正答ごとに一枚支給)
②日本商工会議所簿記検定試験２級・１級合格証のＡ４サイズ・コピー

【教科書】

小林哲夫・全 在 紋・朴 大 栄（共編著）まなびの入門会計学 中央経済社
【毎時間必携】

【参考文献】

参考資料は適宜配布します。

【備考】

【準備学習】 予習はともかく、復習は必要です。講義ノートの清書などを通じて、復習してください。一年生の春学期に履修した「商業簿記」教科書(『ALFA：３級課程・商業簿記』、大原簿記学校)の参照を心がければ、この講義の理解は格段に深まることでしょう。
また、この授業は、正当な理由(電車の延着その他)がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

科目名　クラス　講義区分	
会計学原理　＜春集＞	
中　村　恒　彦	4単位

【講義概要】
本年度の会計学原理では、会計理論の歴史、会計理論の方法論、現代の会計理論、国際会計理論と幅広い項目について学習します。学習内容が高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。

【学習目標】
この講義を通じて、論理的な考え方がどういうものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考えた方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】
第１回　会計学原理の概要と講義計画
第２回　会計学のイメージ①
第３回　会計学のイメージ②
第４回　会計の定義と目的
第５回　会計の機能
第６回　会計史序説①
第７回　会計史序説②
第８回　複式簿記①
第９回　複式簿記②
第10回　期間計算①
第11回　期間計算②
第12回　近代会計の成立環境①
第13回　近代会計の成立環境②
第14回　固定資産会計①
第15回　固定資産会計②
第16回　監査①
第17回　監査②
第18回　会計史の総括
第19回　情報システムとしての会計
第20回　企業活動の分類と業績測定
第21回　財務会計と管理会計
第22回　会計情報の利用者
第23回　会計による測定
第24回　企業組織の形態
第25回　貸借対照表
第26回　損益計算書
第27回　キャッシュ･フロー計算書
第28回　現代会計のまとめ
第29回　総まとめ
第30回　期末テスト

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%
基本的には、期末テストで評価を行うが、例年、次のような２つの成績評価を行っている。
・期末試験(100点)+宿題・課題等(10点程度)
・期末試験(100点)＋レポート+(30点)+宿題・課題等(10点程度)
出席は一切とらないが、出席点は存在する。あくまでも欠席することは、自己責任として処理する。詳しい評価方法については、初回の講義で説明する。

【教科書】
友岡賛 歴史にふれる会計学 有斐閣アルマ

【備考】
【準備学習】
財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することをお勧めします。さらに、歴史を勉強する際には、世界史や地理の知識があると楽しく講義を受講できると思います。

科目名　クラス　講義区分		
介護演習		
川　井　太加子 金　津　春　江	01＜春＞ 02＜春＞	２単位

【講義概要】
授業は講義及び演習の形態とし、単元ごとに一定の講義により必要事項の説明及び関連事項の知識的整理をした上で、技術の提供方法等に関するデモンストレーションを行い、グループに分かれて、実際に具体的な介護方法を学ぶ。

【学習目標】
加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるということを基本に、介護技術について、その原理原則、基本を踏まえた方法を習得する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　環境作り
第３回　ベッドメーキング　①シーツを敷く
第４回　ベッドメーキング　①シーツを交換する
第５回　移動の介助　①ベッド上での移動
第６回　移動の介助　②ベッドから車椅子への移動
第７回　衣類の着脱の介助　①座位での介助
第８回　衣類の着脱の介助　②臥位での介助
第９回　食事の介助　①座位の介助
第10回　食事の介助　②臥位での介助
第11回　排泄の介助　①おむつ交換
第12回　排泄の介助　②ポータブルトイレの介助
第13回　自立支援に向けた福祉用具の使い方
第14回　実技テスト
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　25%　レポート　25%　出席　50%
介護実習の授業であり、主体的・積極的な授業への参加を重視します。

【参考文献】
毎回資料を作成し配布します。

【備考】
【準備学習の指示】
日頃から自分の住む町が、加齢や心身の障害を持ちながら生活されている方にとって住みやすい町になっているかどうか観察しておくこと

科目名　クラス　講義区分	
外国史　01＜通期＞	
山　崎　充　彦	４単位

【講義概要】
「歴史」とは、実に多様な側面を持つ。政治に焦点を当てれば「政治史」に、経済なら「経済史」、思想の流れを主軸とすれば「思想史」となる。この講義では、「政治史」・「政治思想史」・「社会史」・「文化史」など、特定の領域だけに限定することは出来るだけ避け、政治・経済・社会・文化など様々な観点から歴史を捉え、また、特定の地域・時代に偏ることなく、（日本を含めた）すべての歴史は常に「世界史」の一環であるとの見地から講義する。

【学習目標】
「歴史とは年表の羅列」、「事実の羅列」であるなどという「大いなる錯覚」や、「歴史とは階級闘争」などと歪曲された思考＝「歴史という名の政治イデオロゲー」に対して、全く異なる観点からの歴史の見方を提示し、学生諸君の思考の素材を提供していく。

【講義計画】
第１回　Ⅰ　歴史学とは（総論）
　　「歴史研究の持つ問題性」について－唯物史観の問題点
第２回　西欧中心史観の問題性と、その克服
第３回　歴史をどう「解釈」するか。
第４回　歴史学における「政治的なるもの」と、その問題点
第５回　Ⅱ　世界の歴史（各論）
　　「ヘレニズムとヘブライズム」
第６回　ローマ帝国と成立と興亡、その世界史的影響
第７回　キリスト教の成立とその世界史的意義
第８回　中国の「歴史観」－「二十四史」とは？
第９回　イスラーム世界の成立（預言者ムハンマド）
第10回　（東）ローマ帝国（ビザンツ帝国）とその文化の世界史的意義
第11回　中世ヨーロッパ世界の実状と「誤解？」
第12回　中世ヨーロッパ国家の特質（キリスト教会と国家との関係）－１
第13回　中世ヨーロッパ国家の特質（キリスト教会と国家との関係）－２
第14回　東西文明の交流（ルネサンスへのイスラーム文明の影響）
第15回　絶対主義国家の成立と展開（T. ホッブズの国家観）
第16回　ヨーロッパにおける市民革命とその理論（J. ロックの国家観）
第17回　ヨーロッパにおける「宗教改革」の意義－１
第18回　ヨーロッパにおける「宗教改革」の意義－２
第19回　「キリスト教」　対　「イスラム教」ー？
第20回　近代主権国家の成立とその特質（ウェストファリア体制など）
第21回　19世紀ヨーロッパの隆盛（なぜ、ヨーロッパ国家が優勢に立ったのか）
第22回　ヨーロッパの世界進出（アジアの植民地化、アヘン戦争）
第23回　ロシア帝国の内情と文化　ードストエフスキーを生んだもの
第24回　第１次世界大戦とロシア革命
第25回　戦間期の世界（ヴァイマル共和国、世界恐慌、ファッシズムの抬頭）
第26回　第２次世界大戦
第27回　20世紀の「大虐殺者列伝」（ヒトラー、スターリン、毛沢東、金日成・・・）
第28回　冷戦とアジア諸国の独立
第29回　まとめー世界史の底流に流れるもの
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%

【備考】
【準備学習の指示】世界史についての最低限の知識、たとえば、ローマ帝国、名誉革命、フランス革命、ロシア革命、第一次・第二次世界大戦、ファッシズムなどについては、受講生各自が、あらかじめ事実関係だけでも調べておくことを強く要望する。

科目名　クラス　講義区分	
外国史　02＜秋集＞	
梅　田　百合香	４単位

【講義概要】
本講義では、教職を目指し、中学・高校で歴史教育に従事することを想定している学生を前提に、世界史とりわけ西洋史について、現在の研究水準を踏まえたうえで古代から現代までの通史を解説するとともに、映像資料などを用いながら臨場感ある授業を進めていく。

【学習目標】
教育現場で児童・生徒に対し歴史をわかりやすく教えるためには、史実を熟知しているだけでなく、歴史の面白さを実感している必要がある。そこで本講義では、専門的な知識の習得を目指すことはもとより、歴史が実在した様々な人間のいわば生の帰結であり、その交渉と波及の結果であることを理解できるよう、歴史的事件のなかの人間の生き様にできるだけ注目し、過去の人類の経験から今日の問題状況を考える視点を養うことを目標とする。

【講義計画】
第１回　講義ガイダンス
　　Ⅰ「古代地中海世界」
　　地中海世界の成立
第２回　ギリシアのポリスと社会
第３回　ローマによる地中海世界統合
第４回　ローマの帝政
第５回　Ⅰ「古代地中海世界」の復習と練習問題
第６回　Ⅱ「中世ヨーロッパ世界」
　　中世前期の社会と国家
第７回　中世盛期・末期の社会
第８回　王国と広域統治の発展
第９回　西ヨーロッパ中世世界の特質
第10回　Ⅱ「中世ヨーロッパ世界」の復習と練習問題
第11回　Ⅲ「近世国家と世界経済」
　　主権国家と宗教改革
第12回　大国化への角逐
第13回　啓蒙と改革
第14回　植民地帝国と世界経済
第15回　Ⅲ「近世国家と世界経済」の復習と練習問題
第16回　Ⅳ「近代社会と帝国」
　　革命の時代
第17回　自由主義と発展主義
第18回　帝国と国民統合
第19回　ベル・エポック
第20回　世界戦争の衝撃
第21回　大衆動員政治の時代
第22回　大恐慌と一国主義的分立状況の出現
第23回　Ⅳ「近代社会と帝国」の復習と練習問題
第24回　Ⅴ「現代世界のなかの西洋」
　　戦後世界システムとパクス・アメリカーナの形成
第25回　アジアの熱戦と米ソ冷戦
第26回　ヨーロッパの分裂と統合
第27回　冷戦の終結と新国際秩序の模索
第28回　Ⅴ「現代世界のなかの西洋」の復習と練習問題
第29回　全体のまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%

【教科書】
近藤和彦　西洋世界の歴史　山川出版社
講義は基本的にテキストに沿って行われる。簡単な要点を記したプリントは配布されるが、復習する際にテキストは必ず必要となるので用意すること。

【備考】
本講義は、主として教職免許の取得を目指す学生を対象としており、中学・高校で世界史を適切に教えられる知識を身につけることを目標としている。そのため、復習してくることを前提とし、なおかつ練習問題を解いて基礎的知識を習得する機会が全５回設定されるなど、受講生には積極的に授業に臨む姿勢が求められる。したがって、本科目を履修する際には、相応の覚悟が必要となることを勧告しておく。

科目名　クラス　講義区分	
外国書講読　01＜通期＞	
赤　坂　嘉　宣	4単位

【講義概要】
マーケティングに関する英語文献を通して、外国語による専門書の読み方を習得しながら、最終的には、そこから自分自身で基礎的な知識を理解できることを目指す。（なお、本講義では、外国語に精通した者よりも、むしろ、「ちょっと外国語は苦手だが、少しは読めるようにチャレンジしたい」という履修者を主な対象とする。）

【学習目標】
・まず、マーケティングに関する外国語文献に接することから始める。
・そして、消化することのできる分量および速度により、本書に記されている内容を理解することに努める。
・最後に、マーケティングはもとより必要に応じて流通や商業に関する英語および日本語文献の紹介や、インターネットの活用等により、記されている内容についてより一層吸収することを目指す。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　Introduction
第３回　Chapter １（１）
第４回　Chapter １（２）
第５回　Chapter １（３）
第６回　Chapter １（４）
第７回　Chapter １（５）
第８回　Chapter １（６）
第９回　Chapter １（７）
第10回　Chapter １ まとめ
第11回　Chapter ２（１）
第12回　Chapter ２（２）
第13回　Chapter ２（３）
第14回　Chapter ２（４）
第15回　Chapter ２（５）
第16回　Chapter ２（６）
第17回　Chapter ２（７）
第18回　Chapter ２ まとめ
第19回　Chapter ３（１）
第20回　Chapter ３（２）
第21回　Chapter ３（３）
第22回　Chapter ３（４）
第23回　Chapter ３（５）
第24回　Chapter ３（６）
第25回　Chapter ３（７）
第26回　Chapter ３ まとめ
第27回　全体まとめ
第28回　テストまたはレポート

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　30%　出席　40%
・出席および担当箇所の和訳報告を重視する。
・試験とレポートの割合については、履修者の状況を見ながら最終的に決定する。

【教科書】
Jan Zimmerman Web Marketing for Dummies（2nd Edition）Wiley Publishing, Inc.
詳細については未定であるが、例えば上記のような文献を考えている。

【参考文献】
講義において、適宜、紹介する。

【備考】
【準備学習の指示】
経営学部の学生のみならず、各学部の学生をも対象としているので、あまり専門的な内容にまで踏み込むことは考えていない。とは言え、自分なりの興味や関心は示してほしいし、そのためにも各自でマーケティングや流通、商業などに関する書籍に目を通すなどして、「少しは見たことがある、触れたことがある」という程度の準備をしておいてほしい。

科目名　クラス　講義区分	
外国書講読　02＜通期＞	
石　黒　亜　維	4単位

【講義概要】
世界的金融危機以降、「東アジア共同体」構想がさまざまな形で議論されつつある今日、とりわけ日本と中国の関係は、経済的・政治的に重要とされている。他方で日中間には、歴史認識、経済権益などをめぐってさまざまな問題が存在し、ことあるごとに民衆的ナショナリズムが噴出する状況にある。このような日中関係を中国のマスメディア（媒体）はどのようにとらえているのであろうか。本講義では、中国で発行されている新聞・雑誌、出版物等から、主に日中関係、日中文化比較に関するトピックを取り上げ、関連する中文を講読する。適宜歴史的な文献も利用する。

【学習目標】
中国に対する理解を深め、日中相互認識の特徴をとらえる。
中文講読を通じて、日中双方のロジックを理解する。

【講義計画】
第１回　中国のメディア事情①
第２回　中国のメディア事情②
第３回　中国の新聞を読む①
第４回　中国の新聞を読む②
第５回　中国の新聞を読む③
第６回　中国の新聞を読む④
第７回　中国の雑誌を読む①
第８回　中国の雑誌を読む②
第９回　中国の雑誌を読む③
第10回　中国の雑誌を読む④
第11回　中国の現代文化を理解する①
第12回　中国の現代文化を理解する②
第13回　中国の現代文化を理解する③
第14回　中国の現代文化を理解する④
第15回　復習およびまとめ
第16回　中国の新聞を読む⑤
第17回　中国の新聞を読む⑥
第18回　中国の新聞を読む⑦
第19回　中国の新聞を読む⑧
第20回　中国の雑誌を読む⑤
第21回　中国の雑誌を読む⑥
第22回　中国の雑誌を読む⑦
第23回　中国の雑誌を読む⑧
第24回　中国の歴史文化を理解する①
第25回　中国の歴史文化を理解する②
第26回　中国の歴史文化を理解する③
第27回　日中文化比較①
第28回　日中文化比較②
第29回　日中文化比較③
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　10%　出席　70%
出席状況、筆記試験および授業中の小レポートから総合的に判断する。

【教科書】
オリジナル教材として適宜配布する。

【参考文献】
必要に応じて参考文献を紹介する。

【備考】
【準備学習の指示】
映画「クレイジー・イングリッシュ」の主人公李陽は、外国語の学習方法について「最大声」「最快速」「最明晰」という「三最口腔」（“口”の三大原則）を提唱しています。自宅で予習・復習する際にも、授業で取りあげた文章は「大きな声」で朗読するよう心がけて下さい。また言葉の背景となる文化を理解するために、日頃より新聞や雑誌などのメディアを通じてさまざまな関連情報を収集するよう努めてください。

科目名　クラス　講義区分	
外国法－英米法の歴史と現在　＜通期＞	
沼　口　智　則	４単位

【講義概要】
外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特質とは何かということについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえて講義を進めていきたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審判制のしくみ・アメリカ連邦制の特徴・判例法原則などを具体的判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴を日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法化社会」(＝「訴訟型契約社会」）のいくえも展望していきたい。

【学習目標】
英米法の思考方法をしっかり身につけてもらい、実定法解釈学的思考とはまた異なる考え方の基本を学んでほしい。
人権や三権分立の意義を理解してもらいたいと考える。

【講義計画】
第１回　春学期のシラバス紹介　――イギリス法中心――
第２回　英米法概説（１）　英米法とは？
第３回　〃　（２）　コモン・ロー
第４回　〃　（３）　エクイティ
第５回　〃　（４）　法の支配
第６回　イギリス法（１）　イギリス法小史Ⅰ　マグナ・カルタ
第７回　〃　（２）　〃　Ⅱ　権利請願
第８回　〃　（３）　〃　Ⅲ　権利章典
第９回　〃　（４）　議院内閣制
第10回　〃　（５）　権力の分立
第11回　英米法と日本への影響（１）　※ビデオ学習「日本国憲法を生んだ密室の９日間」
第12回　〃　（２）
第13回　〃　（３）
第14回　まとめ（夏休みの課題レポート）
第16回　秋学期のシラバス紹介　――アメリカ法中心――
第17回　アメリカ法（１）　アメリカ法小史Ⅰ
第18回　〃　（２）　〃　Ⅱ
第19回　〃　（３）　〃　Ⅲ　※アメリカの大統領制
第20回　〃　（４）　アメリカの陪審制Ⅰ
第21回　〃　（５）　〃　Ⅱ
第22回　〃　（６）　〃　Ⅱ　※ビデオ学習「12人の怒れる男」
第23回　〃　（７）　陪審制と日本の裁判員制度Ⅰ
第24回　〃　（８）　〃　Ⅱ
第25回　〃　（９）　アメリカの司法審査Ⅰ
第26回　〃　（10）　〃　Ⅱ
第27回　〃　（11）　〃　Ⅲ
第28回　〃　（12）　アメリカ法と日本への影響Ⅰ
第29回　〃　（13）　〃　Ⅱ
第30回　まとめ（論述式試験）

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　30%　出席　10%

【参考文献】
春・秋学期のシラバス紹介のとき基本文献を示すとともに、講義の中でその都度、紹介していく。

【備考】
テキストは使用しない
【準備学習の指示】
１．新聞やテレビのニュースに関心を持ち、法律や人権にかかわる記事をチェックすること。
２．特に英文法にかかわるニュースや記事はコピーしてノートにはっていくこと。
３．こまかい勉強の仕方は、講義の中で適時指示していく。

科目名　クラス　講義区分	
会社法　01＜春集＞	
瀬　谷　ゆり子	４単位

【講義概要】
経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻繁に法改正が行われており、2005年に商法典から分離した形で新会社法が成立した(2006年５月施行)。膨大な会社法本体の条文に加えて、会社法施行規則、会社計算規則を擁するすべてを扱うことは困難である。したがって、授業では、技術的な部分は除外し、会社法の根幹をなす制度の理解を中心に据えることになる。なお、必要に応じて金融商品取引法の検討は行っていくことにする。

【学習目標】
経済社会における中心的な法主体としての会社、とりわけ株式会社に関する法規整の理解を目指す。会社の設立、その機関構成と運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度の全体像を描くことができるようになることを目標とする。法人概念は押さえてあるという意味において、民法は履修済み(あるいは履修中)であることが望ましい。

【講義計画】
第１回　会社法の履修に当たって
　　会社法の全体像
第２回　取引社会と会社　会社概念と法人性
第３回　企業形態の選択
第４回　会社の種類
第５回　理念型としての法人の特質
第６回　株式会社の歴史と会社法の変遷
第７回　株式会社制度の特質
第８回　株式会社設立
第９回　会社の資金調達(設立時)
第10回　機関構成
第11回　設立登記(法人格取得の要件)　設立手続の瑕疵ー払込の仮装を含むー
第12回　株式
第13回　株式譲渡
第14回　自己の株式の取得・処分
第15回　運営機構総論
第16回　株主総会
第17回　業務執行機関ー取締役・取締役会制度
第18回　業務執行機関ー代表取締役・代表執行役
第19回　取締役・執行役の行為規制
第20回　監査制度ー大会社の場合と大会社以外の場合
第21回　役員の責任ー 対会社、対第三者
第22回　決算と利益配当
第23回　資金調達その１　募集株式の発行
第24回　資金調達その２　新株予約権
第25回　資金調達その３　社債発行
第26回　解散・清算
第27回　企業再編１
第28回　企業再編２

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%
期間内に数回行うクイズは、加点要素として用いる。

【教科書】
酒巻俊雄、尾崎安央編 新会社法 -改訂版- 青林書院

【参考文献】
最新の六法。
その他、授業中に適宜指示します。

【備考】
[事前学習等の指示]
新聞を読み、企業関係の記事をチェックしておくこと。
授業時間内に配布した資料は各自で必ず読んでおくこと。その際、条文の確認を忘れないように。
条文等を参照して完成させるべき未完成の手続きや組織図等を配布する。必ず、自分で作成しておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
会社法　02＜秋集＞	
吉　見　研　次	4単位

【講義概要】

本講義が対象とする会社法は、会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちである。だが、実際には会社法の守備範囲は限定的なものである。しかも、その内容は学生諸君にとって、いかにも疎遠な話ばかりである。「会社勤め」をする人にとっても、あまり役に立ちそうにもない。さらに、他の法律と比較しても煩瑣で技術的な規定が極めて多いのが、会社法の特徴といえる。こうした会社法の特質をよく認識した上で、学習意欲の旺盛な諸君が受講することを期待したい。いうまでもなく、毎回の授業に出席し内容の理解に努め、かつ相当量の復習・予習をこなさない限り、会社法の知識を修得することは困難である。

【学習目標】

①会社法の全体像を把握する。
②株式会社法の基本的な仕組みを理解する。
③株式会社法の重要条文の内容を理解し、正確な知識を修得する。
④株式会社法の主要判例の概要を理解する。
⑤株式会社法の主要な論点につき学説の概要を理解する。

【講義計画】

第１回　会社法の歴史と構成
第２回　会社の法的性質
第３回　会社の種類
第４回　会社の法人格
第５回　株式会社の設立とその手続
第６回　株式会社の定款
第７回　株式の仮装払込
第８回　株主の権利・義務
第９回　種類株式
第10回　株式の譲渡
第11回　自己株式
第12回　株式の併合・分割
第13回　株式会社の機関と株主総会
第14回　株主総会の招集・議事
第15回　株主総会の決議方法
第16回　株主総会決議の瑕疵
第17回　取締役
第18回　取締役・会社間の関係
第19回　取締役会
第20回　会計参与・監査役
第21回　監査役会・会計監査人・委員会
第22回　役員の責任
第23回　株主代表訴訟
第24回　株式の発行
第25回　新株予約権と社債
第26回　計算書類
第27回　資本金と剰余金の分配
第28回　会社の再編
第29回　補論
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験　100％

正誤文選択による短答式の学期末試験を予定している。各問いずれも４肢選択方式の計20問（１問５点、計100点）を出題するつもりである。短答式の試験は簡単だと思われるかもしれないが、実際にはそうではない。特に近年、不合格者の数が顕著に増加しているので、履修者は真剣かつ着実に学修に励んでもらいたい。

【教科書】

江頭憲治郎他（編）『ポケット六法平成23年版』有斐閣
他の出版社の『六法』（最初の授業時に紹介する）でも可

【参考文献】

柴田和史『株式会社の基本［第３版］』（日経文庫ビジュアル）
神田秀樹『会社法［第11版］』（弘文堂）
江頭憲治郎『株式会社法［第３版］』（有斐閣）
江頭憲治郎他（編）『会社法判例百選』（有斐閣）

【備考】

【準備学習の指示】

会社法の知識を正確に修得するには、相当の時間をかけた復習・予習が不可欠である。①授業時に配布されたレジュメ、資料を丁寧に読み返す。②引用条文はすべて『六法』で再確認する。③参考文献の該当箇所を精読する。④授業中に配布された問題を、改めて自力で解いてみる。⑤レジュメ、『六法』、参考文献等を参照しつつ、問題の全文を精査する。⑥レジュメ等の配布資料、引用条文の内容を他人に説明できるか、確認する。⑦授業中に指示された判例解説や論文を読む。⑧次回予告の内容につき、配布済み資料や『六法』、参考文献等にあたり予習をする。

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
カウンセリング[２]　＜春＞	
岡　井　哲　明	２単位

【講義概要】
悩み多き時代である。虐待やいじめ、自殺や他害の話題が新聞を賑わさない日はない。心の問題に深く関係していると思われることは多く、カウンセリングなど心理治療に対する期待は大きい。
　カウンセリングは、元々アメリカで教育相談として発展してきた対人援助技法であるが、日本に導入されて以来、相当に広がり多くの人々により実践され、今やカウンセリングという言葉を知らない人は少ない。
　本講義では、カウンセリングについて、その具体的な心理的援助が、実際に、どのような理論に基づいて展開されているのか、構造的なカウンセリングにおける約束事などルールの必要性を含めて、分かりやすく講義する。
　また、必要に応じて、講義だけに止まらず、ロールプレイなどの模擬実践による体験学習を組み入れる。

【学習目標】
　カウンセリング理論についての、基礎的な知識や技術などを学び、更に、実践的なカウンセリングのロールプレイを体験し、実践学としてのカウンセリングについての理解を深める。
　また、今後、対人援助に向かうであろう受講者にとっての一助となることをも目指している。

【講義計画】
第１回　「こころ」とは何か
第２回　カウンセリングとは
第３回　カウンセリングの歴史
第４回　カウンセリングの理論と技法
第５回　カウンセリングにおける構造化
第６回　カウンセリングの過程
第７回　カウンセリングの効用と限界
第８回　模擬体験実習①
第９回　模擬体験実習②
第10回　模擬体験実習③
第11回　模擬体験実習④
第12回　模擬体験実習⑤
第13回　模擬体験実習⑥
第14回　模擬体験実習⑦及び実践のまとめ

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　70%
カウンセリングの模擬実践講習が含まれているため、特別の理由がない限りは出席することが非常に重要である。

【参考文献】
その都度指定する。

科目名　クラス　講義区分	
科学技術史　＜通期＞	
松　永　俊　男	４単位

【講義概要】
西洋科学の流れを概観し、日本における西洋科学の受容について述べる。
西洋科学の源流は古代ギリシアにある。講義ではまず、ギリシアで科学が生まれた経過を探求し、ギリシア科学がイスラム文化圏で受け継がれ、発展した経過を追う。ついで、イスラム文化の導入により、ヨーロッパで科学革命が起こり、近代科学が発展していった経過を述べる。
講義の後半では、江戸時代に主としてオランダ語を介して西洋の科学が日本に導入された経過を追い、明治以降の西洋科学の導入について考察する。

【学習目標】
科学の発展の大筋を理解することが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　古代ギリシア：科学的精神の誕生
第３回　アリストテレスの生涯と業績
第４回　アレクサンドリアの科学
第５回　イスラムの科学
第６回　ヨーロッパ中世の科学
第７回　キリスト教と近代科学
第８回　ルネサンス期の科学と魔術（１）ホロスコープ占星術
第９回　ルネサンス期の科学と魔術（２）錬金術
第10回　ルネサンス期の科学と魔術（３）コペルニクスの生涯と業績
第11回　ガリレオの生涯と業績
第12回　ニュートンの生涯と業績
第13回　18世紀の科学（１）啓蒙思想
第14回　18世紀の科学（２）化学革命
第15回　19世紀の物理学：電磁気学と熱力学
第16回　19世紀の生物学（１進化論
第17回　19世紀の生物学（２）ダーウィンの生涯と業績
第18回　20世紀の物理学：相対性理論と量子力学
第19回　20世紀の生物学（１）遺伝学
第20回　20世紀の生物学（２）分子遺伝学
第21回　20世紀の地球科学：大陸移動説とプレートテクトニクス
第22回　日本における科学の導入（１）南蛮学・蘭学・洋学
第23回　日本における科学の導入（２）長崎出島
第24回　日本における科学の導入（３）大阪の天文学と伊能図
第25回　日本における科学の導入（４）緒方洪庵と適塾
第26回　近代日本の科学（１）
第27回　近代日本の科学（２）
第28回　近代日本の科学（３）
第29回　まとめ
第30回　テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　０%　出席　50%
受講生が百名以内の場合は、毎回の授業時の小テストを中心に評価する。受講生が多数で毎回の小テストが無理な場合は、年、数回にとどめる。いずれの場合も学年末テストを実施する。レポートは出題しない。

科目名　クラス　講義区分	
科学思想史　＜春集＞	
本　間　栄　男	4単位

【講義概要】
「歴史の中の科学」　科学というものの考え方の成立の歴史的背景を探求する。古代ギリシャから20世紀前半までの主に西洋の科学思想が対象である。

【学習目標】
個々の具体的な科学知識を学ぶのではなく、歴史の中で科学が果たしてきた役割を知ることによって、現代の我々の社会での科学技術との関わり合い方について自分なりの見解をもてるようになること。

【講義計画】
第１回　イントロダクション
第２回　「科学」とは何か
第３回　ソクラテス以前の自然思想（１）
第４回　ソクラテス以前の自然思想（２）
第５回　プラトンとアリストテレス
第６回　古代ギリシャの医術
第７回　古代アレクサンドリアの科学
第８回　古代末期の思想
第９回　イスラム圏の科学と中世ラテン世界の科学
第10回　ルネサンス技術と科学
第11回　ルネサンス三大発明（１）
第12回　ルネサンス三大発明（２）
第13回　天文学の革命
第14回　ガリレオ
第15回　科学革命論
第16回　ニュートンと啓蒙思想
第17回　博物学の時代
第18回　江戸時代日本の西洋科学
第19回　19世紀科学のイメージ
第20回　19医学の革命
第21回　ダーウィンと進化思想
第22回　19世紀物理学の進歩
第23回　万国博覧会と科学
第24回　ノーベル賞
第25回　マリー・キュリー
第26回　アインシュタインと20世紀科学の宿命
第27回　20世紀の物理学
第28回　20世紀の生命科学
第29回　まとめ
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％

【参考文献】
伊東俊太郎他『思想史の中の科学』平凡社ライブラリー　2002年
金森修・井山弘幸『現代科学論』新曜社　2000年

【備考】
【準備学習の指示】
世界史についての知識を思い出すために、高校などで使った教科書を読み直す。参考図書などを読んで、科学史の概略的知識を持つように努める。

科目名　クラス　講義区分	
学際科目－市民社会と専門家を結ぶ回路のデザイン＜秋集＞	
境　　真理子	4単位

【講義概要】
回路のデザインとは、専門家と市民のあいだに溝や乖離がある分野をつなぐため、どのようなことが可能かを考える授業です。放送、科学技術、法律や医療などの分野は、高度に専門家、細分化して実体がわかりにくいものとなり、専門家と市民のあいだに溝が広がっています。このため、専門と非専門のあいだに双方が理解しあえるような回路をつくるための「横断知」が求められています。例えば、私たちは毎日のようにテレビなどのマス・メディアから情報を得て、デジタルメディア社会を生きています。あるいは、生殖医療など科学が急速に進展する社会に、個人として向き合っています。司法では裁判員制度が始まり、判決に参加するようになりました。いわば、小さな個人が、巨大で複雑な専門領域と対峙しているわけです。このような現実の状況にもかかわらず、専門家と市民は互いに行き来して対話しあうことはほとんどありません。そのため、双方をつなぐ回路を実際にデザインするという視点から、出会い理解しあうための仕組みや、豊かなコミュニケーションを生み出す方法を考えます。

【学習目標】
回路のデザインとは、単に情報を市民社会に届ける手法のことではなく、対話に基づいた公正で人間的な調和社会をどう築くかという理念を考えることです。利害や立場の異なる当事者、また専門家と市民をつなぐために、どのようなデザインが可能なのか、授業では、その可能性や課題を論じるだけでなく、メディアや科学技術をめぐるいくつかの取り組みを参照しながら、実際に回路を作ることを試みます。企画し、さらに計画を練り上げ、試みる経験を通して、応用力と実践力を身につけることをねらいとします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション：到達目標の説明と授業概要
第２回　情報リテラシー１：メディアと影響力
第３回　情報リテラシー２：メディア情報と責任
第４回　メディア表現１：多様な媒体と特性
第５回　メディア表現２：最適な媒体を探す
第６回　メディア表現３：活字、絵、映像概論
第７回　ミュージアムのデザイン１：博物館学
第８回　ミュージアムのデザイン２：展示と社会心理
第９回　ミュージアムのデザイン３：展示とテーマ
第10回　具体例からみる回路のデザイン１：情報デザイン
第11回　具体例からみる回路のデザイン２：ワークショップ
第12回　回路をデザインする１：専門家と市民
第13回　回路をデザインする２：放送の送り手と受け手
第14回　回路をデザインする３：科学技術と市民
第15回　回路をデザインする４：医療、司法と市民
第16回　中間発表１：グループワークによる計画案の作成
第17回　中間発表２：作成プランの評価
第18回　フィールドワーク１：専門家の現場
第19回　フィールドワーク２：専門家との対話
第20回　フィールドワーク３：専門家と協働
第21回　インタビュー研究１：話を聞く技術
第22回　インタビュー研究２：話をまとめる技術、構成
第23回　コンテンツの企画研究１：映像、出版物
第24回　コンテンツの企画研究２：イベント、グッズ
第25回　ネットワークの利用１：情報発信の方法
第26回　プリゼンテーション１：成果発表
第27回　プリゼンテーション２：発表の評価
第28回　総合ディスカッション
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　40％　レポート　30％　出席　30％
期末のレポート課題、随時出されるミニレポートのほか、出席やプリゼンテーション、さらに授業への積極的な参加を総合して評価する。

【教科書】
編集：水越伸　メディアリテラシー・ワークショップ　東京大学出版会　2009

【参考文献】
推薦図書リストを配布する

【備考】
【準備学習の指示】
本授業は、初歩的・入門的な内容ではなく、情報やメディアに関する知識をある程度もっていることを前提に進められる。従って専門的なメディア用語を多用する。用語に慣れていない場合は、事前に書籍などで基礎知識をつけておくこと。テキストの課題は随時講義で指示するので、その都度読んでくること。常に学生間の議論を求めるため、日ごろから自分の考えを簡潔にプレゼンテーションできる技能をみがくよう準備してほしい。

科目名　クラス　講義区分	
学部入門講義　01＜春＞ 学部入門講義　02＜秋＞	
Philip　Billingsley	２単位

【講義概要】
入学した時点で直面する悩みの一つ：「時間割を作らないといけないけど、どのコースを取ればいいのか？」。いや、その前に迷うことがあるはず：「そもそもこの学部にはどんな授業があるか？」、「どんな先生がいるのか？」など。通常は「先輩」に聞けば参考になるが、必ずしも正しい情報が得られるわけではない。そこでこの学部入門講義はお助けマンを演じる。この授業は「インテグレーション」という形をとる。国際教養学部は５つの専修（ヨーロッパ・アメリカ文化専修、英語コミュニケーション専修、アジア文化専修、Japanese Studies専修、メディア文化専修）に分かれていて、専任教員はみんないずれかの専修に所属している。この授業では、同じ先生が期間を通じて毎回話する従来のパターンではなく、それぞれの専修を代表する複数の教員が自分自身の担当分野に基づいて一回ずつ講義をすることになる。したがって、コースが終了した時点ではこの学部がどんな学部なのか、どんな先生がいるのかなど一通りわかるはずだ。学生諸君は２回生の時から進みたい方向によっていずれかの専修の科目を主に選ぶことになるが、そのときにこの学部入門講義で聴いた様々な話は大いに参考になる。

【学習目標】
国際教養学部はある特定の教育理念で設置されている。それは、「世界の市民を養成する」という理念。「世界の市民」とは、グローバル化が進む21世紀の世界において、幅広い教養を持ち、氾濫する情報に流されずに批判的に判断して、主体的に行動できる人間、世界に大きく羽ばたき活躍できる能力を持つと同時に地域にも貢献できる人間のことである。講義する教員一人ひとりはそのようなビジョンを踏まえて話を進める。そして何よりも、様々な分野に関して（イスラーム文化から英語の教え方まで）色々な楽しい話が聴ける！というのはこの講義の大きなメリットです。ぜひとってみてください。

【講義計画】
第１回：担当者Billingsleyによる国際教養学部の教育理念や学部を構成する５専修について、講義の進め方についてなどの話。専修おのおのの設置趣旨、教授する内容や目標を紹介し、それぞれの専修において何は学べるのか、あるいは学ばなければならないかを具体的にわかりやすく説明する。
第２回～第14回：５専修を代表する計13名の学部教員による講義（詳細についてはプリントを用意して最初の講義のとき配る予定）：アジア文化専修の教員３名、メディア文化専修の教員２名、英語コミュニケーション専修の教員２名、ヨーロッパ・アメリカ文化専修の教員それぞれ２名、そしてJapanese Studies専修の教員２名。（詳しい日程は第１回の講義で発表する。）

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
1．　出席に関して：２回生以降の進路を決めるのに重要な科目なので出席を重視する。毎回の講義に対する感想、意見、疑問などを書いて提出する義務がある。（そのときの担当者に添削されて後に返ってくる。）
2．レポートに関して：最も興味を感じた講義を二つ選んでそれぞれの要点並びに自分の意見を述べるという内容からなる。詳しくは１回目の講義で。

【参考文献】
特になし。それぞれの担当者によって随時資料が配られる。

【備考】
一部の講義のみ英語で行う可能性あり
・インテグレーション科目
・10L生対象

科目名　クラス　講義区分	
家族社会学　＜春集＞	
木　下　栄　二	４単位

【講義概要】
家族と聞いてどんなイメージを持つだろうか。温かい家庭、父母兄弟、あるいは結婚や恋愛を思い浮かべるかも知れない。しかし、現実は多様である。家庭が温かいとは限らないし、父母兄弟の仲が良いとも限らない。恋愛にしても、ふられた方から見れば、排除の論理である。さらに、家族のあり方は、国によって時代によっても多様である。それでは家族とは何か。この講義では、誰でも知っているが、実はよくわからない「家族」という現象を切り口として、社会について考える方法について論じてみたい。

【学習目標】
家族現象を切り口とした社会分析の方法論、家族社会学の基本的視角と分析のための諸概念の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】
第１回　家族研究の発端①
第２回　家族研究の発端②
第３回　家族分析の基礎①
第４回　家族分析の基礎②
第５回　親族と地域社会
第６回　家族変動①
第７回　家族変動②
第８回　近代家族論
第９回　結婚と結婚行動
第10回　夫婦関係①
第11回　夫婦関係②
第12回　生殖行動
第13回　子育てと子どもの社会化①
第14回　子育てと子どもの社会化②
第15回　階層・職業と家族
第16回　家族と個人①
第17回　家族と個人②
第18回　離婚
第19回　世代間関係
第20回　家族危機①
第21回　家族危機②
第22回　家族問題①
第23回　家族問題②
第24回　家族政策①
第25回　家族政策②
第26回　補論　データで見る家族①
第27回　補論　データで見る家族②
第28回　補論　データで見る家族③
第29回　補論　データで見る家族④
第30回　総括

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%
授業期間中に実施する小テストおよび小レポート（およそ30%）と期末試験（およそ70%）で評価する。

【教科書】
野々山久也（編）『論点ハンドブック　家族社会学』世界思想社

【備考】
【準備学習の指示】
テキストを事前に読んでおくことが望ましい。提示する課題にも積極的にチャレンジするように。

科目名　クラス　講義区分	
家族福祉論　＜通期＞	
梓　川　　一	4単位

【講義概要】
現代の家族について、理念的、学問的、実証的、時に感覚的・体験的に解明していく。社会福祉学的視点はもとより、社会学、心理学、人間学、経済学からも「家族・社会・人間・個人」をとらえる。後期には各論的に検討するが、その際、主に児童虐待を主たる事例に取り上げながら、家族、親子、養育・教育、専門職者の援助・実践について検討をしていきたい。

【学習目標】
受講する学生には、一年を通して家族をテーマにさまざまな思いや考えをもってもらいたい。学生個人の将来の進路に関わらず、家族、生活、人生、両親への思い、大人・社会人になること、結婚、親になることなどを、素直に謙虚に感じ取り・学び、そこから学生にとっての気づきと質的変容、生きていることの実感へつながることを目指したい。基本的には講義形式ではあるが、学生とのコミュニケーションを重要視し、ともに考えあえるスタイルをテーマとしたい。

【講義計画】
第１回　講義の評価方法、講義に対する主体的な姿勢
　　人間環境と群集心理（社会適応力、社会性、道徳・社会規範）
第２回　家族福祉の概念と定義（家族福祉とは、家族福祉を学ぶ意味と目的、家族と家庭）
第３回　家族内の関係性（親と子、きょうだい、家族内の三角関係）
第４回　家族福祉学と家族社会学（援助の原理、社会問題と社会福祉問題、社会福祉の視点）
第５回　富裕化社会と家族問題（貨幣的貧困と非貨幣的貧困、個人・家族のニーズ）
第６回　社会福祉の理論と実践①（マクロ的視点とミクロ的視点、資本主義社会と個人の生活）
第７回　社会福祉の理論と実践②（価値の認識、主観性と客観性、福祉学・人間学の思想と哲学）
第８回　歴史にみる日本の家族①（歴史検証の意義、封建時代・明治・大正・昭和期の日本の家族、家から家族へ）
第９回　歴史にみる日本の家族②（政治経済と家族の変遷、高度経済成長期および低成長期の家族）
第10回　現代社会と家族の実情（社会・家族・個人の変化）、現代家族にみる欠落（家族の居場所、住宅構造、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）
第11回　現代社会と家族の構造（文献・先行研究①　縦社会の人間関係）
第12回　現代社会と家族の構造（文献・先行研究②　日本人の生活観、相対的価値観）
第13回　父親と母親（父親の役割と母親の役割）
第14回　父性と母性（父性に基づく教育・しつけ、母性の愛）
第15回　前期末試験
第16回　父親の存在と強さ（医学モデルと生活モデル）
第17回　人間と環境の視点（エコロジカル・アプローチ、サリバン教育にみる服従と愛）
第18回　ソーシャルワークの歴史的研究
第19回　家族の機能
第20回　家族の機能が発揮できるために（聴くこと、わかること、話ことばの意味）
第21回　家族ソーシャルワーク（家族の援助・支援、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに基づく援助方法）
第22回　幸せな家族の要件①（家族愛、幸福論）
第23回　幸せな家族の要件②（ライフサイクルと家族の変容）
第24回　生活問題を抱える家族（家族の危機・病理）
第25回　児童虐待にみる家族の本質①（大人と子ども、子どもの存在・価値、法制度の整理）
第26回　児童虐待にみる家族の本質②（子どもの理解と子育て）
第27回　児童虐待にみる家族の本質③（虐待の定義、専門職者の援助と実践）
第28回　児童虐待にみる家族の本質④（先行研究：現代社会における家族の構造的・心理的特徴）
第29回　まとめ：家族の理解と支援、家庭内教育の本質、家族の再統合
第30回　後期末試験

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　40%　出席　20%
①試験：学期末に２回の試験を行う。講義内容のみを問うものとする。
②レポート：講義中に確認テスト・レポートを約10回は実施する。これは講義の理解度を確認するとともに、学生個人の意見や考え方を汲み取ることも目的とする。
③出席：出席や受講姿勢をみる。講義中の私語、携帯、居眠りなどに対しては厳重に対処する。

【教科書】
畠中宗一編　よくわかる家族福祉　ミネルヴァ書房

【参考文献】
山縣文治編著『よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房、2002年。
中根千枝『タテ社会の人間関係』講談社現代新書、1967年。
河合隼雄『母性社会　日本の病理』講談社、1997年。

【備考】
【準備学習の指示】
①講義では毎回、その講義内容にあたるテキストの箇所を次々と確認していくので、現代社会の家族の概念や特徴、社会福祉の援助の方法など（次回の内容については講義中に案内する）、前もって読んでおくこと。使用するテキストは、基本的な内容であり、わかりやすく説明されているので、読みやすい。
②講義中に、次回に説明する文献や先行研究を紹介するので、各自、目を通しておくこと。また講義後こそ、文献を読み込んでおくことが大切である。

科目名　クラス　講義区分	
学科特殊講義－英語における「読心術」　＜春＞	
Kevin　R.　Gregg	２単位

【講義概要】
This class will be conducted in English.
In conversation (in our native language), we have to understand what the sentences mean, but we also have to understand what the speaker means. A speaker may say X, but really mean Y; or he may say X, but mean X & Y & Z. Since speakers don't say "I mean Y", we have to read their minds. We are actually very good at doing this. In this class we will find out about mindreading.

【学習目標】
Conversation in any language follows certain general rules. Using English as an example, we will look at these rules, and see how we use them to understand what other people mean, and to make other people understand what we mean, without saying what we mean. The rules seem to be simple and commonsensical, but we will see how they help us read each other's mind.

【講義計画】
第１回　introduction; 'theory of mind'
第２回　two kinds of meaning; the Principle of Cooperation
第３回　rules of conversation 1
第４回　rules of conversation 2
第５回　rules of conversation 3
第６回　rules of conversation 4
第７回　rules of conversation 5
第８回　rules of conversation 6
第９回　rules of conversation 7
第10回　rules of conversation 8
第11回　rules of conversation 9
第12回　rules of conversation 10
第13回　rules of conversation 11
第14回　rules of conversation 12
第15回　examination

【成績評価の方法】
試験　100%
There will be several short quizzes (maybe as many as 8), as well as a final examination. The final exam will probably count for no more than 50% of the grade, so it would make sense to attend all the classes.

【備考】
・英語による講義

科目名　クラス　講義区分	
学科特殊講義－東南アジア近現代史　＜春＞	
片　山　須美子	２単位

【講義概要】
東南アジアの歴史を19世紀後半から20世紀前半を中心として概説する。

【学習目標】
現在、東南アジアはアメリカ・中国とならんで日本の主要貿易相手国である。東南アジアにとっても日本の存在は非常に大きい。だが、東南アジアについての一般日本人の知識は非常に乏しい。夏目漱石も福沢諭吉も知らない外国人が、日本の文化について語ったとして、説得力があるだろうか？東南アジアを知る上で、近現代の歴史は最低限必要な知識である。

【講義計画】
第１回　ガイダンス。
　　なお、以下の授業計画は、学生の理解度などに応じて適宜調整する。
第２回　東南アジアの自然と生態
第３回　近世東南アジアの最終形態
第４回　植民地化と体制改革（１）
第５回　植民地化と体制改革（２）
第６回　植民地と近代がもたらしたもの（１）
第７回　植民地と近代がもたらしたもの（２）
第８回　独立運動とナショナリズム（１）
第９回　独立運動とナショナリズム（２）
第10回　太平洋戦争と大東亜共栄圏
第11回　冷戦と東南アジア（１）
第12回　冷戦と東南アジア（２）
第13回　ポスト冷戦期の東南アジアとASEAN（１）
第14回　ポスト冷戦期の東南アジアとASEAN（２）
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　０%
出席は一切考慮しない。試験（記述式）を原則とするが、受講生数や受講生の希望によってはレポート（中間レポートの場合もあり）を課す場合もある。

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

【備考】
【準備学習の指示】なじみのない地域なので、地図帳などを見て地理感を養っておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
学科特殊講義－宮崎アニメの世界Ⅰ　01＜春集＞ 学科特殊講義－宮崎アニメの世界Ⅰ　02＜秋集＞	
取　屋　淳　子	4単位

【講義概要】
"Anime" (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.
This course will look at a number of Miyazaki's movies including "My Neighbor Totoro", "Princess Mononoke", and "Spirited Away" from various angles. In addition to Miyazaki's works, other Japanese anime movies will also be taken up, the history of Japanese animation will be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company, which are the most widely known.

【学習目標】
By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received, and the reaction of audiences worldwide.
Movies examined will include:
○ Miyazaki Works: "Nausicaä of the Valley of the Wind", "My Neighbor Totoro", "Princess Mononoke", "Spirited Away" etc …
○ Other Anime Productions: "Haku-ja den", "Akira", "GHOST IN THE SHELL", "Pokemon", etc.

【講義計画】
第１回　Introduction of the lectures
第２回　Introduction of the lectures
第３回　Starting point of Miyazaki Hayao①
第４回　Starting point of Miyazaki Hayao①
第５回　Starting point of Miyazaki Hayao②
第６回　Starting point of Miyazaki Hayao②
第７回　Starting point of Miyazaki Hayao③
第８回　Starting point of Miyazaki Hayao③
第９回　History of Japanese Anime①
第10回　History of Japanese Anime①
第11回　History of Japanese Anime②
第12回　History of Japanese Anime②
第13回　History of Japanese Anime③
第14回　History of Japanese Anime③
第15回　Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第16回　Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe①
第17回　Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②
第18回　Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe②
第19回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第20回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime①
第21回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第22回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime②
第23回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第24回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime③
第25回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第26回　Japanese Culture in Miyazaki's Anime④
第27回　Review①
第28回　Review①
第29回　Review②
第30回　Review②

【成績評価の方法】
Attendance＋Term paper and Final examination(in English).

【教科書】
There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】
Helen McCarthy: Hayao Miyazaki: Master of Japanese Animation: Films, Themes, Artistry (1999)

【備考】
出席カード、提出レポート、および試験はすべて英語で書いてもらいます。
・英語による講義
・04～08L生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
学校図書館論Ⅰ　＜秋＞	
志保田　　務	2単位

【講義概要】
学校図書館の意義や役割を、学校教育との関係を土台に講義する。

【学習目標】
学校図書館の意義や役割を、学校教育との関係を受講者に把握してもらい、学校図書館を学校教育上に活用することを図る。

【講義計画】
第１回　学校図書館概説
第２回　学校経営と学校図書館（１）
第３回　学校経営と学校図書館（２）
第４回　学校図書館と法規・基準（１）
第５回　学校図書館と法規・基準（２）
第６回　学校図書館の管理運営（１）
第７回　学校図書館の管理運営（２）
第８回　学校図書館の管理運営（３）
第９回　司書教諭、学校司書の働き
第10回　学校図書館の授業への寄与（１）
第11回　学校図書館の授業への寄与（２）
第12回　学校図書館の授業への寄与（３）
第13回　学校図書館をめぐるネットワーク（１）
第14回　学校図書館をめぐるネットワーク（２）
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　85%　レポート　15%　出席　０%
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】
志保田務・北克一・山本順一　学校教育と図書館：司書教諭科目のねらい・内容とその解説 第一法規

科目名　クラス　講義区分	
学校図書館論Ⅱ　＜春＞	
志保田　　務	２単位

【講義概要】
学校図書館メディア（資料）の種類と特性を把握する。その収集（選択、受け入れ）の意味を述べ、それを利用に供するために作成する、分類、目録について学習する。

【学習目標】
学校図書館メディア（資料）の収集（選択、受け入れ）の意味を把握させ、その実際に及びうるようにする。そのための、分類、目録について、その電子化（OPAC）、国立国会図書館のJAPAN　MARCなどの利用二間して学習する。

【講義計画】
第１回　学校図書館メディアの構成・概説
第２回　学校図書館メディアの種類
第３回　一次資料と二次資料
第４回　資料の利用目的と学校図書館メディア
第５回　学校図書館メディアの構築とその基準
第６回　学校図書館メディア選択とそのツール
第７回　学校図書館メディアの評価
第８回　学校図書館メディアの組織化
第９回　目録：その意義と機能
第10回　主題目録の意義と機能
第11回　分類記号の体系と分類付与作業
第12回　件名の体系と件名付与作業
第13回　学校図書館メディアの配列
第14回　学校図書館メディアの多様化
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　85%　レポート　15%　出席　０%
出席は、それ自体としては評価の基準に入れない。ただし、出席は原則採り、理由なき出席不良者に対しては減点する。

【教科書】
志保田務・北克一・山本順一　学校教育と図書館：司書教諭科目のねらい・内容とその解説 第一法規

科目名　クラス　講義区分	
学校図書館論Ⅲ　＜春＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
本講義は、学校図書館現場で活躍されている現職の司書教諭、学校司書の方々をゲスト講師として招き、校種ごとの実務に即した知識、技法を受講生に伝えようとする‘インテグレーション科目’として編成する。ゲスト講師とのスケジュール調整等を必要とするため、順序と内容にいくらか変動はあり得る。

【学習目標】
学校教育において展開される各教科の授業を支援する学校図書館のフィロソフィーとスキルを身につけてほしい。

【講義計画】
第１回　はじめに：　学習指導と学校図書館
第２回　児童生徒の発達と学校図書館メディア
第３回　学校図書館における情報サービスのあり方
第４回　学校図書館の規範的役割と世界の学校教育
第５回　地元Ｓ市の小学校図書館の実態
第６回　小学校における児童の発達過程と学習指導要領、そして学校図書館の役割
第７回　小学校における学校図書館を活用した学習の実践例
第８回　中学校における学習指導要領と学校図書館の位置づけ・役割
第９回　中学校における調べ学習、「総合的な学習の時間の理念と実態
第10回　中学校における学校図書館を活用した学習の実践例
第11回　高校図書室の学校教育制度上の位置づけと役割
第12回　高校図書室利用の現実
第13回　公立図書館と学校教育支援Ⅰ
第14回　公立図書館と学校教育支援Ⅱ
第15回　むすび

【成績評価の方法】
試験　65%　レポート　20%　出席　15%
小学校、中学校、高校の学校図書館実務者、および地元公立図書館で学校教育支援にあたっている担当者をゲスト講師として起用するが、それぞれの単元でレポート提出を義務付ける。成績評価は、予習とレポートを通じての復習、そして最終試験を総合的に評価することになる。

【教科書】
志保田務ほか 学校教育と図書館 第一法規

【参考文献】
渡辺重夫『学習指導と学校図書館』学文社, 2000
そのほか、講師により、その都度、紹介される。

【備考】
準備学習の指示等：　テキストの該当部分の予習を前提に講義が展開されるので、テキストの該当箇所を味読したうえでの出席が期待される。
・インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
学校図書館論Ⅳ　＜秋＞	
山　本　順　一	２単位

【講義概要】
本講義は、学校図書館現場で活躍されている現職の司書教諭、学校司書の方々をゲスト講師として招き、校種ごとの実務に即した知識、技法を受講生に伝えようとする‘インテグレーション科目’として編成する。ゲスト講師とのスケジュール調整などの関係で、順序と内容に若干の変更はあり得る。

【学習目標】
この科目の受講を通じて、児童生徒の情操教育、人格の陶冶に資する学校図書館の‘読書センター’機能の発揮に役立つ知識と技法を身につけてほしい。具体的には、学校図書館を舞台とする読み聞かせや朗読、パネルシアターやアニマシオンなどのスキルの修得が期待される。

【講義計画】
第１回　‘読書’の意義と目的
第２回　読書振興法制
第３回　読書指導の計画と方法
第４回　読書材の種類と特性
第５回　小学生の生活と読書材の利用実態
第６回　小学校における読書支援に関する諸活動
第７回　小学生を対象とする図書館サービスの実演
第８回　中学生の生活構造と読書実態
第９回　中学校における読書推進活動の事例紹介
第10回　中学生を対象とする図書館サービスの実演
第11回　朗読の楽しさとテクニック
第12回　古典、名作、児童文学作品の味わい方
第13回　朗読技術のスキルアップ
第14回　読書と脳科学
第15回　むすび

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
出席率、受講態度を参酌しつつ、ゲスト講師に提出されるレポート、および学期末の試験により総合評価を行う。

【教科書】
志保田務ほか 学校教育と図書館 第一法規

【参考文献】
黒古一夫ほか『読書と豊かな人間性』学文社, 2007.
そのほか、講師により、その都度、紹介される。

【備考】
準備学習の指示等：　テキストの該当箇所の予習を前提に講義が展開されるので、事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
・インテグレーション科目

科目名　クラス　講義区分	
株式会社会計　＜秋＞	
河　野　　勉	２単位

【講義概要】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

【学習目標】
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。
財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】
第１回　１．簿記一巡の取引と財務諸表
第２回　銀行勘定調整表、有価証券取引
第３回　債権債務取引、手形取引
第４回　商品売買取引、引当金取引
第５回　特殊商品売買取引
第６回　固定資産取引
第７回　損益取引　帳簿組織、伝票式会計
第８回　設立・増資の会計処理
第９回　繰延資産、純資産　剰余金
第10回　会社の合併、社債
第11回　決算手続、決算整理事項
第12回　本支店会計
第13回　財務諸表（決算書）
第14回　総復習

【成績評価の方法】
定期考査の成績に、適宜ホームワークを課し、その提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】
・加古　宜士・渡辺裕亘　片山　覚（編著）
「新検定簿記ワークブック２級商業簿記」（中央経済社）
「新検定簿記講義２級」（中央経済社）

科目名　クラス　講義区分	
環境経済論　＜通期＞	
浦　出　俊　和	4単位

【講義概要】

環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。

本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。

環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定であるので、これらの知識がない者でも歓迎する。

【学習目標】

本講義では、環境問題の特質を理解することによって、環境保全を行うことがコスト負担を伴うことであり、ゆえに、誰がそのコストを負担することが望ましいのかについて、各自が考察できるようになることが目標である。

【講義計画】

第１回　環境問題とは何か？
第２回　環境問題と経済学
第３回　ゴミ問題－ゴミの増大要因
第４回　廃棄物の需要と供給
第５回　ゴミの有料化問題
第６回　ゴミのリサイクル問題
第７回　日本の廃棄物政策（１）
第８回　日本の廃棄物政策（２）
第９回　環境問題の経済学的意味
第10回　市場均衡と市場の失敗（１）
第11回　市場均衡と市場の失敗（２）
第12回　環境問題と外部性（１）
第13回　環境問題と外部性（２）
第14回　環境問題と公共財
第15回　中間まとめ
第16回　環境政策の経済的手段と最適汚染水準
第17回　直接規制－数量規制
第18回　間接規制（１）－課徴金制度（ピグー税、ボーモル＝オーツ税）
第19回　間接規制（２）－補助金制度（ピグー的補助金）
第20回　間接規制（３）－排出量取引制度
第21回　直接規制と間接規制の組み合わせ－デポジット制度
第22回　数量規制と課徴金制度の比較（１）
第23回　数量規制と課徴金制度の比較（２）
第24回　課徴金制度における問題点
第25回　コースの定理
第26回　京都議定書の概要と意義
第27回　非枯渇性資源問題とゲーム論
第28回　環境価値の経済評価
第29回　試験

【成績評価の方法】

試験　100％

原則として、学年度末試験の成績によって評価するが、前期末に実施する中間試験の結果も成績評価に加味する。

【参考文献】

１）植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
２）R.K.ターナー・D.ピアス・I.ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）
３）日引聡・有村俊秀（著）『入門環境経済学』（中公新書）

【備考】

講義概要や講義資料は下記を参照のこと。
http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html

科目名　クラス　講義区分	
環境社会学　＜秋集＞	
大　倉　季　久	4単位

【講義概要】

この講義では、環境社会学の基本的な考え方について、とくに「環境問題の社会学」と「環境政策の社会学」という観点から概説する。昨今の地球温暖化をめぐる議論を見ればわかるように、環境問題というと自然現象として片づけられがちである。しかし、問題の内実を注意深く見ていくと、多くの場合、問題がわれわれの生活様式の変化や地域社会の特性、あるいは政策当局の取り組みや決定と深く結びつきながら発生していることがわかる。このような環境問題の背後で生じている現象や問題に焦点をあてて、問題の発生・拡大を支えるメカニズムを解明し、今日われわれが直面している環境問題の特質について明らかにしていく。

【学習目標】

観念的な議論を排し、人びとが問題に直面するということの具体的な現実に対する深い洞察から今日、環境をめぐって起こっている現象の背後に存在するさまざまな問題の様相を社会学的に認識すること、およびそのような現実から今日の環境政策が取り組むべき課題を検討し、新たな政策を構想していく手がかりをつかむこと。

【講義計画】

第１回　イントロダクション：環境社会学とは何か？
第２回　環境問題の歴史と現在（１）環境問題の歴史と時期区分
第３回　環境問題の歴史と現在（２）地球規模の不公正としての環境問題
第４回　環境問題の社会学（１）被害と加害①公害問題：水俣病をめぐって
第５回　環境問題の社会学（２）被害と加害②水俣病問題の争点：被害の社会的構造
第６回　環境問題の社会学（３）被害と加害③水俣病問題の争点：認定基準をめぐって
第７回　環境問題の社会学（４）「社会的不平等」と環境問題
第８回　環境問題の社会学（５）受益と受苦①社会資本の整備と環境問題
第９回　環境問題の社会学（６）受益と受苦②受苦の社会的性格
第10回　環境問題の社会学（７）「共同便益性」と環境問題
第11回　環境問題の社会学（８）社会的ジレンマ①環境問題の現代的特質
第12回　環境問題の社会学（９）社会的ジレンマ②コモンズ論の問題提起
第13回　環境問題の社会学（10）「世代間倫理」と環境問題
第14回　中間総括：環境問題は個人の心がけの問題か？
第15回　環境政策の社会学（１）環境問題の政策過程
第16回　環境政策の社会学（２）資源循環型社会の制度設計①廃棄物政策の展開と現状
第17回　環境政策の社会学（３）資源循環型社会の制度設計②「都市鉱山」というアイデア
第18回　環境政策の社会学（４）食と環境政策①遺伝子組み換え作物とグリーンコンシューマリズム
第19回　環境政策の社会学（５）食と環境政策②食べるのか、燃やすのか
第20回　環境政策の社会学（６）終わらない公害
第21回　環境問題の新局面：気候変動のインパクト（１）地球温暖化と環境問題像の変質
第22回　環境問題の新局面：気候変動のインパクト（２）「空気がカネになる」とは？
第23回　環境問題の新局面：気候変動のインパクト（３）環境政策の組み替え
第24回　環境政策の社会学（７）自然エネルギー市場の拡大
第25回　環境政策の社会学（８）サステイナブル・シティという実践
第26回　環境政策の社会学（９）政策統合の最前線：環境政策と福祉政策の統合？
第27回　環境政策の社会学（10）環境政策の推進をめぐる苦悩：「原発解体」をめぐって
第28回　まとめ

【成績評価の方法】

試験　50％　レポート　50％

中間レポート（40％）と学期末試験（50％）と講義内容に関するリアクション・ペーパー（10％）によって評価する。出席はとらないが、毎回の出席なくして単位取得は難しいだろう。詳細は第１回の授業時に指示する。

【参考文献】
飯島伸子編『環境社会学』(有斐閣ブックス) 有斐閣 (1994年).
Michael Bell, An Invitation To Environmental Sociology — Third Edition. Pine Forge Press (2009).
ほか、適宜指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
第１回の授業時に各回で用いる文献リストを配布する。本講義の予習・復習としてこれらの文献を積極的に読破していくことが望まれる。
・02～09生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
環境問題概論　＜秋集＞	
巖　　圭　介	４単位

【講義概要】
地球温暖化、化学物質、リサイクル・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、これからの自分の行動を決めていかねばならない。
この講義では、これからの時代を生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらう。

【学習目標】
主要な環境問題（地球温暖化、ゴミ問題、人工化学物質汚染、酸性雨、オゾン層破壊、土壌劣化、水危機、食糧問題、エネルギー問題）に関する基礎知識を身につけて、マスコミやインターネットの情報にいたずらに踊らされない自信を持ってもらいたい。同時に、それぞれの問題に対し今何をすべきか、何がなされているか、何ができるかを、ともに考えていきたい。

【講義計画】
第１回　イントロダクション（生かされている私たち）
第２回　地球温暖化１
第３回　地球温暖化２
第４回　地球温暖化３
第５回　地球温暖化４
第６回　地球温暖化５
第７回　地球温暖化６
第８回　第１回イン・クラス・レポート
第９回　イン・クラス・レポート振り返り、温暖化とエネルギー
第10回　温暖化のこれから
第11回　ゴミ問題１
第12回　ゴミ問題２
第13回　ゴミ問題３
第14回　ゴミ問題４
第15回　ゴミ問題５
第16回　ゴミ問題６
第17回　第２回イン・クラス・レポート
第18回　イン・クラス・レポート振り返
第19回　化学物質汚染１
第20回　化学物質汚染２
第21回　化学物質汚染３
第22回　化学物質汚染４
第23回　第３回イン・クラス・レポート
第24回　イン・クラス・レポート振り返り、オゾン層破壊
第25回　大気汚染と酸性雨
第26回　水質汚染
第27回　水と土の危機、食糧問題
第28回　第４回イン・クラス・レポート
第29回　人類のこれから
第30回　総復習

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%　出席　０%
イン・クラス・レポートとは、授業時間中に出題して、その場で書き上げて提出してもらうレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうのが目的である。レポートをすべて提出した上で、試験で６割程度得点すれば単位を与える。

【参考文献】
環境省編　『環境・循環型社会白書　平成20年版』
遠山益　『人間環境学』 裳華房　2001
石弘之　『地球環境報告II』 岩波新書　1998
安井至　『市民のための環境学入門』 丸善ライブラリー　1998
東京商工会議所『ECO検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター　2006他
松永和紀　『メディア・バイアス』光文社　2007
他、適宜紹介する。

【備考】
【準備学習の指示】
日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため資料を配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートをとり、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。

科目名　クラス　講義区分	
観光英語　＜通期＞	
松　田　雄　治	4単位

【講義概要】

外国人を観光案内する時や、彼らに日本を紹介する時に必ず質問されることに日本的な事象、日本の文化、日本人のものの考え方があります。これらに対して彼らが満足できる解説を加えることは非常に難しい場合があります。このような場合に十分対応できるテキストとCDを使い、「音読」や「筆写」を用いた観光英語の学習を指導していきます。

【学習目標】

通訳案内士や観光英検合格あるいは英語圏への留学を目標とし、音読や筆写を中心とした演習形式の、しんどい授業を展開します。このために講義の前に自宅等で必ず、つぎの講義内容に目を通しておいて下さい。勿論、復習も大切です。授業の習得成果を、ディクテーション等のミニテストやレポートで評価します。各学期の最終評価として学期末に定期筆記試験を実施します。

【講義計画】

第１回　授業のオリエンテーションの後、すぐに授業に入ります。第１章：日本の宗教と精神を英語で発信、日本の宗教と精神(１)
第２回　第１章：日本の宗教と精神を英語で発信、日本の宗教と精神(２)
第３回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の伝統文化①(１)
第４回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の伝統文化①(２)
第５回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の伝統文化②(１)
第６回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の伝統文化②(２)
第７回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の伝統スポーツ(１)
第８回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の伝統スポーツ(２)
第９回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本文学のジャンル(１)
第10回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本文学のジャンル(２)
第11回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の年中行事(１)
第12回　第２章：日本の伝統文化を英語で発信、日本の年中行事(２)
第13回　第３章：日本の「食」「住」「娯楽」を英語で発信、日本の食を英語で発信(１)
第14回　第３章：日本の「食」「住」「娯楽」を英語で発信、日本の食を英語で発信(２)
第15回　学期末定期試験（筆記試験）
第16回　第３章：日本の「食」「住」「娯楽」を英語で発信、日本の住生活(１)
第17回　第３章：日本の「食」「住」「娯楽」を英語で発信、日本の住生活(２)
第18回　第３章：日本の「食」「住」「娯楽」を英語で発信、日本の娯楽(１)
第19回　第３章：日本の「食」「住」「娯楽」を英語で発信、日本の娯楽(２)
第20回　第４章：日本の「観光名所」「地理」を英語で発信、日本の観光名所(１)
第21回　第４章：日本の「観光名所」「地理」を英語で発信、日本の観光名所(２)
第22回　第４章：日本の「観光名所」「地理」を英語で発信、日本の地理(１)
第23回　第４章：日本の「観光名所」「地理」を英語で発信、日本の地理(２)
第24回　第５章：日本の「政治」「産業」を英語で発信、日本の政治(１)
第25回　第５章：日本の「政治」「産業」を英語で発信、日本の政治(２)
第26回　第５章：日本の「政治」「産業」を英語で発信、日本の産業(１)
第27回　第５章：日本の「政治」「産業」を英語で発信、日本の産業(２)
第28回　通訳案内士、観光英検合格への傾向と対策（投げ込み教材)(１)
第29回　通訳案内士、観光英検合格への傾向と対策（投げ込み教材)(２)
第30回　学期末定期試験（筆記試験）

【成績評価の方法】

試験　20%　レポート　30%　出席　50%
なによりも講義（演習）への出席が肝要です。レポートは締切を厳守のこと。

【教科書】

上田一三・上田敏子 英語で説明する日本の文化（株）語研

【参考文献】

開講時に紹介します。

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
監査論　＜秋集＞	
朴　　大　栄	4単位

【講義概要】
2008年9月のいわゆるリーマンショック後の経済停滞は世界的な経済活動の後退を生じさせ、日本においてもこれまで以上の企業倒産を引き起こしてきている。過去においても、長期の不況が多くの企業倒産を誘発してきた。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。
監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の情報公開制度ならびに監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

【学習目標】
本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する金融商品取引法監査ないし会計監査を中心に、監査ならびに企業情報の公開に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。
1．経済事件の背景を理解する。
2．企業の情報公開の内容・種類について理解する。
3．会社法、金融商品取引法、公認会計士法等、監査を取り巻く法律を理解する。
4．監査の必要性、監査の基礎理論を理解する。

【講義計画】
第1回　監査とは
第2回　監査の歴史1
第3回　監査の歴史2
第4回　社会を揺るがす経済事件1
第5回　社会を揺るがす経済事件2
第6回　コーポレートガバナンス1
第7回　コーポレートガバナンス2
第8回　コーポレートガバナンス3
第9回　経済社会を支える財務情報1
第10回　経済社会を支える財務情報2
第11回　経済社会を支える財務情報3
第12回　財務情報と監査の必要性1
第13回　財務情報と監査の必要性2
第14回　監査を取り巻く法律1
第15回　監査を取り巻く法律2
第16回　監査を取り巻く法律3
第17回　監査を担当する人1
第18回　監査を担当する人2
第19回　監査を取り巻く組織1
第20回　監査を取り巻く組織2
第21回　監査のルール1
第22回　監査のルール2
第23回　監査のプロセス1
第24回　監査のプロセス2
第25回　監査結果の報告1
第26回　監査結果の報告2
第27回　監査結果の報告3
第28回　新たな課題1
第29回　新たな課題2
第30回　健全な社会と監査

【成績評価の方法】
試験　60%
定期試験の成績（60%）とレポート、出席状況（合計40%）を勘案して評価する。

【教科書】
盛田良久、百合野正博、朴大栄編『まなびの入門監査論』第3版　中央経済社

【参考文献】
鳥羽至英著　『監査基準の基礎』　白桃書房
山浦久司著　『会計監査論』　中央経済社
その他、講義中に適宜指示する。

【備考】
【準備学習の指示】
監査論の基礎として、企業情報の開示制度を勉強しておく必要がある。秋学期開講科目であるので、受講生は5月から6月にかけての日本経済新聞の経済欄および証券欄を読んでおくこと。企業の情報公開、証券取引所における株価変動、株主総会等の記事に特に注意しておくこと。
また、各自が就職希望など関心のある企業、業種について、企業情報を新聞やホームページで見ておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
環太平洋圏経営研究A　＜春＞	
深　谷　清　之	2単位

【講義概要】
日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、現在、世界経済の一つの核となっていることはいうまでもない。本講義では、これら地域ならびに世界経済の現状だけでなく、現在の位置を占めるに至った歴史的経緯を含めて学習していく。
本講義は、大学院生を対象とする科目であるが、4年生で学習意欲のある者は、所属する演習担当教員の推薦があれば受講可能である。
（注記）ゲスト講師の都合等のため、順番が入れ替わる事もある。

【学習目標】
本講義は、各分野の一線で活躍する方をお招きして講義していただくほか、最新の状況については、適切な教材を題材にして学習を進めていく。受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、受講することを期待する。また、ゲスト講師の講義については、2コマ続けて行い、その他は1コマとなるので、講義時間には十分注意願う。

【講義計画】
第1回　本講義の進め方、概要および成績評価等のガイダンス
第2回　中国経済の状況（その1）通信販売
第3回　中国経済の状況（その2）メディア業界
第4回　中国経済の状況（その3）海外投資
第5回　日本経済の状況（その1）自動車業界
第6回　日本経済の状況（その2）流通業界
第7回　ゲスト講師（商社）第8回との連続
第8回　ゲスト講師（商社）第7回との連続
第9回　ゲスト講師（コンビニ業界）第10回との連続
第10回　ゲスト講師（コンビニ業界）第9回との連続
第11回　ゲスト講師（航空会社）第12回との連続
第12回　ゲスト講師（航空会社）第11回との連続
第13回　今後の環太平洋圏の経済
第14回　本講義のまとめ

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
本講義では、毎回の講義で提出してもらうレポートによって成績を評価する。

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
特に指定しないが、必要なものがあれば、その都度指示する。

【備考】
準備学習の指示
本講義は、次回のレジメや、場合によっては事例などを説明するので、それらを予め学習し、理解しておくことが必要である。
・07B生対象

科目名　クラス　講義区分	
環太平洋圏経営研究Ｂ　＜秋＞	
深　谷　清　之	２単位

【講義概要】
日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、現在、世界経済の一つの核となっていることはいうまでもない。本講義では、これら地域ならびに世界経済の現状だけでなく、現在の位置を占めるに至った歴史的経緯を含めて学習していく。
本講義は、大学院生を対象とする科目であるが、４年生で学習意欲のある者は、所属する演習担当教員の推薦があれば受講可能である。
（注記）ゲスト講師の都合等のため、順番が入れ替わる事もある。

【学習目標】
本講義は、各分野の一線で活躍する方をお招きして講義していただくほか、最新の状況については、適切な教材を題材にして学習を進めていく。受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、受講することを期待する。また、ゲスト講師の講義については、２コマ続けて行い、その他は１コマとなるので、講義時間には十分注意願う。

【講義計画】
第１回　本講義の進め方、概要および成績評価等のガイダンス
第２回　アメリカ経済の状況（その１）金融業界
第３回　アメリカ経済の状況（その２）金融業界
第４回　東アジア経済の状況（その１）
第５回　東アジア経済の状況（その２）
第６回　東アジア経済の状況（その３）
第７回　ゲスト講師本学全在紋教授「企業文化の日米韓比較―言語的接近」第８回との連続
第８回　ゲスト講師本学全在紋教授「企業文化の日米韓比較―言語的接近」第７回との連続
第９回　ゲスト講師（コンピュータ業界）第10回との連続
第10回　ゲスト講師（コンピュータ業界）第９回との連続
第11回　ゲスト講師（金融業界）第12回との連続
第12回　ゲスト講師（金融業界）第11回との連続
第13回　今後の環太平洋圏の経済
第14回　本講義のまとめ

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
本講義では、毎回の講義で提出してもらうレポートによって成績を評価する。

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
特に指定しないが、必要なものがあれば、その都度指示する。

【備考】
準備学習の指示
　本講義は、次回のレジメや、場合によっては事例などを説明するので、それらを予め学習し、理解しておくことが必要である。
・07B生対象

科目名　クラス　講義区分	
管理会計基礎　＜春＞	
谷　　武　幸	２単位

【講義概要】
管理会計は経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画(plan)し、このプランの実行(do)プロセスにおいてプランの実現をチェック(check)し、必要なアクション(action)をとるという一連のサイクル、つまりPDCAサイクルを回します。本講義では、管理会計の基本のPDCAサイクルを学習します。

【学習目標】
この講義では、管理会計の基本の理解を目指します。管理会計の最近のトピックスや戦略管理会計を学習する上で基礎となるものです。

【講義計画】
第１回　管理会計の意義
第２回　管理会計の基礎概念(１)
第３回　管理会計の基礎概念(２)
第４回　意思決定会計の方法
第５回　業績管理会計の方法(１)
第６回　業績管理会計の方法(２)
第７回　原価管理(１)
第８回　原価管理(２)
第９回　長期経営計画
第10回　設備投資計画
第11回　利益計画(１)
第12回　利益計画(２)
第13回　予算管理
第14回　事業部の業績管理

【成績評価の方法】
試験　100%

【教科書】
谷　武幸 エッセンシャル管理会計 中央経済社

【備考】
準備学習の指示
　履修にあたっては、講義前に教科書をあらかじめ読んでおくこと。また、講義内容の要点をプリントして配布するので、この資料にしたがって復習を行うこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
企業論　＜秋集＞	
坂　本　雅　則	４単位

【講義概要】

2009年の政権交代はこれまでの日本社会のあり方が変わることを予感させる出来事でした。この変化はこれからどのような社会を作っていくのかということが問われていることでもあります。

持続可能性のある社会を再構築していく上で「企業」の役割は大きく，社会全体に重大な影響を及ぼします。

したがって，多大な影響力を持つ企業を「どのように捉え，どう認識し，どう制御するのか」ということは重要な課題となります。

そして，このような課題を解決するためには，「企業における支配者・権力者は誰なのか」を特定し，企業をどの利害関係者を中心に経営させるのか，またするべきか，ということを考えなければなりません。

このような課題はこれまで企業支配論やコーポレート・ガバナンス論という領域で議論されてきました。本講義では，既存学説にとらわれず，企業における権力関係を分析するにはどうすればよいのか，ということを中心に話を進めます。

【学習目標】

講義は「株式会社」に関する議論からはじめて，これまでの学説では何が見えて，何が見えないのかを事例も使いながら見ていこうと思います。

到達目標としては，

①株式会社がどういう制度なのかを知ること
②権力者を特定化するのにどのような考え方があるのかを知ること
③企業を捉えるのにどのような枠組みがあるのかをを知ること
などです。

【講義計画】

第１回　イントロダクション
第２回　企業をどのように捉えるか(１)
第３回　企業をどのように捉えるか(２)
第４回　経営組織の発展類型(１)
第５回　経営組織の発展類型(２)
第６回　株式会社論(１)
第７回　株式会社論(２)
第８回　企業を法律的観点から捉える立場(法パラダイム)
第９回　企業を戦略的決定の観点から捉える立場(組織パラダイム)
第10回　Berle/Meansの学説(１)
第11回　Berle/Meansの学説(２)
第12回　Blumbergの学説(１)
第13回　Blumbergの学説(２)
第14回　Burnhamの学説(１)
第15回　Burnhamの学説(２)
第16回　Gordonの学説(１)
第17回　Gordonの学説(２)
第18回　Gordonの学説(３)
第19回　事例分析(１)
第20回　事例分析(２)
第21回　事例分析(３)
第22回　Galbraithの学説(１)
第23回　Galbraithの学説(２)
第24回　Galbraithの学説(３)
第25回　事例分析(４)
第26回　事例分析(５)
第27回　事例分析(６)
第28回　まとめ

【成績評価の方法】

概ね期末テストが６割，平常点４割で評価します。
平常点とは授業態度とテスト後に提出してもらう自筆講義ノートに対する評価です(出席は評価対象ではありません)。

【教科書】

坂本雅則『企業支配論の統一的パラダイムー「構造的支配」概念の提唱ー』文眞堂

【参考文献】

必要があれば授業中に触れます。

【備考】

講義計画はあくまで計画であって，学生の理解度に応じて若干の変更はなされます。

科目名　クラス　講義区分	
技術社会学［02生～］	
北　川　紀　男	４単位

【講義概要】

人類の歴史は、欲求を充足するための環境への不断の適応過程であるといえる。人間は、所与の環境に甘んずることはなく、自己の欲求をより良く満たすためにさまざまな道具を考案して、環境に能動的に働きかけてきた。文化とは、この適応の努力の所産であり、技術もその一つであって、人間がホモ・ファーベルトいわれる所以である。従って、技術は人類の歴史と共に古いものであるが、西欧に端を発する近代合理主義思想に基づく科学の発達よって急速に発展して、現代の膨大な技術体系を構築したのである。

技術社会学は、単なる技術論でも科学論でもなく、また技術史でも科学史でもない。文化としての技術が人間の環境への適応の所産であるかぎり、そこには技術と社会の対応関係があり、技術は社会事象に制約されると同時に社会は技術の制約を受けているはずである。K.マンハイムのことばを借りるならば、技術は「存在被拘束性」を受けているのであり、技術社会学とは技術の存在被拘束性を考究する学問である。この意味で、技術社会学とは、技術(科学技術)の文化社会学的考察であるともいえるのである。

従って、技術と社会事象との連関を把握することが重要であり、可能なかぎり具体的な事例を挙げて、技術が社会に制約されると同時に社会が技術に制約されていることを考察する。

【学習目標】

技術社会学は、文化としての技術を研究する学問であり、技術と社会事象との連関にこそ注目すべきである。現代の高度文明社会(産業社会)が近代科学技術の所産であることを了解し、技術が社会変動に及ぼす影響、またさまざまな社会事象が技術の発達を制約していることを学び取って欲しい。社会変動は、技術の発達によって決まるという「技術決定論」ではなく、技術自体が社会的制約を受けていることを理解して欲しい。

【講義計画】

第１回　(１)イントロダクション　～社会学的認識態度について～
第２回　(２)科学技術の光と影
第３回　(３)技術社会学の社会学における位置づけ
第４回　(４)技術の概念
第５回　(５)人間と技術　～ホモ・ファーベル論～
第６回　(６)近代合理主義思想と技術
第７回　(７)合理的技術の概念　～W.ゾンバルトの場合～
第８回　(８)合理的技術の概念　～M.ウェーバーの場合～
第９回　(９)知識社会学と科学技術
第10回　(10)技術の社会学的研究
第11回　(11)科学社会学の成立～
第12回　(12)R.マートンの科学社会学　～科学者共同体とCUDOS～
第13回　(13)W.オグバーンの技術文化論　～同時的発見の事例～
第14回　(14)H.W. オーダムの技術文化論　～習俗から技習へ～
第15回　(15)技術と社会変動
第16回　(16)産業革命と技術　～農業社会から産業社会へ～
第17回　(17)産業社会と技術
第18回　(18)テクノクラートの出現
第19回　(19)技術と社会制度の齟齬　～文化遅滞現象～
第20回　(20)情報技術と情報革命　～情報化社会～
第21回　(21)医療技術と長寿化　～高齢化社会～
第22回　(22)原子力発電所と社会不安　～原発の事故～
第23回　(23)大量破壊兵器と社会不安　～核兵器～
第24回　(24)産業技術と環境破壊　～公害問題・地球温暖化問題～
第25回　(25)生命科学と倫理問題　～クローン人間の誕生～
第26回　(26)医療技術と倫理問題　～延命治療・寿命の操作～
第27回　(27)医療技術と倫理問題　～人工授精、代理母出産の問題～
第28回　(28)科学技術の暴走への対応策はあるのか
第29回　(29)専門用語、基礎概念、基礎的文献の解説
第30回　(30)まとめ

【成績評価の方法】

学期末試験を中心に評価するが、レポート等も加味して総合的に評価する。

【教科書】

テキストは使用しない。講義内容の簡単なレジュメは配布する。必要な資料や参考文献については適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】

講義概要をレジュメとして配布し、予習・復習の参考にさせる。テキストを使用しないので、理解度を確認するために、学期中に何度か当該時間の講義に関するレポートを提出させる。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　01＜秋＞	
野　原　康　弘	２単位

【講義概要】

１年生の「大学生活入門セミナー」では、大学生活のさまざまなことに慣れることを目的にしながら、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４つの技能のスキルの基礎的な勉強をしてきました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」のもう一つレベルの高い４つのスキルの向上を目指します。

その中でも特に、「書く」と「話す」、すなわち、プレゼンテーションの練習に重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。授業では、「パワーポイント」などを使用して発表することを繰り返し、練習していきます。

【学習目標】

１.要約を書く
２.自分の考えをわかりやすく話す

＊全回出席を原則とする

【講義計画】

第１回　（第１回でさらに詳しい説明があります。）
　　授業の概略説明と自己紹介
　　＊授業順序を入れ替える場合があります。
第２回　読んで理解し、要約を書く（１）
第３回　読んで理解し、要約を書く（２）
第４回　読んで理解し、要約を書く（３）
第５回　聞いてメモを取り、要約を書く（１）
第６回　聞いてメモを取り、要約を書く（２）
第７回　聞いてメモを取り、要約を書く（３）
第８回　プレゼンテーションの作成
第９回　プレゼンテーションの練習（１）
第10回　プレゼンテーションの練習（２）
第11回　わかりやすく表現する（１）
第12回　わかりやすく表現する（２）
第13回　わかりやすく表現する（３）
第14回　「演習」への取り組み方
第15回　全体のまとめ

【成績評価の方法】

レポート　100％
４回以上の欠席は単位認定対象外になります。

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

［準備学習の指示］
　授業へは積極的に参加してください。
　出された課題も真剣に取り組んでください。
・外国人留学生対象

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　02＜秋＞	竹　中　暉　雄
基礎演習　03＜秋＞	竹　中　暉　雄
基礎演習　04＜秋＞	谷　口　照　三
基礎演習　05＜秋＞	野　田　俊　範
基礎演習　06＜秋＞	谷　口　照　三
基礎演習　07＜秋＞	朴　　大　栄
基礎演習　08＜秋＞	長谷川　　彰
基礎演習　09＜秋＞	正　亀　芳　造
基礎演習　10＜秋＞	正　亀　芳　造
基礎演習　11＜秋＞	村　上　伸　一
基礎演習　12＜秋＞	村　上　伸　一
基礎演習　13＜秋＞	山　本　順　一
基礎演習　14＜秋＞	長谷川　　彰
２単位	

【講義概要】

１年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”、すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

【学習目標】

１．　要約を書く
２．　自分の考えをわかりやすく話す

【講義計画】

第１回　授業の概略説明と自己紹介
　　＊授業順序は予定であり、入れ替わる場合があります。
第２回　読んで理解し、要約を書く（１）
第３回　読んで理解し、要約を書く（２）
第４回　読んで理解し、要約を書く（３）
第５回　聞いてメモを取り、要約を書く（１）
第６回　聞いてメモを取り、要約を書く（２）
第７回　聞いてメモを取り、要約を書く（３）
第８回　プレゼンテーションの仕方について（ビデオ等）
第９回　わかりやすく表現する（１）
第10回　わかりやすく表現する（２）
第11回　わかりやすく表現する（３）
第12回　３年生からの「演習」への取り組み方
第13回　基礎学力テスト
第14回　キャリア支援講義

【成績評価の方法】

レポートなどの提出とその内容、授業中の態度など
＊無断欠席４回以上は、単位認定対象外となります。
＊TOEICの受験が成績評価に反映されることがあります。

【参考文献】

適宜指示する

【備考】

＊全回出席を原則とする

【準備学習の指示】
各クラスの担当教員の指示に従ってください。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　01＜通期＞	
天　本　哲　史	4単位

【講義概要】
基礎演習は、学生が大学教育に適応するために設けられたアカデミックガイダンスである。大学教育では、高等学校までの教師による講義中心のものとは異なり、学生が主体的に学問に取り組むことが求められる。そこで、本演習では、学生が主体的に学問に取り組むことを可能にする能力の習得を目指して、インターネットや文献等からの情報収集、発表、ディベート、レポート作成等の方法などを実際に体験してもらう。

【学習目標】
本演習は、アカデミックガイダンスとして、法学部で学習するために必要な能力の習得を目標とする。具体的には、文献等からの情報収集、②個人による発表、③複数人によるディベート、④レポート作成、といった各体験を通じて、上記の能力の習得を目指す。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　発表練習
　　資料収集の仕方①
第３回　資料収集の仕方②
第４回　資料収集の仕方③
第５回　発表練習①
第６回　発表練習②
第７回　発表練習③
第８回　発表練習④
第９回　発表練習⑤
第10回　発表練習⑥
第11回　発表練習⑦
第12回　発表練習⑧
第13回　発表練習⑨
第14回　発表練習⑩
第15回　ディベート練習①
第16回　ディベート練習②
第17回　ディベート練習③
第18回　ディベート練習④
第19回　ディベート練習⑤
第20回　ディベート練習⑥
第21回　ディベート練習⑦
第22回　ディベート練習⑧
第23回　ディベート練習⑨
第24回　ディベート練習⑩
第25回　レポート作成練習①
第26回　レポート作成練習②
第27回　レポート作成練習③
第28回　レポート作成練習④

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　70%
成績評価は、出席を重視する。但し、提出を指示したレポートも成績評価に加える。

【教科書】
弥永真生 法律学習マニュアル　第３版 有斐閣

【備考】
準備学習等の指示
テキストとして指定した本を予習・復習に使うこと。また、指定・配布した資料等については、次回の授業に備えて予め目を通しておくこと。講義の中では、法が関係する時事問題についても触れるので、新聞等は読んでおくこと。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　02＜通期＞ 基礎演習　03＜通期＞	
江　藤　隆　之	4単位

【講義概要】
この演習では、法学を学ぶために必要な基礎知識について解説し、法的思考能力や法学学習の基本的なスキルを身につける練習をします。

【学習目標】
法学を自ら学ぶことができるスキルを身につけます。具体的には、条文や判例、教科書を理解し、自らの言葉で話し、書き、議論することができるようになることを目標とします。

【講義計画】
第１回　自己紹介・演習計画の説明
第２回　法と法学
第３回　社会における法の意義と六法
第４回　判例と学説
第５回　判例を読む（１）
第６回　判例を読む（２）
第７回　文献の探し方
第８回　教科書・論文を読む（１）
第９回　教科書・論文を読む（２）
第10回　レポート作成について（１）
第11回　レポート作成について（２）
第12回　レポート作成について（３）
第13回　研究報告とは何か？
第14回　研究報告の注意点（報告内容と方法）
第15回　研究報告の注意点（レジュメ作成）
第16回　報告テーマ・レポートテーマについて
第17回　報告担当の割り当てとガイダンス
第18回　個別報告・討論
第19回　個別報告・討論
第20回　個別報告・討論
第21回　個別報告・討論
第22回　個別報告・討論
第23回　個別報告・討論
第24回　個別報告・討論
第25回　個別報告・討論
第26回　個別報告・討論
第27回　個別報告・討論
第28回　総括

【成績評価の方法】
出席、レポート、報告等を総合的に評価します。

【参考文献】
適宜、演習時に指示します。

【備考】
テキストは特に指定せず、適宜、プリントを配布します。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　04＜通期＞	
大久保　正　人	４単位

【講義概要】
この演習は、大学生活を始める学生を対象として、大学生として必要な最低限の「知識」や「学習方法」を習得し、将来の「目標」を設定することを目的とします。

【学習目標】
「討論」や「研究・発表」の方法を学習します。また、テーマを設定し、それに関する予習・復習を「レポート」形式で課すこともあります。映像資料等を使用した「想像力（イメージ）」重視の学習方法を基本としますので、みなさんも「想像力（妄想でもよい）」を膨らまして演習に参加してみてください。

【講義計画】
第１回　はじめに（あいさつ、自己紹介、授業の進め方）
第２回　法学部で学ぶ意義
第３回　大学での学習方法(１)
第４回　大学での学習方法(２)
第５回　図書館の利用方法
第６回　討論の練習(１)
第７回　討論の練習(２)
第８回　討論の練習(３)
第９回　芸術と法(１)
第10回　芸術と法(２)
第11回　芸術と法(３)
第12回　自然と法(１)
第13回　自然と法(２)
第14回　自然と法(３)
第15回　世界と法(１)
第16回　世界と法(２)
第17回　世界と法(３)
第18回　平和と法(１)
第19回　平和と法(２)
第20回　平和と法(３)
第21回　人類と法(１)
第22回　人類と法(２)
第23回　人類と法(３)
第24回　研究・発表の練習(１)
第25回　研究・発表の練習(２)
第26回　研究・発表の練習(３)
第27回　研究・発表の練習(４)
第28回　研究・発表の練習(５)
第29回　おわりに

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　100％　出席　100％
演習ですので「出席」を重視しますが、レポートを課す場合には、その内容も評価します。

【教科書】
武居一正 法学部新入生のための学ナビ

【参考文献】
必要に応じて紹介します。

【備考】
「準備学習の指示」
予習：指定したテーマについて、下調べをしてきてください。
復習：取り上げたテーマについて、自分なりの意見を持ってください。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　05＜通期＞	
軽　部　恵　子	４単位

【講義概要】
人間の知的活動は「聞く・話す・読む・書く」の４つに集約できます。この演習では、日本語の能力を磨き、論理的な思考法の習得をめざします。また、相手の話を細部まで正確に理解し、資料を多角的に分析し、説得力ある意見をまとめ、与えられた時間内に要領よく発表するという、大学でのあらゆる勉強に必要不可欠な技術を学びます。
春学期は、教科書を輪読しながら論理的思考の基礎を学ぶとともに、社会の動きを知る上で重要な情報源である新聞の活用法を習得し、最後にグループ発表を行います。これと並行して、受講生の漢字力や基礎学力を試す小テストと、個人発表「１分間スピーチ」を行います。そして、春学期に学んだことを確認するため、学期末試験を行います。
秋学期は、法学に関連したテーマでディベートを行います。教科書の輪読、ディベートの準備と試合を通じて、資料の分析方法と論理的な議論の組み立て方を学びます。この他、春学期と同様、小テストと個人発表を並行して行います。

【学習目標】
（１）　大学生に必要な日本語能力と基礎知識を身に付ける。
（２）　資料の収集と分析方法を学ぶ。
（３）　効果的なプレゼンテーション法を学ぶ。
（４）　論理的な思考方法の基礎を学ぶ。

【講義計画】
第１回　講義運営の概要
第２回　ノートのとりかた
第３回　裁判とは何か
第４回　情報センターガイダンス
第５回　図書館ガイダンス
第６回　新聞の読み方(１)　紙面構成と見出し
第７回　新聞の読み方(２)　速読のコツ
第８回　新聞の読み方(３)　政治面と社会面
第９回　新聞の読み方(４)　他紙との比較
第10回　新聞の読み方(５)　テレビとの比較
第11回　新聞の読み方(６)　インターネットとの比較
第12回　新聞の読み方(７)　グループ発表①
第13回　新聞の読み方(８)　グループ発表②
第14回　新聞の読み方(９)　グループ発表③
第15回　ディベート(１)　準備①　テーマ選定
第16回　ディベート(２)　準備②　樹形図の作成
第17回　ディベート(３)　準備③　立論の構築
第18回　ディベート(４)　準備④　効果的な引用
第19回　ディベート(５)　準備⑤　反論と再反論
第20回　ディベート(６)　準備⑥　総括弁論
第21回　ディベート(７)　準備⑦　リハーサル
第22回　ディベート(８)　試合①
第23回　ディベート(９)　試合②
第24回　ディベート(10)　試合③
第25回　ディベート(11)　試合④
第26回　特別テーマ(１)
第27回　特別テーマ(２)
第28回　特別テーマ(３)
第29回　まとめ
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
成績評価は、出席状況（遅刻は「出席」ではありません）、受講態度、授業中の質問・発言、各種の課題（内容、提出期限の遵守を含む）、個人およびグループ発表（内容、ゼミへの貢献度）、春学期末試験、ディベート（準備、試合）を積算して算定します。履修の大前提として、出席状況はとくに重視されます。各項目の詳しい比率は、第１回の授業で説明します。

【教科書】
池上彰 見通す力 日本放送出版協会
教科書は毎回使用します。また、補足の印刷物を随時配布します。
池上彰 わかりやすく＜伝える＞技術 講談社
小山鉄郎 白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい 新潮社

【参考文献】
いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ』第３版　日本評論社　2008年
石黒圭『文章は接続詞で決まる』光文社　2008年
井上真琴『図書館に訊け！』筑摩書房　2004年
小笠原喜康『インターネット完全活用版：大学生のためのレポート・論文術』講談社　2003年
小笠原喜康『議論のウソ』講談社　2005年
小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社　2009年
北川達夫他『図解フィンランド・メソッド入門』経済界　2005年
北村肇『新聞記事が「わかる」技術』講談社　2003年
久慈力『図書館利用の達人』現代書館　2008年
倉島保美『英語プレゼンテーションの技術』日経新聞社　2006年
斎藤孝『１分間で大切なことを伝える技術』 PHP研究所　2009年
コリンP.A.ジョーンズ『アメリカ人弁護士が見た裁判員制度』平凡社　2008年
鈴木信一『800字を書く力』祥伝社　2008年
竹田茂生、藤木清『知のワークブック』くろしお出版　2006年
道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門』第３版　有斐閣　2007年
野村進『調べる技術・書く技術』講談社　2008年
林雄介『図解雑学　政治のしくみ』ナツメ社　2007年
日垣隆『使えるレファ本 150選』筑摩書房　2006年
藤沢晃治『疑う技術：ウソを見破る９つの視点』PHP研究所　2006年
船山泰範、平野節子『裁判員法』ナツメ社　2008年
町田顕『初心者のための「日経新聞」の読み方』東洋経済新報社　2004年

【備考】
「準備学習の指示」毎回の授業で指示される教科書および参考文献の関連部分を読んで、予習・復習して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　06＜通期＞	
小　宮　　京	４単位

【講義概要】
この演習は、大学での勉強および社会に出てから必要となる日本語能力、論理的思考、議論の方法を習得します。その際、新聞やテレビのみならず、書籍を読むことで、より一層、日本語能力や議論に深みが出るでしょう。
　この演習では、新聞や雑誌、テレビニュースなどで、受講生各人が関心を持った事柄について、様々な文献を調べ、分析し、それをレポートにまとめ、発表します。
まずは、新聞の活用法を学びながら、レポートの作成の仕方を学びます。その後、グループ発表、各人のレポート発表を行います。
様々な資料の探し方を知ることは大学生活を送る際に重要です。そこで、図書館や情報センターのガイダンスを受講します。ただし、予約が取れなかった場合は、講義の順番が変わることがあります。

【学習目標】
（１）レポート作成やディベートに必要な日本語能力を身に付けること。
（２）議論を行う前提となる論理的思考を身に付けること。
（３）他者への説明、説得を含め、議論の方法を身に付けること。
　以上を達成するために、演習への積極的な参加が求められます。出席することだけでは参加ではありません。レジュメやレポートをきちんと作成すること、演習中の発言、また態度も評価対象です。

【講義計画】
第１回　イントロダクション、自己紹介
第２回　図書館ガイダンス
第３回　情報センターガイダンス
第４回　新聞の読み方（１）
第５回　新聞の読み方（２）
第６回　新聞の読み方（３）
第７回　新聞の読み方（４）
第８回　新聞の読み方（５）
第９回　グループ発表の準備（１）
第10回　グループ発表の準備（２）
第11回　グループ発表の準備（３）
第12回　グループ発表（１）
第13回　グループ発表（２）
第14回　グループ発表（３）
第15回　各自レポート発表の準備（１）
第16回　各自レポート発表の準備（２）
第17回　レポート発表（１）、それに対するコメント
第18回　レポート発表（２）、それに対するコメント
第19回　レポート発表（３）、それに対するコメント
第20回　レポート発表（４）、それに対するコメント
第21回　レポート発表（５）、それに対するコメント
第22回　レポート発表（６）、それに対するコメント
第23回　レポート発表（７）、それに対するコメント
第24回　レポート発表（８）、それに対するコメント
第25回　レポート発表（９）、それに対するコメント
第26回　レポート発表(10)、それに対するコメント
第27回　レポート発表(11)、それに対するコメント
第28回　レポート発表(12)、それに対するコメント
第29回　まとめ（１）
第30回　まとめ（２）

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　50％　出席　50％
成績評価には、出席状況（参加態度を含む）、レポート（ここでは春学期のグループ発表および秋学期のレポート発表を意味します）、その他の課題を考慮します。毎回の出席と真面目な演習参加を特に重視します。

【教科書】
教員が配布するコピーを持参すること。

【参考文献】
池上彰『池上彰の新聞勉強術』ダイヤモンド社、2006年
石黒圭『文章は接続詞で決まる』光文社新書、2008年
小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年

【備考】
テキストは適宜配布する。
【準備学習の指示】教室で毎回配布される講義レジュメの指示に従って、参考文献の関連部分を予習・復習してください。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　07＜通期＞	
佐　藤　啓　子	４単位

【講義概要】
アカデミックガイダンス、つまり、大学生活に必要な知識と習慣を指導することが一番の目的である。また、法学部の演習であるので、ある程度法学に関する知識とふるまいを身につけてもらうことになる。

大学機関のガイダンスの予定と受講者数の関係で、授業計画が若干変更することがある。

【学習目標】
良い大学生活のスタートが切れるよう、学生の基本である「聞く・読む・書く・話す」ができること。

【講義計画】
第１回　自己紹介と、この演習の紹介
第２回　ノートの取り方１・情報をつかむ
第３回　図書館ガイダンス
第４回　ノートの取り方２・構造をつかむ
第５回　情報センターガイダンス
第６回　ノートの取り方３・発言の奥をつかむ
第７回　建学の精神
第８回　今までの宿題のコメントと答案の書き方の基本
第９回　キャリアガイダンス
第10回　キャリアデザインとは
第11回　答案の書き方・一行問題
第12回　答案の書き方・事例問題
第13回　答案の改善の仕方
第14回　春学期のまとめとテスト勉強について
第15回　ディベートの基本
第16回　ディベートの下準備（調査方法）
第17回　ディベートの下準備（発言の組み立て）
第18回　ディベート
第19回　レポートの下準備
第20回　レポート・年金（以下のテーマは変更の可能性が高い）
第21回　レポート・養子
第22回　レポート・環境
第23回　中間的な評価
第24回　レポート・学費
第25回　レポート・死刑
第26回　レポート・労働
第27回　レポート・国会
第28回　全体の総括

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
出席と毎回出される宿題の評価で成績が決まる。

【教科書】
弥永 真生 法律学習マニュアル　第３版 有斐閣
武居一正 法学部新入生のための学ナビ 日本評論社

【参考文献】
六法は必ず持参すること。

以下二冊は、自分のモチベーションを維持するために参考になる。
　木山泰嗣『弁護士が書いた究極の勉強法』法学書院
　コーンハウザー『大学で勉強する方法』玉川大学出版部

【備考】
準備学習の指示：当たり前のことだが、宿題は必ずすること。宿題はレポートと指定箇所を「読んでくるように」という指示が多いが、教科書のうち特に『マニュアル』の方は、書いてあることを素通りしないように、指定された部分を注意深く読んできてほしい。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　08＜通期＞ 基礎演習　09＜通期＞	
瀬　谷　ゆり子	４単位

【講義概要】
特定の課題について資料を探して検討・整理し、自らの考えを付して、それを口頭および文書の形で発表して他人に伝え、批評を受けるということを体験する。
春学期は、グループでその作業を行う。秋学期は、判例を素材に、一人でそれを読み、整理して報告する作業を通じて、検索・分析・検討する基礎的な力をつける。

【学習目標】
社会科学の基礎的な部分にふれることで、これから法学部でどのようなことを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるのかを感じてもらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるように、構成メンバーが自由に意見交換ができるようにすることを目標にする。

【講義計画】
第１回　演習内容のオリエンテーション。
　　１．課題の設定
　　２．資料の収集方法(図書館における検索の実習を含む)
　　３．グループ報告の手順
　　自己紹介。
第２回　グループ分け、資料の収集方法の説明、六法の使い方等
第３回　図書館ガイダンス
第４回　グループ発表の準備ーレジュメ(報告要旨)の作成方法
第５回　グループ発表の準備ー質問への対応
第６回　グループ発表の準備
第７回　グループ別報告１
第８回　グループ別報告２
第９回　グループ別報告３
第10回　グループ別報告４
第11回　グループ別報告５
第12回　グループ別報告の反省
第13回　グループ別報告の内容に関わるレポートの作成方法
第14回　キャリアセンターによるキャリアアップ講座
第15回　金銭消費貸借契約をめぐる判例研究。割当・方法・資料収集のガイダンス。
第16回　基礎知識の検討ー１
第17回　基礎知識の検討ー２
第18回　基礎知識の検討ー３
第19回　基礎知識の検討ー４
第20回　個別報告１
第21回　個別報告２
第22回　個別報告３
第23回　個別報告４
第24回　個別報告５
第25回　個別報告６
第26回　個別報告７
第27回　個別報告８
第28回　個別報告の反省とまとめ

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　50%　出席　50%
「出席」とは、単に教室に居るだけではなく、授業における報告を含めた発言も不可欠である。

【参考文献】
六法。
その他、テーマにより異なるため、適宜指示します。

【備考】
[事前学習の指示]
こまめに新聞を読む習慣をつけてください。割当の課題が決まったら、グループ発表のテーマと関連する記事を見つけられるようにするためです。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　10＜通期＞	
瀧　澤　仁　唱	4単位

【講義概要】
基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書。論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とし、さらに。事情が許せば、模擬裁判。裁判所・刑務所の見学、情報公開法(条例)利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモティベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。

【学習目標】
法学部に入学した学生にとってまず必要なことは、法学的な思考方法をいかに早く身につけるかである。

【講義計画】
第１回　ガイダンス（基礎演習の意味。基礎演習の進め方）
以下の順序は大学の施設利用の関係などで若干前後することがある。
第２回　各人の法律に関わる問題を２題もちよる。班編制。
第３回　情報検索、発表のしかた学習。
第４回　班による発表。
第５回　班による発表。
第６回　班による発表。
第７回　班による発表。
第８回　班による発表。
第９回　班による発表。
第10回　班による発表。
第11回　班による発表。
第12回　班による発表。
第13回　班による発表。
第14回　班による発表。レポート課題提示。
第15回　班による発表。
第16回　班による発表。
第17回　班による発表。レポート受け取り。
第18回　班による発表。
第19回　班による発表。
第20回　班による発表。
第21回　班による発表。
第22回　班による発表。
第23回　班による発表。
第24回　班による発表。
第25回　班による発表。
第26回　班による発表。
第27回　班による発表。
第28回　班による発表。
第29回　班による発表。
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　20%
授業での発表、受講態度、演習での役割、班内での役割などを加味して単位認定する。

【教科書】
特定のものはない。

【参考文献】
小六法(古いものは、条文が違っていることがあるので最新のものが必要)またはポケット六法

【備考】
準備学習の指示：準備学習として予習を重視するので、指示・配布された教材に常に注意をはらうこと。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　11＜通期＞	
田　中　志津子	4単位

【講義概要】
受け身だけでは身につかない大学での勉強方法、法律科目の学び方、そして将来を見据えた大学生活の送り方等を扱う。

【学習目標】
教員から教えてもらうだけの「受身」の学び方ではなく、文献を調べる等自分から積極的に行動する学び方を身に付ける。
文献収集方法、文献講読方法、レポート・論文の書き方、報告手順、議論の進め方等を学び、大学での教育を有効に習得できるようにする。

【講義計画】
第１回　紹介、受講時の注意
第２回　勉強方法、六法の使い方・読み方①、条文の読み方練習①
第３回　六法の使い方・読み方②、条文の読み方練習②、ノートの取り方
第４回　六法の使い方・読み方③、条文の読み方練習③、法学入門の入門
第５回　議論の方法、レポートの書き方、文献引用方法①
第６回　文献引用方法②、ワープロソフトによる注の付け方等
第７回　図書館利用方法
第８回　ディベート練習準備①
第９回　ディベート練習準備②
第10回　ディベート練習
第11回　就職を考える
第12回　単位と卒業、就職と資格、大学の試験と「答案」
第13回　総復習①
第14回　総復習②
第15回　試験
第16回　グループ報告準備①
第17回　グループ報告準備②
第18回　グループ報告準備③
第19回　グループ報告
第20回　個別報告テーマ選定、レジュメの書き方
第21回　個別報告練習①
第22回　個別報告練習②
第23回　個別報告練習③
第24回　個別報告練習④
第25回　個別報告練習⑤
第26回　個別報告練習⑥
第27回　個別報告練習⑦
第28回　総復習③
第29回　総復習④
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　20%　出席　60%
小テストを実施することがある。その結果は出席点に反映させる。
なお、上記の評価割合は参考である。

【参考文献】
授業時に指示する。

「六法の使い方・読み方」や「個別報告練習」時など、六法を必要とする場合には、必ず各自六法を持参すること。

【備考】
授業計画は変更することがある。

【準備学習の指示】
文章が読めなければ問題も読めない＝問題を解くことができない。文章を読む力は一朝一夕には身につかないため、継続的な努力を要する。そこで、新聞（スポーツ新聞を除く日刊紙（可能であれば全国版））を毎日読むよう習慣づけること（大学でも閲覧可能）。

その他、本授業では次の授業のための準備課題を出すことも多い。各回での指示に従い出された課題を忘れずに、遅れず、やってくること。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　12＜通期＞	
寺　田　友　子	4単位

【講義概要】

法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる

春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方・読み方、文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。道路交通法に基づく自動車運転の安全確保手段等についても理解を深める。

なお、質問等を気楽に行うことができるために演習生相互の親睦は欠かせないものと考えるから、早い時期に昼食会を持ちたい。

夏休みの課題と都してリストアップした最高裁判所民事判例の内から各自一つを選択し、レジュメ又はレポートを作成する。
秋学期に入ると演習時間中にそのレポートを報告する。

他の演習生は報告者に質問し、応答を求めた後、報告された事案につきレポートを毎回書き提出する。このレポートについては毎回添削し返却する。このことにより人の報告を聞いてノートを取る能力を養いたい。

最終的には、自己の報告した判例につき最終レポートを提出する。

【学習目標】

交通事故における加害者は、３つの責任を負う。この概略を理解することは今後の法学学習上重要と考える。また、法の適用過程を刑事責任とともに、民事責任である損害賠償の法理を通じて理解することによって、今後の法学学習に寄与したい。

【講義計画】

第１回　春学期
　　１　ガイダンス・自己紹介
　　図書館ガイダンス、キャリアガイダンスの日程の都合上、下記予定は変更される場合もある。
第２回　文献の探索方法・六法の使い方・昼食会
第３回　図書館ガイダンス
第４回　キャリアガイダンス
第５回　法の適用過程と交通事故をめぐる３つの責任
第６回　刑事責任について
第７回　損害賠償の法理
第８回　最新の最高裁判所判決を素材に判例の読み方を学ぶ
第９回　上記の地方裁判所の判決を読む（１）
　　上記の地方裁判所判決を読む
第10回　上記の地方裁判所の判決を読む（２）
第11回　上記の控訴審判決を読む（１）
第12回　上記の控訴審判決を読む（２）
第13回　上記の最高裁判所判決を読む（２）
　　上記の最高裁判所判決を読む（１）
　　上記の最高裁判所判決を読む（１）
第14回　上記の最高裁判所判決を読む（２）
第15回　夏休み課題について
第16回　夏休みの課題提出と夏休み生活についてのスピーチ、課題報告順序決定
第17回　学生による夏休み課題報告１件
第18回　学生による夏休み課題報告１件
第19回　学生による夏休み課題報告１件
第20回　学生による夏休み課題報告１件
第21回　学生による夏休み課題報告２件
第22回　学生による夏休み課題報告２件
第23回　学生による夏休み課題報告２件
第24回　学生による夏休み課題報告２件
第25回　学生による夏休み課題報告２件
第26回　学生による夏休み課題報告２件
第27回　学生による夏休み課題報告２件
第28回　学生による夏休み課題報告２件
第29回　学生による夏休み課題報告２件
第30回　学生による夏休み課題報告１件・昼食会

【成績評価の方法】

試験　０％　レポート　50％　出席　50％
正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。単位取得の最低条件は毎回出席である。

【教科書】

交通事故判例百選 有斐閣
ポケット六法
毎回六法を持参して受講すること

【参考文献】

損害賠償算定基準等々
適宜紹介する。

【備考】

社会事象に興味を持つことが法学を学ぶ基礎ですから、新聞は欠かさず毎日読んでください。また、小説も法的問題を扱っている和久俊三の探偵小説なども読めば法学の学習に役に立つと思います。
法条文は漢字で規定されていまから、日頃からできるだけ漢字を多用するように心がけてください。読めない漢字等こまめに辞書を引いてください。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　13＜通期＞	
永　水　裕　子	4単位

【講義概要】
この演習は、法学部生として4年間過ごすための基礎的な学習方法と法学部生らしい学習態度を身につけてもらうために、基本書の読み方、判例の読み方、判例や文献の検索の仕方、（可能ならば）判例研究のやり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方（質疑応答もしてもらいます）、ディベートのための準備及びディベートの作法等について実践しながら学習していきます。なお、色々なセンターのガイダンスがありますが、他のゼミも同じガイダンスを受けますので、予約が取れなかった場合は、講義の順番が変わり、授業計画通りにはいかないことがありますが、その点についてはご了承下さい。

【学習目標】
法学部生として4年間過ごすための基礎的な学習方法と法学部生らしい学習態度を身につけて頂くことが目標ですので、積極的な参加が求められます。試験を行いませんので、その分、普段の学習態度、演習への参加態度、レポートや判例をまとめたもの等の提出物で評価いたします。そのつもりで心して演習に臨んでください。

【講義計画】
第1回　イントロダクション
第2回　建学の精神を学ぶ（チャペルにて）
第3回　図書館ガイダンス
第4回　情報センターガイダンス
第5回　ノートのとり方
第6回　基本書の読み方1
第7回　基本書の読み方2
第8回　レジュメの書き方およびプレゼンテーションのやり方
第9回　プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（1）
第10回　プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（2）
第11回　プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（3）
第12回　プレゼンテーションの実践（数人のグループ）（4）
第13回　判例の読み方
第14回　レポートの書き方（1）
第15回　まとめ
第16回　判例のまとめ方および報告（1）
第17回　判例のまとめ方および報告（2）
第18回　判例のまとめ方および報告（3）
第19回　判例のまとめ方および報告（4）
第20回　判例のまとめ方および報告（5）
第21回　判例・文献検索のやり方
第22回　レポートの書き方（2）
第23回　ディベート（1）
第24回　ディベート（2）
第25回　ディベート（3）
第26回　ディベート（4）
第27回　答案作成（1）
第28回　答案作成（2）
第29回　キャリアセンターガイダンス
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　10％　出席　90％
出席の態度、ディベートでの発言等、積極的な参加を希望します。レポート数回。

【教科書】
池田真朗 プレステップ法学

【備考】
＜準備学習の指示＞演習で学んだことを講義でのノートテイクやレポートの書き方等に生かせるように、学んだことを次の講義科目等で実践すること。判例の報告、プレゼンテーション、およびディベートに関しても、積極的に調査を行い、資料等の読み込みをしてから演習に参加すること。

科目名　クラス　講義区分	
基礎演習　14＜通期＞	
松　田　聰　子	4単位

【講義概要】
基礎演習では、これから始まる法学部での学習に必要な、基本的な技術（スキル）を身につける。テキストや判決文の読み方、文献や判例の探し方、レポートの書き方などを体得していく。また、ディベートを通して、他者の意見を聞いて理解したうえで、自分の立場を説得的に話すという技術も学んでいく。裁判所の傍聴や地方検察庁の見学など、法の現場を体験することもできるかぎり実施していきたい。そのため、これらの実施時期によっては授業計画が変更することもある。

【学習目標】
法学を学ぶうえで必要な「読む・書く・話す」力の習得を目標にする。

【講義計画】
第1回　ガイダンス
第2回　コミュニケーションゲーム
第3回　図書館ガイダンス
第4回　情報センターガイダンス
第5回　聴いてまとめる練習
第6回　読んでまとめる練習
第7回　民事訴訟・刑事訴訟・行政訴訟の区分（1）
第8回　民事訴訟・刑事訴訟・行政訴訟の区分（2）
第9回　判決文輪読（1）
第10回　判決文輪読（2）
第11回　キャリアガイダンス
第12回　模擬裁判教室体験
第13回　資料探索
第14回　法学検定試験
第15回　前期まとめ
第16回　裁判傍聴・大阪地検見学（予定）
第17回　「ティーンコート」と裁判員裁判
第18回　ディベート（1）
第19回　ディベート（2）
第20回　ディベート（3）
第21回　ディベート（4）
第22回　ディベート（5）
第23回　ディベート（6）
第24回　ディベート（7）
第25回　ディベート（8）
第26回　プレゼンテーション（1）
第27回　プレゼンテーション（2）
第28回　プレゼンテーション（3）
第29回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　50％　出席　50％

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
課題を期限までに提出できるように、計画をあらかじめたてておくこと。また、復習をして、わからない用語があれば書きだして調べておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－PP（パワーアッププラクティス）講座＜秋＞	
上　野　勝　男	２単位

【講義概要】

この講義は、社会で力強く生きていくために必要な人間基礎力の育成を目標に、キャリアデザインをするのに不可欠な「思考リテラシー」という能力の獲得を目指している。ここでいう「思考リテラシー」とは、課題を発見・分析し、解決する能力のことである。

企業などの講師から、企業理念や過去の経営課題とその解決策をもとに提示されたミッションについて、「企画書」という形で解決を試み、その解決策が企業現場においてどの程度有効なのかを考察し、検討する過程を通して「思考リテラシー」を獲得する。

本講義を通じて社会的関心を高めつつ、社会にある多くの問題を課題として把握することができる能力を養うことを目指す。

【学習目標】

本講義において重要な位置を占めるグループごとのワークショップなどを通じて、「思考リテラシー」を獲得することを目指すのであるが、具体的に獲得できる能力としては、課題発見・解決力、論理的思考力、情報収集・活用力、企画力、プレゼンテーション力などがあげられる。

【講義計画】

第１回　講義ガイダンス：授業内容説明、リーダーおよびチームづくり。
以下は、昨年度の授業スケジュールであるが、本年度についてはガイダンスにおいて提示する。

第２回　第１ミッション：①企業の講師から企業活動で重要視している点、企業理念、職場で実際に見られた経営課題と解決までの道筋の説明後、ミッションの提示。②ミッションについて「徹底分析」作業。③課題解決の切り口発表。

第３回　①企画書づくり。②企画書中間発表１。③論拠づくり検討(宿題：論拠となるデータ収集)。

第４回　①企画書ブラッシュアップ。②Power Point作成。③企画書中間発表２。

第５回　①企画書ブラッシュアップ。②企画書審査会(企業人による審査)。③振り返り。

第６回　第２ミッション：①企業の講師から企業活動で重要視している点、企業理念、職場で実際に見られた経営課題と解決までの道筋の説明後、ミッションの提示。②ミッションについて「徹底分析」作業。③課題解決の切り口発表。

第７回　①企画書づくり。②企画書中間発表１。③論拠づくり検討(宿題：論拠となるデータ収集)。

第８回　①企画書ブラッシュアップ。②Power Point作成。③企画書中間発表２。

第９回　①企画書ブラッシュアップ。②企画書審査会(企業人による審査)。③振り返り。

第10回　第３ミッション：①企業の講師から企業活動で重要視している点、企業理念、職場で実際に見られた経営課題と解決までの道筋の説明後、ミッションの提示。②ミッションについて「徹底分析」作業。③課題解決の切り口発表。

第11回　①企画書づくり。②企画書中間発表１。③論拠づくり検討(宿題：論拠となるデータ収集)。

第12回　①企画書ブラッシュアップ。②Power Point作成。③企画書中間発表２。

第13回　①企画書ブラッシュアップ。②企画書審査会(企業人による審査)。③振り返り。

第14回　振り返り。

第15回　まとめ。

【成績評価の方法】

(１)と(14)に実施する学習の事前・事後における授業効果測定(能力測定)による評価。
毎回講義後に実施する授業参加姿勢調査による評価。
毎回講義後に実施する講義内容定着化のために項目ごとの気づきを書かせるが、気づき内容による評価。
３回のミッションの企画提案の成果物による評価。

【備考】

事前学習の指示
毎回の講義で、次回までに進めておくべき準備あるいは課題についての指示を出します。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－インターンシップ　01＜秋＞	
上　野　勝　男	２単位

【講義概要】

(１)事前研修
オリエンテーション（概要、心構えについて)、エントリーシートの書き方、業界･職種研究、マナーなど、就業体験を行うにあたって必要なことを学びます。(全６回予定)

(２)実習期間
夏期休暇中（５日間)。実習期間中、実習簿を記述し、実習先担当者のチェックを受け、終了後担当者に提出すること。

(３)事後研修
実習結果の報告(パワーポイントを使って、グループごとに実習先企業の方々を前に報告会をおこなう。)

【学習目標】

このインターンシップは、夏休みなどを利用し、企業や官公庁、非営利団体等のさまざまな職場で一定期間就業体験を行う制度です。この就業体験を通して、大学における学びの意義を認識し、学生の自立とキャリア形成を支援する教育プログラムです。

また、実習を通じて、多くの社会人と関わることにより、自分の進路についての問題意識や目的意識を持つことができ、働くことの意義等を考える契機になると思います。

ただ、このインターンシップは、就職先等選択するために行うものではないので、希望する業界、企業等において必ずしも実習できるとは限らないことによく注意してください。

【成績評価の方法】

事前研修、事後研修、実習先からの評価、実習報告書などを含めて総合的に評価する。

【備考】

・08生対象

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－インターンシップ　02＜秋＞	
寺　田　友　子	２単位

【講義概要】

（1）事前研修

オリエンテーション（概要、心構えについて）、エントリーシートの書き方、業界･職種研究、マナーなど、就業体験を行うにあたって必要なことを学びます。（全６回予定）

（2）実習期間

夏期休暇中（５日間）。実習期間中、実習簿を記述し、実習先担当者のチェックを受け、終了後担当者に提出すること。

（3）事後研修

実習結果の報告（パワーポイントを使って、グループごとに実習先企業の方々を前に報告会をおこなう。）

【学習目標】

学生が夏休みなどを利用し、企業や官公庁、非営利団体等のさまざまな職場で一定期間就業体験を行う制度です。この就業体験を通して、大学における学びの意義を認識し、学生の自立とキャリア形成を支援する教育プログラムです。

また、実習を通じて、多くの社会人と関わることにより、自分の進路についての問題意識や目的意識を持つことができ、働くことの意義等を考える契機になると思います。

本学のインターンシップは、就職先等選択するために行うものではないので、希望する業界、企業等において必ずしも実習できるものではありません。

【備考】

就きたい職業について自己分析をして検討しておいてほしい。そのためには、職業等、業界等についても基礎的知識を日頃から蓄えておいてほしい。

・08生対象

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－起業家育成入門　＜春＞	
今　木　秀　和	２単位

【講義概要】

日本経済が成熟して、行き詰まり感が出ている。世界的な金融不安が実体経済に深刻な影響を与える可能性は、各国政府の懸命な財政出動などの政策展開でかなり薄らいだが、それでもなお予断を許さない状況は続く。このような状況においては、むしろ逆に物事を前向きに考えていくことを心掛けるべきなのである。

経済を活性化する大事なポイントは、ピンチをチャンスと捉えて積極的にビジネスを起こそうとする人ができるだけ多く輩出することである。チャレンジすることによって道を切り開こうとする人々に期待するところ大である。

このような期待を学生諸君のような若者に訴えるのがこの半期の講義なのである。起業家活動、ベンチャー企業の経営活動など基本的な知識を講義するとともに起業家精神を鼓舞することを心掛けてやっていきたい。

講義資料を毎回配布する予定である。

【学習目標】

「起業家育成入門」と銘打っている以上、「起業・起業家」について理解をすることがまず目標である。そして「起業家」を育成しようとする目論見を持っているので、受講生達に「起業」のビジネスプランをフレッシュな感覚で立ててもらうのが、次の目標である。知識を実践に結び付けることが大事である。その手はじめに差し当たりビジネスプランに挑戦しよう。

【講義計画】

第１回　起業家とは何か
第２回　ベンチャー企業とは何か
第３回　ベンチャー企業の起業プロセス
第４回　ベンチャー企業の経営戦略
第５回　ベンチヤー企業の組織
第６回　ベンチャー企業の資金調達
第７回　ベンチャー企業の上場とコーポレート・ガバナンス
第８回　ベンチャーキャピタルの役割
第９回　ベンチャー企業のマーケティング戦略
第10回　起業家の育成
第11回　インキュベーション
第12回　会社設立と起業の実践
第13回　スタートアップの事例１
第14回　スタートアップの事例２
第15回　スタートアップの事例３

【成績評価の方法】

起業・起業家についての知識を試験で判定します。

この講義が「起業家育成入門」である以上、実際に「起業」すると仮定してビジネスプランを作成し、レポートに纏めてもらいます。

知識とビジネスプランの比重は半々とする。

毎回出席をとるので、知識・ビジネスプラン・レポート・出席を総合的に判断して成績をつける。

【教科書】

毎回講義資料を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

【準備学習・家庭学習の指示】常日頃身辺・世の中の動きに目配りし、ビジネス・チャンスの芽を探求する姿勢が必要である。メモ用紙を常に携帯しアイデアを記入することがこの講義の準備学習である。

講義資料は毎回配布する予定である。配布した講義資料と講義で話した内容を家庭学習として復習し、メモ用紙に記入したアイデアと突き合わせることを奨励する。

・08～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
キャリア教育科目－企業人に学ぶ　＜秋＞	
信　夫　千佳子	２単位

【講義概要】
企業人の講師と参加者との具体的な講話やデスカッションを通して、企業や仕事の実態について学び考えることを主な目的としている。したがって、毎回、遅刻せずに出席することが求められる。
講義は、原則として、土曜日の午後３コマ連続で、５回実施する予定。毎回、企業人講師は入れ替わる。受講資格は、３回生限定である。20名程度の少人数で予定しているので、希望者が多数の場合は、選抜もありうる。詳細は、６月頃掲示する。

【学習目標】
参加型の授業において、企業の実態について知るだけでなく、自らの能力・可能性に気づき、行動できるようになることが目標である。ついては、受動的な受講態度ではなく、自から意見や質問を発信するという積極的な受講態度が望まれる。

【講義計画】
第１回　業界および企業の実態－企業人の講話－
第２回　業界の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第３回　職場の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第４回　業界および企業の実態－企業人の講話－
第５回　業界の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第６回　職場の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第７回　業界および企業の実態－企業人の講話－
第８回　業界の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第９回　職場の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第10回　業界および企業の実態－企業人の講話－
第11回　業界の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第12回　職場の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第13回　業界および企業の実態－企業人の講話－
第14回　業界の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－
第15回　職場の問題の発見とそれへの対処－ディスカッション－

【成績評価の方法】
出席、発言、レポートを総合的に判断する。

【教科書】
使用しない。

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
準備学習の指示：原則として、経営学関係の単位を１科目以上修得していること。講義予定の企業情報を調べてから、授業にのぞんでください。遅刻せずに毎回出席してください。ただし、特別な事情があった場合は、考慮します。
・インテグレーション科目
・08生対象

科目名　クラス　講義区分		
キャリア教育科目－キャリアデザインⅠ		
野　口　由輝子 野　口　由輝子 野　口　由輝子 前　川　　明 中　山　一　郎 中　山　一　郎	01＜通期＞ 02＜通期＞ 03＜通期＞ 04＜通期＞ 05＜通期＞ 06＜通期＞	４単位

【講義概要】
キャリアデザインⅠでは、社会人生活の前哨戦でもある大学生活を、受講生一人ひとりが充実したものにしていき、将来なりたい自分に近づくためのきっかけ作りを進めていきます。春学期は大学生活になれること、自分を知ること、また夏休みのフィールドワーク（働く社会人へのキャリアインタビュー）を実施するにあたり、大学生の心構えを習得してきます。秋学期は、夏休みのフィールドワークの報告会を実施し、社会で必要となる力のうち、特に大学生の課題である、「コミュニケーション力・発信力」を重点的に習得していきます。

【学習目標】
夏休みのフィールドワークやグループディスカッション等を通じて、学生生活を具体的に充実させるための手法を学び、主体的に考え抜き、現実的に行動していけることを目指します。同時に、キャリアデザインに必要な知識の習得とスキル開発を実施していきます。

【講義計画】
第１回　キャリアデザインとは
第２回　大学生になる心構え
第３回　大学生になる基礎知識
第４回　大学生のルール
第５回　大学での学びとは
第６回　学びの方法を知る
第７回　自分を知る(自己発見レポートの結果を使用します)
第８回　学びと社会(自己発見レポートの結果を使用します)
第９回　将来を考える(自己発見レポートの結果を使用します)
第10回　夏休みのフィールドワークについて①
第11回　夏休みのフィールドワークについて②
第12回　夏休みのフィールドワークについて③
第13回　夏休みのフィールドワークについて④
第14回　夏休みのフィールドワークについて（まとめ）
第15回　モチベーションアップと夏休みまでの振り返り
第16回　フィールドワークの報告会①
第17回　フィールドワークの報告会②
第18回　働くとは？
第19回　学びを活かす社会の広がり①
第20回　学びを活かす社会の広がり②
第21回　社会を知る（業界・職種・会社のしくみ）
第22回　先輩からのお話(予定)
第23回　将来の自分をイメージする
第24回　自己プログレスレポート
第25回　プレゼンテーションのコツ
第26回　プレゼンテーション①
第27回　プレゼンテーション②
第28回　キャリアデザインを考える（自己プログレスレポートの結果を使用します）

【成績評価の方法】
出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。
特に夏休みのフィールドワークの参加は評価において大きなウェートを占めます。

【教科書】
㈱ベネッセコーポレーション　マイキャリアノートナビゲーション
㈱ベネッセコーポレーション

【参考文献】
講義中に適宜指示します

【備考】
自己発見レポート(入学時に実施するアセスメント)
Will　Press（入学時に配布するパンフレット）
必要に応じてプリント配布
・09～10生対象